2015年度授業日一覧

□の祝日は授業開講日

【前　期】		月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2015年	第1回	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月10日	4月11日
	第2回	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月17日	4月18日
	第3回	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	4月24日	4月25日
	第4回	5月11日	5月12日	5月13日	5月7日	5月1日	5月2日
	第5回	5月18日	5月19日	5月20日	5月14日	5月8日	5月9日
	第6回	5月25日	5月26日	5月27日	5月21日	5月15日	5月16日
	第7回	6月1日	6月2日	6月3日	5月28日	5月22日	5月23日
	第8回	6月8日	6月9日	6月10日	6月4日	5月29日	5月30日
	第9回	6月15日	6月16日	6月17日	6月11日	6月5日	6月6日
	第10回	6月22日	6月23日	6月24日	6月18日	6月19日	6月13日
	第11回	6月29日	6月30日	7月1日	6月25日	6月26日	6月20日
	第12回	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月3日	6月27日
	第13回	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月10日	7月4日
	第14回	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月17日	7月18日
	第15回	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月24日	7月25日

【後　期】		月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2015年	第1回	9月28日	9月29日	9月30日	9月24日	9月18日	9月19日
	第2回	10月5日	10月6日	10月7日	10月1日	9月25日	9月26日
	第3回	10月12日	10月13日	10月14日	10月8日	10月2日	10月3日
	第4回	10月19日	10月20日	10月21日	10月15日	10月9日	10月10日
	第5回	10月26日	10月27日	午後 10月28日 午前 11月4日	10月22日	10月16日	10月17日
	第6回	11月9日	11月10日	午後 11月4日 午前 11月11日	10月29日	10月23日	10月24日
	第7回	11月16日	11月17日	午後 11月11日 午前 11月18日	11月5日	11月6日	11月7日
	第8回	11月23日	11月24日	午後 11月18日 午前 11月25日	11月19日	11月13日	11月14日
	第9回	11月30日	12月1日	午後 11月25日 午前 12月2日	11月26日	11月20日	11月21日
	第10回	12月7日	12月8日	午後 12月2日 午前 12月9日	12月3日	11月27日	11月28日
	第11回	12月14日	12月15日	午後 12月9日 午前 12月16日	12月10日	12月4日	12月5日
	第12回	12月21日	1月5日	1月6日	12月17日	12月11日	12月12日
2016年	第13回	1月4日	1月12日	1月13日	1月7日	12月18日	12月19日
	第14回	1月18日	1月19日	1月20日	1月14日	1月8日	1月9日
	第15回	1月25日	1月26日	1月27日	1月21日	1月22日	1月23日

目　　次

建学の精神・教育理念

建学の精神・教育理念・
人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、
カリキュラム・ポリシー …… 3

学部共通事項

履　　修

授業 …… 10
授業科目の構成と単位制度 …… 14
履修計画・履修指導
（アカデミック・アドバイザー制度） …… 16
履修登録 …… 19
試験 …… 27
成績評価 …… 32
卒業の要件・卒業論文等 …… 35

海外短期研修・留学・国内留学

海外短期研修・留学 …… 38
国内留学 …… 43

学部教育課程

共通科目

共通科目 …… 47
基礎教養科目 …… 48
総合課題科目 …… 49
語学科目 …… 56
英語プレイスメント・テスト …… 58

文　学　部

文学部 …… 78
英語英米文学科／英文学科 …… 81
日本語日本文学科／日本文学科 …… 91
コミュニケーション学科 …… 98
社会調査士資格認定 …… 107

国際交流学部

国際交流学部国際交流学科 …… 110

音楽学部

音楽芸術学科 …… 126
演奏学科 …… 132

外国人留学生

外国人留学生の履修 …… 146
日本語プレイスメント・テスト …… 150

単位認定・単位互換

単位認定・単位互換 …… 152

学　　籍

修業年限及び在学期間 …… 160
休学 …… 160
復学・退学・除籍・留学 …… 161
転学部・転学科・再入学 …… 162

資　料　編

組織 …… 164
フェリス女学院大学の沿革 …… 165
専任教員一覧 …… 167
役職者 …… 169
教務主任・教務委員、教務責任者、
科目責任者・語学責任者 …… 170
2015年度の主な制度変更 …… 171

索　　引 …… 176

建学の精神・教育理念

建学の精神

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。

フェリス女学院大学の学則第1条にも、「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする」と明記されています。

教育理念

さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

この言葉は「他者のために」と訳すことができます。自分やちかしい人だけではなく、より広い視野から他者の存在をも考えに入れて、他者のために行動することを、本学で学ぶ一人一人が受け継いでいます。

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

フェリス女学院大学では、人材養成目的、ディプロマ・ポリシー *、カリキュラム・ポリシー ** を次のように定めています。

ディプロマ・ポリシーは大学から社会に対する約束です。学士課程を修了する時点で最低限できるようになっていることを表しています。したがって、ディプロマ・ポリシーは、卒業時には必ず達成されなければなりません。

カリキュラム・ポリシーは、この達成のために学生が体系性と整合性が担保されたカリキュラムで学べるよう定めるものです。

これら大学としての人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、各学部、学科でさらに具体化されています。該当ページを参照してください。

大学全体

◆人材養成目的

キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成する。（学則第1条）

◆ディプロマ・ポリシー

体系的な専門知識を修得するとともに幅広い教養を身に付け、キリスト教を基盤とした「For Others」の精神のもとに、さまざまな課題に立ち向かい、社会に貢献できる能力をもつ者に学士の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

「For Others」の教育理念のもとに、自主性と対話を重視した少人数教育を行う。学生の多様な関心と学習意欲に応えるために十分な授業科目を用意し、専門分野に関する体系的な知識を得させるとともに、専門分野を越えた幅広い教養を修得させる。

各学部、学科

次の該当ページを参照してください。

文学部 ……p.77
　英語英米文学科／英文学科 ……p.81
　日本語日本文学科／日本文学科 ……p.91
　コミュニケーション学科 ……p.98
国際交流学部 …… p.109
　国際交流学科 …… p.110
音楽学部 …… p.125
　音楽芸術学科 …… p.126
　演奏学科 …… p.132

学部共通事項

履　修

海外短期研修・留学・国内留学

学部教育課程

共通科目

文学部

国際交流学部

音楽学部

外国人留学生

単位認定・単位互換

学　籍

資料編

学部共通事項

履修

海外短期研修・留学・国内留学

履　修

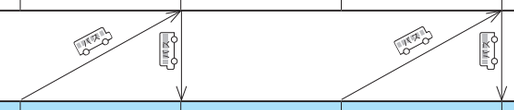
履　　修

授　業

授業時間

緑園校舎

第１時限	第２時限	礼拝（月～金）	第３時限	第４時限	第５時限
9：00 ～ 10：30	10：40 ～ 12：10	12：20 ～ 12：40	13：10 ～ 14：40	14：50 ～ 16：20	16：30 ～ 18：00



山手校舎

第１時限	第２時限	礼拝（木）	第３時限	第４時限	第５時限
9：10 ～ 10：40	10：50 ～ 12：20	12：30 ～ 13：00	13：50 ～ 15：20	15：30 ～ 17：00	17：10 ～ 18：40

スクールバス

両キャンパスを１日に２往復しています。定員：26名

各便の発着予定時間は次のとおりです。

① 山手６号館（12：25発）→山手４号館（12：30頃着）→緑園正門横（13：05頃着）

② 緑園正門横（13：10発）→山手６号館（13：40頃着）→山手４号館（13：45頃着）

③ 山手６号館（15：35発）→山手４号館（15：40頃着）→緑園正門横（16：15頃着）

④ 緑園正門横（16：30発）→山手６号館（17：10頃着）→山手４号館（17：15頃着）

年間運行日は、バス停に掲示します。授業期間外は運休です。

休　講

大学又は各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassport、掲示にて周知します。

休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当者が入室しない場合は、自然休講とします。

休講についての電話照会には応じません。

全学休講措置

交通機関不通の場合

ストライキ、台風又は事故等による交通機関不通の場合、各校舎において次のような措置をとります。

午前6時までに復旧している	平常どおり授業実施
午前10時までに復旧している	1・2限休講
午前10時までに復旧していない	終日休講※1

※1　授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

対象となる交通機関
　緑園校舎：相模鉄道線
　山手校舎：JR根岸線及びみなとみらい線※2
　※2　山手校舎については、両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

神奈川県下に暴風警報、暴風雪警報又は特別警報が発令された場合

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります（警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」(045－177）発表のものとします)。

また、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に特別警報（大雨、暴風、暴風雪及び大雪）が発令された場合も、上記に準じます。

休講措置をとる場合は、本学Webサイト、FerrisPassport及び緊急連絡システムにて周知します。

午前6時までに警報が解除されている	平常どおり授業実施
午前10時までに警報が解除されている	1・2限休講
午前10時までに警報が解除されていない	終日休講※1

※1　授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

新型インフルエンザが流行した場合

新型インフルエンザが流行し、厚生労働省から新型インフルエンザ対策行動計画が緑園・山手両キャンパスの近隣地域で発令された場合は、感染防止のため、発令が解除されるまで終日休講とします。

大規模地震の警戒宣言が発令された場合

大規模地震の判定会※1が招集された場合や警戒宣言等が発令された場合には、休校とします。警戒宣言等が解除された時の授業再開については、交通機関が不通になった場合に準じます。

※1「大規模地震対策特別措置法」に基づく「地震防災対策強化地域判定会」

補　講

大学又は各授業担当者のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則 として補講を行います。また、担当者の判断により補講を実施することがあります。

補講情報は、FerrisPassport、掲示によって通知します。担当者から直接指示があった場合、その指示に従ってください。

授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当者に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「感染症罹患届」又は「欠席届」の手続きを受け付けますので、速やかに申し出てください。出欠の扱いは各授業担当者の判断に委ねられています。

	欠席理由・状況	取扱窓口	必要書類	備　　考
①	感染症にかかった	教務課	「診断・登校許可証明書」または「医師の診断書」(出席停止期間が確認できるもの)	※2を参照。
②	傷病等の理由により、２週間以上続けて欠席する	教務課	「医師の診断書」等、欠席理由・期間を証明できるもの	
③	忌引	教務課	欠席日を確認できる「会葬礼状」等	※3を参照。
④	裁判員に選任され、審理に参加する	教務課	裁判所が発行する証明書	裁判員に選任され、審理に参加するために授業を欠席する場合。
⑤	その他特別な事情により、2週間以上続けて欠席する	教務課	理由を証明する書類	

※2　感染症にかかった場合

学校感染症（学校保健安全法第3章18条）にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。医師の許可がでたら、必要書類を教務課に提出してください。

学校感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群、インフルエンザ、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

※3　忌引の場合

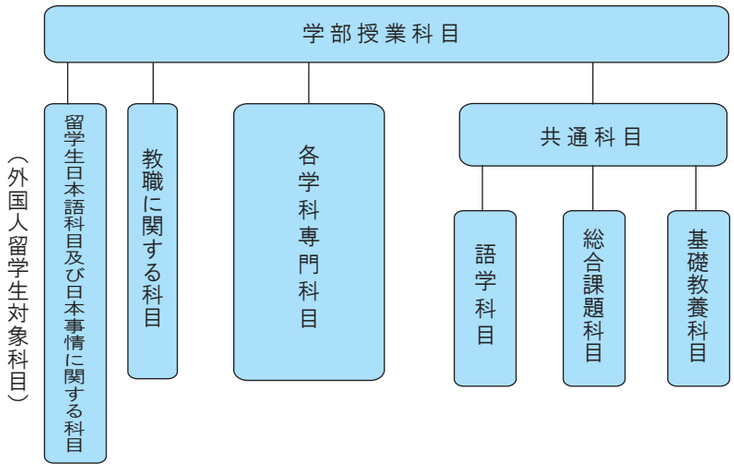
次の続柄の親族が亡くなった場合は、必要書類をもって教務課に申し出てください。忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。日数には、土日・祝日を含みます。

続　　柄	忌引日数
配偶者、父母、子	連続７日以内
配偶者の父母	連続５日以内
祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹	連続３日以内

授業科目の構成と単位制度

授業科目の構成

学部の授業科目群は、次の区分で構成されています。



また、各授業科目は、次のように分類されます。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	一定の科目群の中から選択し、指定された方法で必ず修得しなければならない科目
選択科目	指定された科目群の中から自由に選択して修得する科目

単位制度

単位を修得するには

授業科目の単位の認定のためには、履修登録を行い、毎回の授業に出席し、試験、レポート、平常点評価等により合格すること、すなわち授業科目の到達目標を達成することが必要です。

→大学HP 大学学則第12条、第14条

履修計画
各学期に登録できる上限の範囲内で科目履修を計画する。

→

履修登録
期間内に手続きが完了していないと授業に出席し、試験を受けても単位認定されません。

→

授業出席・試験
担当教員の指示するレスポンスシートやレポート、課題の提出、試験の受験など。

→

成績評価
シラバスに記された成績評価方法により評価される。

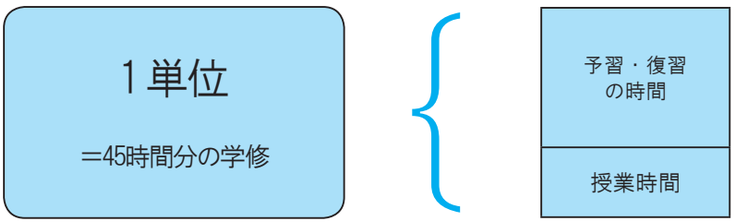
→

単位認定
授業科目の到達目標達成により合格すると単位が付与される。

＊授業の出席
　学則第13条に「学生は、履修授業科目について3分の2以上出席しなければ、当該授業科目の試験を受けることができない。」と定められていますが、言うまでもなく3分の1は欠席してもさしつかえないという意味ではありません。また、平常点とは単に出席（教室にいること）を指すのではなく、授業態度やグループワークでの参加度、レスポンスシートの内容などを含みます。

単位制度とは

卒業のために何をどれだけ学修すべきかを定めたルールの一つが単位制度です。
1単位は45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされています。
この1単位修得に必要な「45時間の学修」には、毎回の授業時間のほかに、授業外学習（予習・復習などの自習時間）が含まれています。

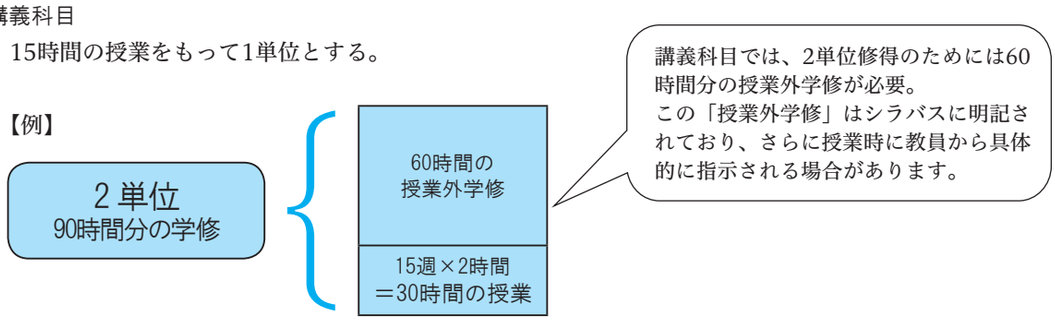


単位の計算

授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。
なお、本学では1回（90分）の授業を　2時間　として計算しています。

講義科目
15時間の授業をもって1単位とする。

【例】



演習科目
15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

実技、実習及び実験科目
30時間から45時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
ただし、音楽部学部における個人指導による実技については、別に定める。

履修計画・履修指導

アカデミック・アドバイザー制度

1．制度の概要

本学では、学生一人一人が素質や可能性を最大限に生かし、充実した学修生活を送ることを目的として、専任教員による「アカデミック・アドバイザー制度」を実施しています。

アカデミック・アドバイザーは、大学における身近な存在として学修全般の指導を行い、みなさんの学生生活を支援します。また、在学中、成績不振に陥った場合には、個別相談や履修指導をとおして共に原因解決に取り組みます。

2．担当者

アカデミック・アドバイザーは全て専任教員が担当します。原則として、下記の科目担当者がアカデミック・アドバイザーとなります。科目担当者が非常勤講師の場合は、担当者に代わり専任教員（各学科教務委員）がアカデミック・アドバイザーとなります。

<table>
<tr><th rowspan="2">学部</th><th rowspan="2">学科</th><th colspan="2">1年次</th><th colspan="2">2年次</th><th colspan="2">3年次</th><th colspan="2">4年次</th></tr>
<tr><th>前期</th><th>後期</th><th>前期</th><th>後期</th><th>前期</th><th>後期</th><th>前期</th><th>後期</th></tr>
<tr><td rowspan="3">文</td><td>英語英米文学科／
英文学科</td><td colspan="4" rowspan="3">1年次前期
「R&R(入門ゼミ)」担当者</td><td colspan="4" rowspan="2">3年次前期
「専門ゼミ A」
担当者</td></tr>
<tr><td>日本語日本文学科／
日本文学科</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション学科</td><td colspan="4">3年次前期
「専門ゼミ Ⅰ A」
担当者</td></tr>
<tr><td>国際
交流</td><td>国際交流学科</td><td>1年次前期
「導入演習」
担当者</td><td>1年次後期
「基礎演習」
担当者</td><td>2年次前期
「基礎演習」
担当者</td><td>2年次後期
「基礎演習」
担当者</td><td colspan="4">3年次前期
「専門演習」
担当者</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音楽</td><td>音楽芸術学科</td><td colspan="4">音楽芸術学科専任教員</td><td colspan="4">3年次前期
「専門ゼミ Ⅰ」
担当者</td></tr>
<tr><td>演奏学科</td><td colspan="8">演奏学科専任教員</td></tr>
</table>

3．面談の実施

(1) 学期始めの面談日（4月・9月）

学期の始めにアカデミック・アドバイザー面談日を設けています。学期ごとの対象者、実施時間等については、FerrisPassport の掲示にてお知らせします。

なお、特別指導対象となった学生は、必ずアカデミック・アドバイザーの面談を受けたうえで、次学期に臨んでください。

(2) オフィス・アワー

オフィス・アワーとは、専任教員の個人研究室等を訪ね、相談できる時間帯です。履修や学びに関することだけでなく、学生生活や将来の進路に関することについて気軽に相談し、助言を受けることができます。非常勤講師については、授業前後の休み時間などを利用して相談することができます。

教員時間割表（Ferris Passport ＞時間割＞教員時間割表 ）で相談を希望する教員のオフィス・アワー実施時間・場所を確認してください。連絡手段のある場合は、事前に連絡をとることをお勧めします。

履修登録できる単位数の上限（CAP 制）

十分な学修時間を確保するため、1学期に履修登録できる単位数には上限を設けています。これを CAP 制といいます。

2012年度以降入学者

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学部	24	24	24	24	24	24	24	24
2年次編入学者	−	−	24	24	24	24	24	24
3年次編入学者	−	−	−	−	24	24	24	24
特別指導対象学生	−	17	17	17	17	−	−	−

編入学者がこの上限の対象となるのは次の年度からです。

2年次編入学者：2013年度以降入学者

3年次編入学者：2014年度以降入学者

2011年度以前入学者

2014年度学生要覧を参照してください。

登録できる単位数のルール

(1) 登録できる単位数の算出方法

下記の条件で算出され、上限を超えた履修登録はエラーとなります。

上限に含まれる	①通常の授業期間に開講される科目すべて ②卒業要件に算入されない授業科目（教職に関する科目等） ③単位互換制度による履修科目（横浜市内単位互換、同志社女子大学、放送大学）
上限に含まれない	集中講義科目、海外短期研修等の科目 詳細は、学期始めに FerrisPassport に掲示します。

(2) 通年科目の取扱い

卒業論文等、通年科目の単位は1／2ずつ各学期の履修登録単位数に加算されます。

(3) 特別な事由がある場合

特別な事由により、3年次生・4年次生にはこの上限を超えて履修登録することが認められる場合があります。

希望する者は、所定の手続きによって申請してください。

【手続き】

提出書類	①履修登録上限超過願 ②前学期の成績照会画面コピー
対 象 者	卒業延期が確定するなど特別な事由がある3・4年次生 かつ、十分な学修時間を確保できる者
提出期限	履修登録期間最終日の前日まで 前期　2015年4月15日（水）18：00 後期　2015年9月30日（水）18：00
注　　意	①には、所属学科の教務主任または教務委員の確認印（または署名）が必要です。 提出期限までに整えること。

責任ある履修とは

学生には、登録した科目に対して最後まで責任をもって履修を続けることが求められます。

登録期間終了後に、取消を希望する科目がある場合は、登録取消制度を利用することができます。ただし、手続期間や取り消しできない科目等をよく確認してください。（p.26「登録取消」参照）

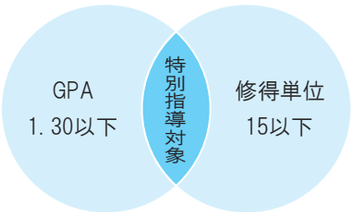
成績評価

学修の成果は、修得した単位数と共に、その成績評価を数値化した GPA により評価されます。GPA は成績レベルを質的に計る指標となります。たとえば、登録単位数が多くとも、修得した単位数が少ない場合、GPA は必然的に低くなります。（p.32「GPA 制度」参照）

特別指導対象学生

(1) 対象者

次の条件に該当する学生には、特別指導という形で学修支援を行います。



1・2年次前期・後期いずれかの学期に
GPA1.30以下　かつ　修得単位15以下であった学生

特別指導対象学生となった学期の成績が、GPA1.31以上または修得単位が16以上となった場合、次の学期は特別指導対象学生ではなくなります。

(2) アカデミック・アドバイザーの役割

アカデミック・アドバイザーは、次の学期始めに対象学生と前学期 GPA が低かった理由などを共に考え、その後毎月1回定期的に面談し、学修支援を行います。なお、学修面以外の悩み等に及ぶ場合には、本人了承のうえ学生支援センター又は保健室に紹介するなどの対応をしています。

(3) 履修登録の上限

最後まで履修を続けられるよう、その学期の履修登録の上限を17単位とします。（学期途中に休学した場合、復学後の学期においてはこの17単位の履修登録の上限は適用しません。）

(4) 保証人への報告

対象学生の保証人に対しては、アカデミック・アドバイザーとの相談によって、前学期成績不振であったこと、今学期特別指導による学修支援が行われること等を書面で知らせます。

また、指導実施後、その報告書を保証人に送付します。

(5) 学生・保証人面談

2学期以上連続して特別指導の対象となった学生を対象に、アカデミック・アドバイザーが必要と判断した場合には、成績不振の理由や卒業までの履修計画、退学も含めた進路を視野に入れて今後の方針を話し合います。

履 修 登 録

2015 年度　履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3 月末 （2014 年度後期分）	9 月 11 日（金） （2015 年度前期分）	p.34 参照
アカデミック・アドバイザー面談 （希望者、特別指導対象者） 後期は4年次生全員	4 月 7 日（火）	9 月 15 日（火）	p.16 参照
成績評価確認願 （希望者のみ）	～ 4 月 10 日(金)18:00	～ 9 月 24 日(木)18:00 ※卒業学期生は p.36 参照	p.34 参照
履修計画	■登録単位数の上限----------p.17 参照 ■所属学科カリキュラムの理解（共通科目）----------各該当箇所を参照 ■所属学科カリキュラムの理解（専門科目）----------各該当箇所を参照 ■年次・クラス指定 ----------p.20 参照 ■再履修 ----------p.20 参照 ■同一科目の重複履修 ----------p.20 参照 ■他学部・他学科科目の履修 ----------p.21 参照 ■教職科目の履修 ----------p.22 参照 ■集中講義の履修 ----------p.22 参照 ■人数制限のある科目・事前手続が必要な科目----------p.23 参照		
履修登録	4 月 7 日(火) 9:00 ～ 4 月 8 日(水) 16:30 4 月 9 日(木) 16:00 ～ 4 月 16 日(木) 23:59	9 月 15 日(火) 9:00 ～ 9 月 16 日(水) 12:00 9 月 17 日(木) 13:00 ～ 10 月 1 日(木) 18:30	p.24 参照
履修者数制限科目 希望受付	4 月 7 日(火) 9:00 ～ 4 月 8 日(水) 16:30	9 月 15 日(火) 9:00 ～ 9 月 16 日(水) 12:00	p.24 参照
履修者数制限科目 履修許可者発表	4 月 9 日(木)	9 月 17 日(木)	p.24 参照 発表は FerrisPassport 及び教務課掲示板で行います。
授　業　受　講　開　始			
履修登録確認・訂正申告	4 月 17 日(金) 13:00 ～ 4 月 23 日(木) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7 日以内(土日を含む)	10 月 2 日(金) 9:00 ～ 10 月 8 日(木) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7 日以内(土日を含む)	p.25 参照 この期日を過ぎた申し出は理由の如何を問わず一切認められません。
遅延登録(注)・ 履修科目取消（希望者のみ）	4 月 17 日(金) 13:00 ～ 4 月 23 日(木) 18:00	10 月 2 日(金) 9:00 ～ 10 月 8 日(木) 18:00	
履修登録 （集中講義、海外語学実習等 希望者のみ*）	6 月 25 日(木) 9:00 ～ 6 月 29 日(月) 18:00	11 月 25 日(水) 9:00 ～ 11 月 27 日(金) 18:00	p.22 参照 この期間を過ぎての遅延登録、履修取消は一切認められません。

*集中講義科目や海外短期研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目とは別に設定されています。
（注）：大学が認める理由に該当した場合は遅延手数料が免除されます。

履修上の注意

大学では、学生が自らの責任において各自の学修計画を立て、所定の履修方法に基づいて単位を修得しなければなりません。履修に当たっては、定められた履修方法や履修登録方法に十分注意する必要があります。

1．履修年次

履修年次が指定されている授業科目は、その年次において履修してください。

2．クラス指定及び変更手続

クラスを指定して開講されている授業は、指定クラスにおいて履修してください。語学科目のクラス指定については、「語学科目」（pp.55～76）を参照してください。

必修科目の重複によりやむを得ずクラスを変更する必要がある場合は、次の手続を行わなければなりません。

（1）キリスト教Ⅰクラス

原則として、クラス変更を認めません。ただし、キリスト教科目責任者（p.170）が特に認めた場合は、「クラス変更願」（教務課備付）を提出することができます。

（2）初習外国語クラス

当該言語の語学責任者（p.170）と変更先のクラスの担当者に申し出て、了承を得てください。

（3）英語クラス

原則としてクラス変更を認めません。ただし、英語の語学責任者（p.170）が特に認めた場合は、(2)と同様の手続によって変更が認められます。必ず履修相談を受けてください。

（4）その他の授業科目のクラス

履修登録以前に各自が所属する学科の教務委員（p.170）と変更先のクラスの担当者に、その旨申し出て了承を得てください。

上記の手続を経ないクラス変更は、認められません。

3．再履修

再履修とは、履修した授業科目の単位を修得できなかった場合に、その科目を改めて履修することをいいます。再履修にあたって、履修登録とは別の手続きが必要になる場合がありますので、各科目の履修方法にしたがってください。

4．同一授業科目の重複履修

同一授業科目を重複履修することは原則として認められません。ただし、学科等がカリキュラム上有益と定めた科目については、重複履修が可能です。重複履修可能な科目は「開講科目表」中に網かけ［　　］表示されています。

5．他学部・他学科の専門科目の履修

（1）専門科目の他学部・他学科開放

開講科目表の「開放」欄に次の表示がある科目は、他学部または他学科の学生でも履修可能な科目で、卒業に必要な単位として算入されます。

表示	意　　味	単位が算入される科目区分
▲	他学部・他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目
■	他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目

（2）音楽学部実技科目の他学部・他学科開放

他学部・他学科の学生が履修可能な科目のうち、以下の科目は別途手続きが必要です。

なお、基礎教養科目「音楽実技 A，B」については、p.54を参照してください。

①レッスン科目

レッスン科目	時間数	実技料	履修手続
PA 副科個人実技 A,B	30分×15回	100,000円	申込時期：履修学期の前学期 詳細は掲示を確認してください。
PA 副科グループ実技 A，B（バレエ）	90分×15回	30,000円	
PA 第2専攻グループ実技（バレエ基礎）A,B	90分×30回（週2回）	60,000円	
PA 第2専攻グループ実技（バレエ応用）A,B	90分×45回（週3回）	90,000円	

②クラス授業の実技科目

レッスン科目	注意事項
弦楽アンサンブル A,B	・オーディションが課せられます。 ・履修前提条件はシラバスで確認してください。
管楽アンサンブル A,B	
フルートアンサンブル A,B	

（3）3・4年次演習（ゼミ）科目等の他学部・他学科開放

各自が所属する学部・学科が定める3・4年次演習（ゼミ）科目及び卒業論文等に代えて、他学部・他学科の3・4年次演習（ゼミ）科目及び「卒業論文」を履修することが可能です。なお、演奏学科生は所属学科が定める3・4年次必修科目に加えて、他学部・他学科の3・4年次演習（ゼミ）科目及び「卒業論文」を履修することが可能です。

申込対象者：2015年度2年次生のみ

他学部・他学科に開放する演習（ゼミ）科目等は次のとおりです。

学部	学　　科	他学部・他学科に開放する科目
文	英語英米文学科	「英米文化専門ゼミ A, B」 「英米文化卒論ゼミ A, B」「卒業論文」
	日本語日本文学科	「日本言語文化専門ゼミ A, B」 「日本言語文化卒論ゼミ A, B」「卒業論文」
	コミュニケーション学科	「コミュニケーション専門ゼミⅠ A, Ⅰ B」 「コミュニケーション専門ゼミⅡ A, Ⅱ B」 「卒業論文・卒業制作」
国際交流	国際交流学科	「専門演習」「卒業論文」
音　　楽	音楽芸術学科	「専門ゼミⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」「卒業プロジェクト」

手続の日程及び受け入れ人数・条件等詳細については、掲示でお知らせします。質問がある場合には、教務課に問い合わせてください。

6．「教職に関する科目」の履修

「教職に関する科目」のうち、開講科目表の「開放」欄に「▲」と表示してある授業科目（「教育原理」「教育思想」「教育心理学」「教育社会学」）は、教育職員免許状取得希望の有無にかかわらず、当該科目を履修し卒業に必要な単位とすることができます。

（「教職に関する科目開講科目表」参照）

7．集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。

（1）日程

集中講義科目の日程は、次のように定められています（一部科目を除く）。

前期	集中講義期間（第1ターム）	2015年8月4日（火）～8日（土）
	集中講義期間（第2ターム）	2015年8月31日（月）～9月4日（金）
後期	集中講義期間（第1ターム）	2016年2月6日（土）、8日（月）～10日（水）、12日（金）
	集中講義期間（第2ターム）	2016年3月1日（火）～5日（土）

科目ごとの日程の詳細は、掲示によって発表します。

（2）授業時間

集中講義期間中に限り、緑園校舎、山手校舎の授業時間が同一となります。

緑園・山手校舎授業時間

時限	授業時間
1	9:00～10:30
2	10:40～12:10
3	13:10～14:40
4	14:50～16:20
5	16:30～18:00

（3）注意事項

① 卒業年次生は卒業学期に集中講義期間（第2ターム）の科目を履修することはできません。

② 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。

③ 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中講義科目を履修することはできません。

④ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。（p.26「登録取消」参照）

⑤ ④以外の理由により、履修を取り消すことはできません。

⑥ 集中講義科目は、各学期に履修登録可能な単位数には含まれません。

（p.17「登録できる単位数の算出方法」参照）

人数に制限のある科目・事前に手続が必要な科目の履修

種類	開講科目表の表記	事前手続	履修登録	注意事項
履修者数制限科目	◆	必要	自動*1	履修希望者は、各学期の所定の日時に FerrisPassport で履修希望申込をしてください。履修優先順位に従い、大学が履修者の選抜及び履修登録を行います。選抜された科目の履修取消はできません。
学科選抜科目	学	必要	自動*1	学科等でクラス分けや履修者の決定を行う科目については、各学科等の指示に従って手続きをしてください。学科等の選抜結果に従って、大学が履修登録を行います。
初回授業時選抜科目	初	不要	各自*2	初回授業時に担当教員が選抜を行います。履修を希望する学生は初回授業に必ず出席して、担当教員の指示を受けてください。選抜の結果履修が許可されなかった科目をすでに FerrisPassport で履修登録を行っている場合は、履修登録期間内に各自で科目の登録削除を FerrisPassport で行ってください。
要手続科目	要手続	必要	自動*1	実習等で事前に説明会への参加や申込手続が必要な科目です。手続きについては開講科目表、シラバスの指示、掲示等で確認をしてください。
教員の指示がある科目		不要	各自*2	シラバス等で担当教員から初回授業時に履修者を選抜することが指示されている場合があります。初回授業を欠席して、履修の権利をなくさないよう、事前にシラバスをよく読んでください。
収容人数の超過科目		不要	各自*2	特定の科目に履修者が集中し教室変更によっても教室収容人数を超える状態を解消できない場合には、大学の判断で履修者を制限する場合があります。この場合の制限は、カリキュラム、年次などの面から総合的に判断をしますが、初回授業を欠席した学生には履修の権利がなくなることに気をつけてください。

*1：大学が登録を行うので、履修登録期間及び履修登録確認期間に登録されていることを確認すること。
*2：各学期の履修登録期間に各自が FerrisPassport で履修登録・取消を行うこと。

8．履修登録

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続です。定められた期間に、履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。また、履修登録及びその確認の手続不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

（1）履修登録上の注意

① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続を行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
⑤ 集中講義科目及び海外研修など、休業期間を利用した授業科目は、通常科目とは異なる日程で履修登録を行うので注意すること。（p.19「2015年度履修のスケジュール」参照）
⑥ 履修登録を行った際には、必ず「学生時間割表」を印刷、保管しておくこと。（登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。）

（2）学科選抜科目の履修手続

① 履修希望者は、学部・学科等の定める期間・方法にしたがうこと。
② 履修登録は大学が行うので、学生は通常の履修登録期間に改めて登録する必要はない。

（3）履修者数制限科目の履修手続

① 履修希望者は、履修者数制限科目受付期間に FerrisPassport で申し込む。
② 大学が履修許可者を選抜し、授業開始日までに履修許可者を掲示で発表する。また、履修登録は大学が行うので、学生は通常の履修登録期間に改めて登録する必要はない。

【注意】

① 履修許可者が定員に満ちていない場合であっても、原則として追加履修希望は受け付けない。ただし、学科等の判断により、追加募集を行うことがあるので掲示に注意すること。
② 履修許可者が、履修許可された科目の登録変更・取消しを行うことは認められない。

（4）履修登録

① 履修登録は、学内のパソコン及びインターネットに接続できる環境にあれば、学外からも行うことができます。（この場合も、本学が発行するアカウントが必要です。）ただし、学外から履修登録を行う場合、個々の環境によっては、システムがうまく動作しないこともあります。その場合には、学内で履修登録を行ってください。また、履修登録確定後、必ず「学生時間割表」を印刷、保管してください。
　履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内でのパソコンの稼動状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。
・本学公式 web サイト（http://www.ferris.ac.jp/）
・FerrisPassport
・学内掲示板
② 履修登録期間中には、学内のパソコン利用が混雑したり、パソコンの動作が遅くなることも予想されますので、あらかじめ科目を決定したうえで、時間的な余裕を十分に持って登録してください。
③ 履修登録期間終了後の登録科目の追加・変更は、一部の授業科目を除き、認められません。（p.25「追加・変更が認められる授業科目」参照）

→日程・スケジュールはp. 19

（5）遅延登録

やむを得ない理由（追試験許可理由に準ずる。p.29参照。）により、履修登録期間に手続できない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内（休日を含む。）に必要書類（「遅延登録願」及び証明書等）を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で遅延して履修登録を希望する者は、所定用紙（「遅延登録願」）によって願い出て、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料（5,000円）が徴収されます。

（6）登録確認・訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassport で登録科目の確認ができます。必ず履修登録時の「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべきすべての科目（必修科目、クラス指定科目、学科選抜科目、履修者数制限科目、初回授業時選抜科目、要手続科目を含む）がもれなく登録されているかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を印刷して持参し、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続きを行わなければなりません。

「履修登録訂正申告期間」に履修登録の追加・変更が認められるのは、次の必修（相当）科目等のみです。

追加・変更が認められる科目	
【基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」 「キリスト教Ⅱ」 【語学科目】 当該学生にとっての必修相当語学科目 【文学部専門科目】 「卒業論文」（4年次前期のみ） 「卒業論文・卒業制作」（4年次前期のみ） 【国際交流学部専門科目】 「研究入門」 「卒業論文」（4年次前期のみ） 「海外環境フィールド実習」 「アジア現地実習」 「ヨーロッパ現地実習」 「オーストラリア現地実習」 「農環境体験実習」	【音楽学部専門科目】 「専攻実技／Ⅰ A･B ～ Ⅳ A･B」 「2年次修了公開演奏」 「卒業公開演奏」（4年次前期のみ） 「卒業プロジェクト」（4年次前期のみ） 【教職に関する科目】 「教育実習2」「教育実習3」（4年次前期のみ） 【その他】 当該科目を履修しなければ卒業延期となる授業科目 学科選抜科目（＊）

＊追加・変更には学科・科目責任者の承認が必要です。

→日程・スケジュールはp. 19

（7）登録取消

履修登録した科目の取消を行う場合には、履修登録取消の期間に各自で FerrisPassport で取消の手続きをしてください。

【注意事項】

① 科目の性格上、次のとおり取消しできない科目があります。

取消しができない科目	
【基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」（後期開講科目を除く） 「健康・スポーツ（8)」「健康・スポーツ（18)」 「音楽実技 A,B」 【総合課題科目】 「キリスト教Ⅲ（1)」 「キリスト教Ⅲ（2)」 「キャリア実習（短期インターンシップ)」 「キャリア実習（長期インターンシップ)」	【語学科目】 英語科目（英語 e 科目を除く） 初習外国語科目（＊） 【その他】 履修者数制限科目 学科選抜科目 要手続科目

＊英語科目及び初習外国語科目については、当該学生にとって必修相当ではない科目のみ、語学責任者（p.170）の判断により取消しが認められることがあります。取消しを希望する学生は、下期の期日までに「学生時間割表」に語学責任者の承認印を受けた上で教務課で手続きを行ってください。

② 取消した科目に代え、新たに別の科目を登録することはできません。

③ 通年科目については、前期・後期のいずれの期間でも取消申請をすることができます。

④ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。（p.12「授業欠席」参照）

【履修科目取消申請期間】

→日程・スケジュールはp. 19

試　　験

1．試験の種別

種　別	内　訳		掲　示	教務課による追加措置			備　考
				追試験	再試験	追受理	
授業内試験	教務課取扱い試験		○	○	—	—	
	担当者による試験		×	×	—	—	全て担当者の指示に従ってください。
レポート試験	教務課提出		○	−	−	○	
	担当者へ直接提出	掲示のあったもの	○	−	−	×	全て担当者の指示に従ってください。
		掲示のなかったもの	×	−	−	×	
音楽学部実技試験	実技試験		○	—	○	—	

2．受験資格

次のいずれかに該当する場合は、試験を受けることはできません。また、受験しても無効となり、当該科目の成績は取り消されます。

(1) 履修登録がされていない。

(2) 履修授業科目について、出席が3分の2に満たないと担当者が判断した。

3．教務課取扱い試験

授業中に行われる試験のうち、教務課から掲示で発表される試験を「教務課取扱い試験」と呼びます。実施期間は授業第14週または第15週です。なお、下記期間中は、通常の授業と異なる教室や5限終了後に試験を行うことがあります。

(1) 試験に係る日程

学期	授業週	掲示予定日	試験期間
前期	第14週	2015年7月3日（金）	2015年7月17日（金）、20日（月）～23日（木）
	第15週	2015年7月10日（金）	2015年7月24日（金）、27日（月）～30日（木）
後期	第14週	2015年12月11日（金）	2016年1月8日（金）、14日（木）、18日（月）～20日（水）
	第15週	2015年12月18日（金）	2016年１月21日（木）～22日（金）、25日（月）～27日（水）

＊音楽学部実技試験については別途掲示します。

(2) 注意事項

試験に関する掲示は発表後に変更される場合があるので、FerrisPassport 等の更新情報に十分注意してください。また、受験上の注意は下記のとおりとします。

① 着席は原則として1人掛けまたは2人掛けとし、2人掛けの場合は各々両端に座ってください。

② 試験中は監督者が見やすいように、学生証を机上に置いてください。

③ 当日学生証を忘れた場合は、教務課で受験票の交付を受けてください。受験票は交付日当日のみ有効です。（返却不要です。）

④ 下敷きの使用及び筆記具の貸し借りは禁止します。

⑤ 科目担当者からの指示がない限り携帯電話・スマートフォン及びパソコン・タブレット端末等の電子機器の使用は禁止します。

⑥ 遅刻は試験開始後20分までに限り認められます。ただし、試験時間は延長しません。

⑦ その他試験中は全て監督者の指示に従ってください。

4．レポート試験

（1）レポート試験に関する掲示

教員から教務課に届出のあったレポート試験については、下記の日程で掲示により周知されます。

学期	掲示予定日
前期	2015年7月3日（金）
後期	2015年12月11日（金）

（2）教務課提出のレポート試験

提出期間	前期	2015年7月24日（金）、27日（月）～30日（木）　9：00～18：00
	後期	2016年1月21日（木）～22日（金）、25日（月）～27日（水）　9：00～18：00
提出場所		原則として開講校舎とします。ただし、音楽学部3・4年次生については、緑園・山手いずれの校舎でも提出可能とします。
提出方法		教務課所定の表紙に必要事項を記入し、ホチキスで綴じて所定のレポートボックスに提出してください。本人提出を原則としますが、病気その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は代理人提出を認めます。 なお、一度提出したレポートは返却できません。また、「7．レポート追受理」を除く遅延提出はいっさい認められません。

（3）担当者に直接提出するレポート試験

提出方法等すべて担当者の指示に従ってください。教務課ではいっさい取扱いません。

（4）レポート作成・提出に際しての注意事項

レポート作成にあたり他人の文章を引用する際は、その部分を括弧「　」で囲む等引用がわかるようにした上で出典を明記しなければなりません。下記の事項を十分に注意してください。

① 書物、論文及びインターネットから転記したり、それを組み合わせたりしてあたかも自分の文章のように装うことは、引用ではなく「盗用」です。盗用は絶対に許されない行為です。

② ①のような意図はなくても、出典を明記しないで引用を行うと、盗用とみなされる場合があります。

③ 提出されたレポートが上記①・②に基づき盗用とみなされた場合は、「不正行為」とみなします。

④ レポートにおいて不正行為を行った学生には、次項目「5．不正行為を行った学生への措置」記載の措置等がとられます。

5．不正行為を行った学生への措置

筆記試験	当該学期の全科目の履修登録を無効とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分（停学、訓告等）がなされることがあります。
レポート試験	当該科目の評価を不合格（H）とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分（停学、訓告等）がなされることがあります。

6．追試験

教務課取扱い試験についてのみ、追試験許可理由（下記（1）参照）のいずれかに該当し、受験資格があると認められた学生は、願い出によって追試験を受けることができます。

なお、授業第14週・第15週に行われている試験でも、教務課が掲示で発表を行っていないものについては、追試験を願い出ることはできません。

音楽学部実技科目の追試験

→p. 143「実技追試験」

（1）追試験許可理由

	欠席理由	必要な証明書類
①	傷病	医師の診断書
②	感染症にかかった場合の出席停止 詳細は p.12授業欠席①「感染症にかかった場合」を参照。	感染症罹患届、診断・登校許可証明書
③	就職試験受験	受験先の証明書等
④	大学院受験	受験票（写）
⑤	放送大学（特別聴講学生）第1学期の単位認定試験	放送大学の試験日程を証明する書類
⑥	裁判員招集 詳細は p.12「裁判員に選任され、裁判員として審理に参加する場合」を参照。	裁判所からの呼び出し状
⑦	忌引 詳細は p.12「忌引により、欠席する場合」を参照。	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書（写）
⑧	交通機関の事故	駅が発行する遅延証明書等
⑨	全国レベルの大会等への出場	当該大会等のプログラム及び参加を証明する書類並びに関係教員の承諾書
⑩	その他特別な事情により、教務部長が必要と認めた場合	理由を証明する書類

※証明書類は当該科目試験日に受験できなかったことを証明するもの、「○月○日～○月○日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

（2）受験手続

追試験受験を希望する場合は、次の期日までに教務課窓口にて「追試験願」を記入の上、証明書類及び受験料（証紙購入）を添えて、教務課に提出しなければなりません。代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、追試験該当者発表日以降に受験料を返還します。

提　出　物	追試験許可願
	証明書類
	受験料※
手続期限	前期　2015年8月4日（火）　15：00
	後期　2016年1月29日（金）

※1科目につき1,000円。追試験許可理由②及び⑥の場合は不要です

（3）追試験日程

学期	学年	許可者及び時間割発表	追試験日
前期	1～4年次生	2015年8月20日（木）	2015年8月27日（木）、28日（金）
後期	4年次生	2016年2月5日（金）	2016年2月12日（金）
	1～3年次生	2016年2月18日（木）	2016年2月25日（木）、26日（金）

（4）追試験の注意事項

① 音楽学部実技科目の追試験については別途掲示します。
② 追試験の成績評価は2割減点とします。（追試験許可理由②及び⑥の場合は減点はありません。）
③ 追試験の実施は定められた期日1回限りです。
④ 合格・不合格評価科目及び集中講義科目については追試験を実施しません。

7．レポート追受理

レポート追受理とは、やむを得ぬ理由（追試験許可理由に準ずる。）により提出期間内に教務課提出のレポートを提出できない場合、下記の手続きにより提出することができる制度です。

ただし、この場合の成績評価は、追試験の規定に準じます。

提　出　物	レポート追受理願
	証明書類
	レポート本体
提出場所	緑園　教務課
提出期限	前期　2015年8月4日（火）15：00
	後期　2016年1月29日（金）

8．再試験

再試験とは、音楽学部の必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格（評価 F）とされた学生が、願い出て認められた場合、改めて受験の機会が与えられる制度をいいます。 →p. 144「再試験」

9．卒業再試験

卒業再試験とは、卒業学期に履修した科目（卒業再試験対象外科目を除く）に対し不合格評価「F」を受けたため、卒業要件単位に4単位以内の不足が生じた者に、再度試験の機会を与える制度です。不合格評価「G」「H」を受けたため、卒業要件を満たせなくなった者には、受験資格が与えられません。

（1）卒業再試験受験資格者

① 受験資格者は、教授会において確定された後、発表される。

② 受験資格者は卒業学期に評価「F」を受けた科目の中から、不足単位数に相当する分の科目の卒業再試験を受験することができる。

（2）卒業再試験対象外科目

① 集中講義科目		
② 追試験受験科目		
③ 音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目		
④ 合格・不合格評価科目（p.33）		
⑤ 実習科目	基礎教養科目	「音楽実技 A,B」
	語学科目	「海外語学実習」
	英語英米文学科／英文学科専門科目	「Summer Abroad（US）/ アメリカ現地実習」 「Summer Abroad（UK）/ イギリス現地実習」 「Field Study 1,2/ フィールド・スタディ1,2」
	日本語日本文学科／日本文学科専門科目	「日本語教育実習1,2」
	国際交流学部専門科目	「アジア現地実習」「ヨーロッパ現地実習」 「地球環境実習」「オーストラリア現地実習」 「農環境体験実習」
	音楽学部専門科目	「伴奏実習Ⅰ」「伴奏実習Ⅱ」
⑥ 教職に関する科目のうち、卒業要件算入科目以外の教職専門科目		

（3）卒業再試験手続

卒業再試験の受験を希望する者は、次の期間に教務課で所定の手続きをしなければなりません。この期間に遅れると一切受理されません。代理人による手続も認めるので必ずこの期日までに手続を行ってください。

提　出　物	卒業再試験受験願
	受験料　5,000円（1科目につき）
手続期間	前期　2015年9月11日（金）、14日（月）
	後期　2016年2月23日（火）、24日（水）

（4）卒業再試験日程

前期	2015年9月15日（火）
後期	2016年2月25日（木）

（5）卒業再試験の注意事項

① 卒業再試験の時間割は、卒業再試験申込時に発表します。
② 卒業再試験の成績評価は「C」または「F」とします。
③ 卒業再試験の実施は、定められた期日１回限りとします。

成 績 評 価

1．成績評価

本学における成績評価の基準は、次のとおりです。ただし、大学院学生については、別途定めます。なお、各科目の成績評価方法はシラバスに記載しています。

	評価	評　価　基　準		GP
合格	S	100点～90点	到達目標を達成し、卓越した水準に達している。	4
	A	89点～80点	到達目標を達成し、優れた水準に達している。	3
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な水準に達している。	2
	C	69点～60点	到達目標を達成している。	1
不合格	F	59点～ 0点	到達目標を達成していない。	0
	G	－	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。	0
	H	－	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、もしくはその他の理由による。	0

2．GPA 制度

GPA（Grade Point Average）とは、各成績評価に対してそれぞれポイントを定め、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。したがって、履修科目を多く登録しても、不合格が多いと、GPA の値が小さくなります。科目選択および履修に際しては、各自が責任をもって管理してください。

各成績評価に対するグレードポイントは次のとおりです。（合（P）、不（Q）、N、T は、GPA の算出には含まれません。）

S＝4，A＝3，B＝2，C＝1，F・G・H＝0

GPA は履修科目の単位数に評価に応じたグレードポイントを乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して求められます。

《例》GPA の算出方法

授業科目名	単位数	評　価	ポイント数（QP）
キリスト教Ⅰ	2	A	2×3＝ 6
英語Ⅰs（読む・書く）	1	C	1×1＝ 1
英語Ⅰs（聞く・話す）	1	H	1×0＝ 0
スペイン語Ⅰ（入門）	1	B	1×2＝ 2
中国語Ⅰ（入門）	1	F	1×0＝ 0
R＆R（入門ゼミ）	1	B	1×2＝ 2
社会的行為としてのコミュニケーション	4	B	4×2＝ 8
対人コミュニケーションの心理学	2	B	2×2＝ 4
放送文化と制度を考える	2	A	2×3＝ 6
ディベートと自己主張	2	B	2×2＝ 4
日本語の音声とアクセント	2	A	2×3＝ 6
日本史の基礎（古代～近世）	2	C	2×1＝ 2
合　計	21単位①		41②

GPA ＝②÷①　→　41÷21＝1.95（小数点第3位で四捨五入）

3．成績通知（FerrisPassport）・成績証明書への表示

成績通知及び成績証明書への評価の表示方法は次のとおりです。

評　　価	S	A	B	C	合	F	不	G	H	単位※認定	履修中止	GPA
成績通知	S	A	B	C	P	F	Q	G	H	N	T	表示
成績証明書（和文）	S	A	B	C	P					N		表示
成績証明書（英文）	A+	A	B	C	P					N		表示

※　本学以外で修得した単位等の認定は、成績通知及び成績証明書に授業科目名：「単位認定」、評価：「N」と表示されます。

4．成績評価のガイドライン

厳正な成績評価を行うことを目的として、学部の授業科目の成績評価についてガイドラインを設けています。

1．S 評価と A 評価を与える学生の割合は履修登録者数に対して合計50％を上限とする。
2．次のいずれかに該当する授業科目には、担当者の判断によりこのガイドラインを適用しないことができる。
（1）履修登録者9名以下の科目
（2）卒業再試験対象外の実習科目（p.30「卒業再試験対象外科目」⑤参照）
（3）基礎教養科目「音楽実技 A,B」
（4）文学部「R&R（入門ゼミ）」「基礎ゼミ」「専門ゼミ」「卒論ゼミ」
（5）国際交流学部「研究入門（国際交流学部の学び）」「導入演習」「基礎演習」「専門演習」
（6）音楽学部「ソルフェージュ」「音楽家の基礎知識」「音楽基礎理論」「室内楽」「演奏プロフェッショナルスタディ」「学内演奏」「専門ゼミ」
（7）「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次修了公開演奏」

5．合格・不合格評価科目

試験の結果が段階的な評価によらず、合格又は不合格で評価される授業科目は、次のとおりです。

合格・不合格評価科目

基礎教養科目	「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」
総合課題科目	「キリスト教Ⅲ（1）」「キリスト教Ⅲ（2）」「キャリア実習（短期インターンシップ）」「キャリア実習（長期インターンシップ）」
文学部専門科目	「文学部とキャリア」
音楽学部専門科目	「学外公開発表Ⅰ」「学外公開発表Ⅱ」「海外音楽研修」「国内音楽研修」「室内楽の夕べ」「オーケストラ協演の夕べ」「学内公開演奏」「学外公開演奏」「演奏ボランティア」「フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ」

6．成績通知

（1）学生本人への通知

成績通知は、下記の日程に FerrisPassport を通じて行います。

前期	2015年9月11日（金）
後期	2016年3月末

成績通知時には、前学期までに履修したすべての授業科目の成績評価が記載されています。

なお、長期休業期間中に実施する実習科目、集中講義科目や留学・単位互換により他大学等で修得した単位の認定は上記とは異なる日程で通知することがあります。

（2）保証人への通知

保証人に対する成績通知は、学期ごとに郵送で行います。ただし、特別な事情によって保証人への通知を希望しない場合は、所定用紙（教務課、山手事務室備付）をもって通知の停止を願い出ることができます。願い出が受理された場合、保証人への成績通知を停止し、別途、通知停止となった旨のお知らせをします。

【保証人あて郵送日】

前期	2015年10月下旬（予定）
後期	2016年5月中旬（予定）

7．成績評価に関する問い合わせ

成績評価基準（p.32）及びシラバスに定める成績評価方法に照らし、成績評価について、具体的な根拠に基づく確認事項がある場合には、「成績評価確認願」を提出することができます。該当者は、定められた期日までに、所定用紙「成績評価確認願」（教務課、山手事務室備付）を教務課又は山手事務室に提出してください。この期日を過ぎた場合、問い合わせは一切受け付けられません。

なお、この問い合わせは、成績評価の確認を依頼するためのものであり、担当者に対して評価への異議又は再考を申し出るものではありません。

また、以下のような理由による「成績評価確認願」の提出は受け付けることができません。

① 再考を求めるもの。
② 担当教員に情状を求めるもの。
③ 他の履修者との対比のうえ不満を訴えるもの。（「友人はC評価だが、なぜ自分はF評価なのか。」等）
④ 具体的な内容の記載のないもの。（「単位を落とすほど欠席していない。」等）

→日程・スケジュールはp. 19

卒業の要件・卒業論文等

1．卒業に必要な単位

卒業のためには、4年（8学期）（2年次編入学者は3年（6学期）、3年次編入学者は2年（4学期））以上在学して、各学部・学科ごとに定められた卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

2．卒業者発表、学位

所定の単位を修得した学生は卒業を認められ、卒業証書・学位記が授与されます。卒業者発表の日時及び授与される学位は以下のとおりです。

卒業者発表	日時	2016年2月23日（火）
	場所	緑園校舎・山手校舎・FerrisPassport
「成績評価確認願」提出期限	2016年2月24日（水）18:00	

学位	文学部	学士（文学）
	国際交流学部	学士（国際交流学）
	音楽学部	学士（音楽）

3．卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト（以下「卒業論文等」と表記）の提出

（1）日程

	日時	場所
「卒業論文等題目届」提出締切日	2015年10月16日（金）	教務課又は山手事務室
卒業論文等提出日	2015年12月9日（水）11：00～16：00	掲示によって発表します。
	2015年12月10日（木）11：00～16：00	

（2）「卒業論文等題目届」提出

所定の期日までに「卒業論文等題目届」に必要事項を記入し、指導教員の承認印を得た上で、教務課又は山手事務室に提出してください。提出する際の注意事項は以下のとおりです。

記入	記入漏れがないことを確認してください。題目届は複写式なので、強い筆圧で記入してください。
捺印	2枚目、3枚目の複写用紙（提出票）に指導教員の捺印漏れが無いことを確認してください。
主題	提出後、提出票の文字を書きなぞったり、主題を書き換えたりすることはできません。
保管	題目届（提出票）は卒業論文等の提出時に必要なので、大切に保管してください。

（3）卒業論文等提出

提出方法	指定された日時に所定の場所に本人が提出してください。郵送による提出は一切受理しません。
代理人提出	病気、その他やむを得ない理由に本人が提出できない場合は、追試験許可理由（p.29）に準じて代理人提出が認められることがあります。教務課まで連絡し、指示を受けてください。ただし、この場合も提出期限は厳守とします。
提出媒体	紙に印刷され、所定の方法で綴じられたものでなければ受理されません。機器のトラブルによる遅延提出は一切認めませんので、提出日以前に印刷を済ませておいてください。 なお、コミュニケーション学科の卒業制作及び音楽芸術学科の卒業プロジェクトは紙以外の媒体での提出が指示されることがあります。
用紙・体裁	各学科の指示に従ってください。
口頭試験等	審査にあたり実施することがあります。詳細は各学科の指示に従ってください。

（4）卒業論文等の遅延提出

所定の期日に提出できなかった卒業論文等は、遅延提出受付日に遅延扱いとして受け付けます。ただし、この場合遅延手数料が徴収されます。また、成績評価は「C」または「F」とします。

遅延提出受付日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。

遅延提出受付日	2015年12月11日（金）　15：00～17：00
場所	緑園校舎　（詳細は掲示にて発表）
手数料	5,000円

4．卒業論文等の撤回

卒業論文等を提出したがその年度に卒業を希望しない者は、「卒業論文等撤回願」を教務課に提出することにより卒業論文等を撤回できます。

なお、撤回した場合はＨ評価となるので、次の学期に改めて履修登録及び卒業論文等の提出手続きを行わなければなりません。

「卒業論文等撤回願」提出期限	2016年1月27日（水）

5．9月卒業

年度末に卒業資格の認定を得られなかった者が、次年度前期に卒業に必要な単位を修得した場合、9月末の卒業が認められます。

(1) 9月卒業希望届

2015年度9月卒業を希望する者は、次の期日までに「9月卒業希望届」を教務課又は山手事務室に提出してください。

「9月卒業希望届」提出期限	2015年4月17日（金）

(2) 2015年度9月卒業論文等提出及び卒業認定に係る日程

「卒業論文等題目届」提出期限	2015年5月8日（金）
卒業論文等提出日	2015年7月8日（水）、9日（木）9:00～16:00（提出先：教務課）
遅延提出受付日※	2015年7月10日（金）15:00～17:00（提出先：教務課、手数料：5,000円）
9月卒業者発表・成績通知	2015年9月11日（金）
「成績評価確認願」提出期限	2015年9月11日（金）
2015年度9月学位授与式日程	2015年9月30日（水）

※遅延提出の注意事項については上記「3．(4) 卒業論文等の遅延提出」を参照のこと。

(3) 9月卒業希望者の履修方法

文学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 選択必修Ⅰと選択必修Ⅳ科目で後期開講科目を未修得の場合は、それぞれ同じ群の前期開講科目の履修をもって当該未修得科目の履修と見なします。その場合は、「9月卒業希望届」提出前に、所属学科の教務委員の履修指導を受けなければなりません。
国際交流学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。
音楽学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 なお、当該学生の未修得科目の履修方法について、学部が特に定める場合があります。「9月卒業希望届」提出前に、所属学科の履修指導を受けてください。

(4) 9月卒業予定者の卒業論文等撤回

9月卒業予定者のうち、卒業論文等を提出した者が9月卒業を希望しないという場合は、「卒業論文等撤回願」を教務課に提出することにより卒業論文等を撤回できます。

なお、撤回した場合はH評価となるので、次の学期に改めて履修登録及び卒業論文等の提出手続を行わなければなりません。

9月卒業論文等撤回願　提出期限	2015年7月29日（水）

海外短期研修・留学・国内留学

海外短期研修・留学

本学では、多様な文化と価値観を理解し、国際社会で活躍できる人材を育成するために海外交流プログラムを豊富に提供しています。

学生を海外に派遣する制度としては、短期の海外短期研修制度と長期の交換留学制度、認定留学制度、セメスター・アブロードがあります。

海外短期研修

海外短期研修は、夏期または春期休暇を利用して1週間～4週間行われるプログラムです。海外の大学等において、語学や歴史・文化プログラム及び専門分野を学ぶフィールドワークなどがあります。これらは授業科目として開講されており、単位が取得できます。

詳細は4月中旬に開催する説明会でお知らせします。参加希望者は必ず出席してください。

2015年度海外短期研修先は下記のとおりです。留学時期・期間は年度により変更があります。

No.	科目名	短期研修先（国）	時期	期間	科目区分	開放	登録
1	アメリカ現地実習 / Summer Abroad (US)	ローズモントカレッジ(アメリカ)	夏期	約3週間	英語英米文	▲	大学が履修登録
2	イギリス現地実習 / Summer Abroad (UK)	パースカレッジ（イギリス）	夏期	約4週間	英語英米文	▲	
3	フィールド・スタディ2/ Field Study 2	（イギリス）	夏期	約1週間	英語英米文	▲	
4	海外語学実習（フランス語）	西部カトリック大学（フランス）	夏期	約4週間	フランス語	共通語学科目	
5	海外語学実習（ドイツ語）	IIK: 異文化間コミュニケーション研究所（ドイツ）	夏期	約3週間	ドイツ語		
6	海外語学実習（スペイン語）	サラマンカ大学（スペイン）	夏期	約3週間	スペイン語		
7	海外語学実習（朝鮮語）	梨花大学（韓国）	夏期	約3週間	朝鮮語		
8	海外語学実習（中国語）	清華大学（中国）	夏期	約3週間	中国語		
9	オーストラリア現地実習	ボンド大学（オーストラリア）	夏期	約3週間	国際交流	▲	
10	アジア現地実習（2）	シリマン大学（フィリピン）	夏期	約2週間	国際交流	▲	

海外短期研修の履修要件

海外短期研修は、授業科目として履修登録できることが参加の条件となります。

（1）年次・学科

対象学年（履修可能年次）であり、当該科目の履修が可能な学科に所属していること。非開放の専門科目に他学部・他学科の学生が参加することはできません。

（2）単位修得状況

当該科目の単位を修得済みでないこと。

ただし、「アジア現地実習（2）」は重複履修が可能です。

（3）その他

シラバス等に示されている条件を満たしていること。

修得した単位の扱い

科目の区分に応じて認定されます。

「海外語学実習」（№4～№8）による修得単位数は、語学科目の必修相当として認められます。

交換留学

本学では、下記の18大学と協定を締結しており、この協定に基づき留学することを交換留学と言います。留学期間は1学期間、又は2学期間（最長1年間）です。

留学先で修得した単位は本学において修得した単位として認定することができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

ただし、留学学期には卒業できません。

全般的な説明会は毎年4月･10月に、その他、留学地域別などの説明会は随時開催しています。出願時期は、年2回（6月・11月）で、留学出発時期によって異なります。

交換留学の出願条件

交換留学の出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

（1）留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者

（2）留学開始時において2学期以上在籍する者

（3）出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位を修得済みである者

例）2年次後期に出願する場合

1年		2年	
前期	後期	前期	後期
15単位×3学期＝45単位以上			出願

（4）累積 GPA2.10以上の者（一部協定校は累積 GPA2.50～2.80以上）

（5）留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

英語圏	TOEFL iBT 61～90点以上または IELTS6.0～6.5以上（協定校によって異なる）
初習外国語圏	中級以上。以下に定める条件①もしくは②が出願条件となる。 ①志願時に原則として2学期分以上の留学先言語の語学科目の成績評価が確認でき、平均 B 以上（累積 GPA2.10以上） ②留学先言語の語学検定証明書

交換留学の協定校

国	市・州	大学名	主な出発時期
韓国	ソウル	梨花女子大学	2～3月
	釜山	新羅大学	
中国	北京	清華大学	
	上海	華東師範大学	
台湾	台北	輔仁大学	
フィリピン	ドゥマゲテ	シリマン大学	6月
インドネシア	ジョグジャカルタ	ガジャマダ大学	9月
アメリカ	ミシガン州	ホープカレッジ	8月
	ペンシルベニア州	ローズモントカレッジ	
	ミネソタ州	セントオラフカレッジ	
	メリーランド州	ワシントンカレッジ	
フランス	アンジェ	西部カトリック大学	2月
ドイツ	デュッセルドルフ	デュッセルドルフ大学	4月
	ブレーメン	ブレーメン芸術大学	9月
スペイン	サラマンカ	サラマンカ大学	3月
イタリア	ピストイア	マベリーニ音楽院	9月
スロバキア	ブラチスラバ	コメンスキー大学	9月
イギリス	ブライトン	サセックス大学	4月

交換留学実現にむけたロードマップ

交換留学を実現させるためには、計画的に準備を進めていく必要があります。出願までのステップやモデルプランを参考にしながら、早めに目標を設定して行動してください。

◆出願までのステップ

Step1
留学目的の明確化
・なぜ留学をしたいのか
・どこで何を学ぶか
・得た経験をどう活かすか

↓

Step2
情報収集・相談
・説明会へ参加
・教員や海外交流課に相談

↓

Step3
必要条件の確認
・学業成績、単位、語学力
・語学検定受験
・資金計画

↓

Step4
留学の種類・時期の決定
・交換、認定留学、セメスターアブロード
・留学の時期、期間

↓

Step5
出願
・応募条件のクリア

◆交換留学のモデルプラン

学年		2年次後期に留学	3年次前期に留学
1年	前　期	説明会出席	
	夏休み	海外短期研修※	
	後　期	出願 書類・面接審査 決定	
	春休み	入学手続き 渡航準備	
2年	前　期	教務面談 留学準備講座	説明会出席 出願 書類・面接審査 決定
	夏休み	留学生活	海外短期研修※
	後　期		入学手続き 渡航準備 教務面談 留学準備講座
	春休み		留学生活
3年	前　期	単位認定手続き	
	夏休み		
	後　期		
	春休み		単位認定手続き
4年	前　期		
	夏休み		
	後　期		
	春休み		

※海外短期研修は必須ではありませんが、長期留学前の参加をお薦めします。

認定留学

学生自ら選んだ海外の大学または大学附属の語学学校に、自ら入学手続きをした上で、本学に申請し許可を得て留学する制度です。

留学期間は1学期間、又は2学期間（最長1年間）です。

留学先で修得した単位は本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

ただし、留学学期は卒業できません。

認定留学の出願条件

認定留学の出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

(1) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
(2) 留学開始時において2学期以上在籍する者
(3) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位を修得済みである者
(4) 累積 GPA2.10以上の者
(5) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

英語圏	TOEFL iBT54点以上　または　IELTS4.5以上
初習外国語圏	中級以上。以下に定める条件①もしくは②が出願条件となる。 ①志願時に原則として2学期分以上の留学先言語の語学科目の成績評価が確認でき、平均B以上(GPA2.10以上) ②留学先言語の語学検定証明書

セメスター・アブロード

文学部英語英米文学科の学生のみ対象のプログラムです。

2年次前期（2014年度入学者は3年次前期）の1学期、ニュージランドの協定校に留学します。留学先で修得した単位は本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。興味・関心がある学生は、4月以降定期的に開催される説明会に参加し、プログラム内容等についての詳細を理解した上で、10月に出願手続きを行ってください。

セメスター・アブロードの出願条件

セメスター・アブロードの出願にあったては、下記の条件を満たす必要があります。

(1) 応募時に英語英米文学科の１年生（2015年度以降入学者）または2年生（2014年度入学者）である者
(2) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
(3) 留学開始時において2学期以上在籍する者
(4) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位以上を修得済みである者
(5) 累積 GPA2.25以上の者
(6) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。
　TOEFL iBT 44点以上、または IELTS 4.0以上

国	市・州	大学名	留学開始時期の目安
ニュージーランド	ウェリントン	ヴィクトリア大学	3月から

その他の留学方法

交換留学、認定留学、セメスター・アブロードを利用せずに、休学して留学をする方法もあります。ただし、休学して留学する場合は、留学期間は在学期間として扱われないため、4年間で卒業することはできません。

→休学の手続きについては、p.160

海外留学に関する相談窓口

相談窓口

留学先で修得した単位の認定、帰国後の履修計画など	教務課
留学の手続き、出願、留学に関する奨学金制度の情報提供、個別相談など	海外交流課
留学後の就職活動など	就職課

留学に関する情報

・海外研修・留学に関する詳細な情報は、毎年海外交流課が発行する冊子「Study Abroad」を参照してください。

→「Study Abroad」は海外交流課にて配布

・留学準備のための情報収集には、緑園キャンパス7号館3階の「海外交流ラウンジ」を活用してください。協定校に関する資料、先輩の報告書等が閲覧できます。

国内留学

同志社女子大学での国内交流制度

本学と同志社女子大学は国内留学協定を締結し、相互に派遣・受入を行っています。これを国内交流制度といいます。同志社女子大学で半年ないし1年間、1つの学科に所属して履修します。

応募条件・留学期間の取扱い

1．募集人員
原則として通年（2学期間）2名。学期単位の派遣も可能です。

2．出願資格
全学部対象。
原則として本学に1年以上在学し、派遣時に2年次生又は3年次生であること。
教職課程履修者が派遣を希望する場合は、派遣時に2年次生であること。

3．留学期間の取扱い
同志社女子大学での科目履修期間は、本学の修業年数及び在学期間に算入されるので、4年間での卒業が可能です。休学する必要はありません。

留学までの流れ

7月、10月	10月中旬	10月下旬	
説明会に参加 教務課に相談 募集要項確認 情報収集	出願 志願書提出 履修希望科目申請	選考 留学期間 受入学科決定	留学開始

7月及び10月に説明会を開催します。出願にあたっては説明会への参加が必須条件となりますので、関心のある学生はいずれか一方に必ず参加してください。なお、十分な出願準備のためにも、7月の説明会参加を推奨します。

留学スケジュールの例

下表は、2年次前期に留学した場合の例です。

パターン	1年		2年		3年		4年		卒業・進学
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
2年次前期に1学期留学	説明会	出願・選考 各種手続	留学期間	単位認定申請			就職活動または進学準備など		

受け入れ学科・履修可能科目

1．受け入れ学科

下記のいずれかの学科に所属します。履修希望科目が最も多く置かれている学科を希望してください。学部を超えた履修も可能です。

学部名	所在地	学　科　名		
学芸学部	京田辺キャンパス	音楽学科	情報メディア学科	国際教養学科
現代社会学部	京田辺キャンパス	社会システム学科	現代こども学科	
生活科学部	今出川キャンパス	人間生活学科	食物栄養科学科	
表象文化学部	今出川キャンパス	英語英文学科	日本語日本文学科	

＊薬学部医療薬学科及び看護学部看護学科は受入対象外です。

2．履修可能科目

ほとんどすべての科目が履修できますが、一部予め相談が必要な科目があります。また、京都周辺の大学・短期大学51校が参加する『大学コンソーシアム京都』の科目及び同志社大学各学部の開放科目も履修可能です。詳細は説明会で配布する募集要項で確認してください。

出願の手続き

説明会（7月、10月）に参加した上で、下記のとおり申し込んでください。説明会の日程は、FerrisPassportで掲示します。

提出書類	①志願書、②志願理由、③履修希望科目
提出期限	2015年10月13日（火）～10月15日（木）
注　意	①には本人と保証人の署名、押印が必要です。提出期限までに整えること。

学部教育課程

共通科目

文学部

国際交流学部

音楽学部

外国人留学生の履修

共通科目

基礎教養科目

総合課題科目

語学科目

基礎教養・総合課題科目

カリキュラムの説明

大学生に期待される基礎的な教養、現代的な課題に取り組む力をつけるための全学共通科目です。どの学部の学生も自由に選択し、4年間を通じて活用できます。

例えば、音楽学部の学生が演奏表現をより深めるために歴史や絵画、舞台芸術について知ること、文学部の学生が数的、科学的思考力を高めること、国際交流学部の学生が専門科目を学ぶ前提として涵養や社会、法律の知識を身につけるなど、学びの基礎を固めるだけでなく、みなさんの可能性を広げるという機能があります。

専門科目の学びが深化するにつれ、理論や研究手法の必要性を強く感じることになります。

「知識の修得」に加え、応用可能な「手法の獲得」にも重点を置いたカリキュラムです。

基礎教養科目

大学生にとって必要とされる基本的な知識、教養を学ぶ科目群です。

本学の教育に通底する「キリスト教の基礎」と、「社会で生きていくためのチカラ（リテラシー※）」で構成しています。

※リテラシー（Literacy）とは、本来読み書きの能力を指す言葉ですが、自立した個人に必要な、自ら考え意思決定するための様々な素養を意味するチカラとしても使われています。

カリキュラムの趣旨と構成

群	テーマ	到達目標
キリスト教の基礎	キリスト教の本質を理解する	・宗教の役割を自分の言葉で説明できる ・現代の私たちの価値観や思想のルーツを理解できる ・国際的な問題、歴史、文学、芸術の背景として捉えることができる
思考リテラシー	論理的に思考する	・科学的な視点と態度で人間の行動を理解できる ・人に伝えるための基本的な技法が身につく
コミュニケーション・リテラシー	伝える・表現する・読み解く	・読解力、本質をとらえる力がつく ・情報を収集し、まとめ、総合的に活用できる
社会リテラシー	ニュースの背景まで理解する	・市民として、消費者として、生活者として判断する力がつく ・政策や経済の動きを、暮らしと結びつけて考えられる ・社会における自らの役割や責任を果たせる ・保障された権利を知っている
文化リテラシー	深く洞察し、豊かに鑑賞する	・作品の背景にある歴史や社会、思想、宗教を理解して批評できる ・好き嫌いや生来の感性だけによらず、創造的な見方ができる ・作品を通して語られるメッセージを読み取れる
科学リテラシー	量る・測る・計る …そして発見する	・責任ある市民として、科学技術が社会や生活に与える影響を理解し、批判的にとらえることができる ・科学的根拠に基づいて情報の真贋を見極め、選択できる ・知識を統合・活用・再構成してアウトプットできる
身体リテラシー	身体への理解を深める	・家族や社会、次世代という視点から、健康やスポーツといった自分の身体の周辺にある問題について考えられる ・身体を動かすことによって得られる開放感、快適さ、楽しさなどポジティブな効果を感じられる

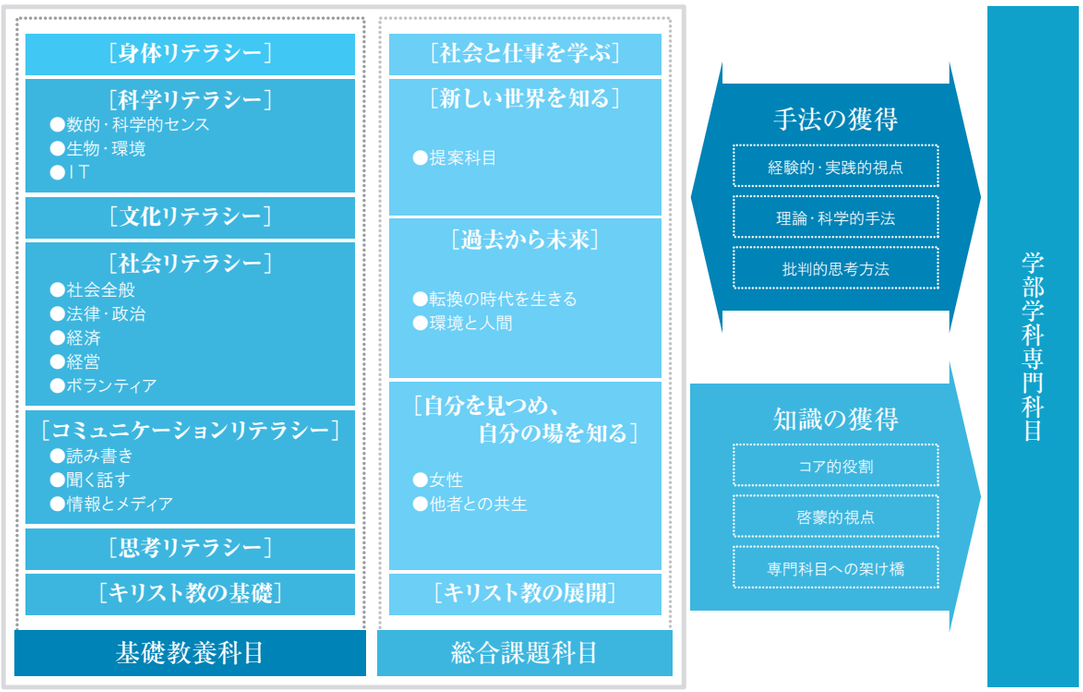
総合課題科目

教育理念「For Others」に根ざしながら、現代的な課題に取り組む基盤をつくります。まずは「女性」「他者」「環境」「変化」というテーマを通して今、世界で起きている問題を自分に引き寄せます。そして、その問題の背景を分析し、どう向き合うのかを自分で判断し、具体的に行動する力を身につけます。

カリキュラムの趣旨と構成

群	到達目標
キリスト教の展開	・宗教が人や社会に与えている影響を理解できる ・常識やものの見方の根底にある思想や違いを認識できる
自分を見つめ、自分の場を知る	・「For Others」を自分の行動や判断の基盤にできる ・女性に関わる制度や権利、法律を、自分の生き方に活用できる ・個人や企業が社会に貢献する意義や方法を提示できる
社会と仕事を学ぶ	・チームで課題に取り組み、これを計画的に進められる ・多様な人たちと協力して目標を達成できる ・論理的、効果的なコミュニケーションができる
過去から未来	・政治や経済、社会構造の変化を捉え、この変化を身近な問題にひきつけて考えられる ・人間活動と環境との関わりに自分の意見をもてる
新しい世界を知る	・社会の変化に適応し、前に踏み出す力がつく ・学び方、研究手法を修得し、ほかの課題に応用できる

基礎教養・総合課題科目カリキュラムマップ



特色ある科目と目的

自校教育科目「フェリス女学院大学で学ぶということ」

学習活動の基盤となるフェリスの歴史と存在意義、「For Others」の現代的解釈などを扱います。基礎教養・総合課題科目運営委員長がコーディネイターとなり、卒業生や教職員を含む様々な観点からの講義を展開します。

学生提案科目「私たちが学びたいこと」

学生からの提案をもとに、教員との協働で作る科目です。応募されたテーマ、内容に基づき、基礎教養・総合課題科目運営委員会で審査し、大学が決定します。審査結果は掲示により審査委員長からの講評がフィードバックされます。応募要領は次のとおりです。

対　　象	2016年度　前期　1科目
講義題目・担当者	採用されたテーマをもとに、大学が決定
条　　件	一人の教員が担当する授業形態であること。 講義科目（2単位）であること。
提出期限	2015年11月13日（金）
提出書類	提案書（所定の用紙を FerrisPassport からダウンロードすること）
提 出 先	教務課

教職員提案科目「新たな学びの世界を広げる」

既存のカリキュラムにないテーマを教職員から募集し、基礎教養・総合課題科目運営委員会で審査の上、採択されたテーマに基づき開講する科目です。社会の急激な変化に適応することや、ぜひ学んでほしい内容をタイムリーに提供し、新しいものの見方、取り組み方を修得してもらうことを目的としています。

3学部横断型セミナー「新たな学びの世界への招待」

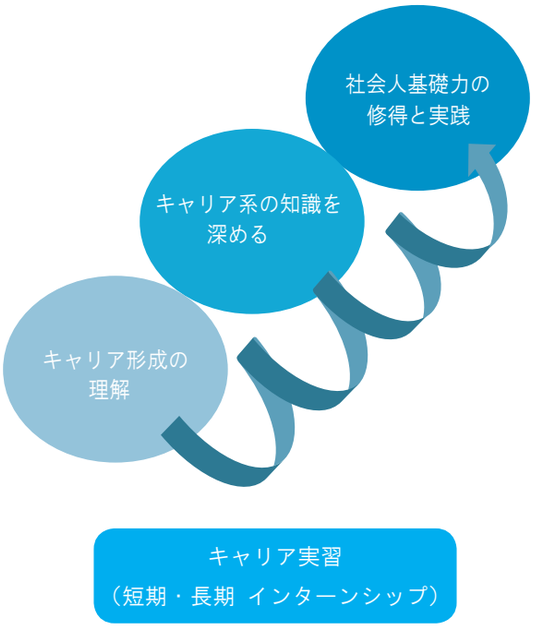
全学部の1、2年次生を対象とする演習科目で、学部・学科を超えた3名の教員が担当します。異なる学部、学科の人とチームを作って共通の課題に取り組み、実践的な作業を経験します。必要な知識にたどり着くための方法や、どんな問いを立てると効果的なのか、問題意識の持ち方などを体得できます。プロジェクトワークでは、一人ひとりが自分の役割を見つけることが求められます。人にわかりやすく説明する表現力、自己管理力も身につきます。

キャリアに関する学び

社会と仕事を学ぶ

「キャリア形成の理解」から「キャリア系の知識を深める」、「社会人基礎力の修得と実践」の3段階で理解を進めます。

グループワークやプロジェクト学習を通して、社会で求められる力を修得します。



社会人基礎力の修得と実践

- グループワークを通じて、課題解決に必要な知識と手法を身につける
- 時間や資源という制約がある中で目的を達成する活動に取り組める

キャリア系の知識を深める

- 産業構造や労働形態の変化を理解できる
- 市場経済のしくみを説明できる
- 会計情報などの根拠に基づき、企業分析ができる
- 新しい事業をつくり出す着眼点や方法論を知る

キャリア形成の理解

- キャリア開発を取り巻く社会環境を理解できる
- 将来に向けた目標設定ができる
- 社会で必要な主体性、コミュニケーション力、チームワークがどのようなものか自覚できる

キャリア実習

- 大学での学びの意味と組織や社会で求められるコミュニケーション力や自己管理力、チャレンジする力と結び付けて考えられる
- 自分の課題を発見し、行動につなげることができる

本学のキャリア教育は、いわゆる正課科目（単位が付与される授業科目）のほか、正課外での充実した講座、サポートプログラムから構成されています。これを包括的に「キャリアに関する学び」と捉え、授業科目と就職課が主催する就職支援講座、セミナー、ガイダンス、内定者報告会、実践講座などを組み合わせ、大学のリソースを最大限に活用してください。

キャリアに関する学び	正　課	総合課題科目 社会と仕事を学ぶ	キャリア形成の理解 キャリア系の知識を深める 社会人基礎力の修得と実践 キャリア実習（短期・長期インターンシップ）
		学部・学科専門科目	実習、演習科目などのほか 産業構造、労働環境を扱う講義科目等
	正課外	就職講座 キャリア形成サポートプログラム 就職支援	低学年対象キャリア講座 就職ガイダンス 内定者報告会 実践講座

1年次 → 2年次 → 3年次 → 4年次

履修方法

学生の主体的、自発的な履修を期待して、基礎教養・総合課題科目の必修科目は少なくしています。学部、学科に関わらず、自由に選択して履修し、修得した単位を卒業に必要な単位として算入できます。

基礎教養・総合課題科目は低学年次のみを対象としたものではありません。専門科目での学びが深化するにつれて、その必要性を強く感じられることになる理論、科学的手法や思考方法の修得にも役立つよう設計されています。

キリスト教科目

1．指定クラス

キリスト教科目は、全学部生の必修科目です。

授業科目名	単　位　数	履修年次	履　修　上　の　注　意
キリスト教Ⅰ	2単位必修	1年次前期 指定クラス	①重複履修はできません。 ②原則としてクラス変更はできません。（p.20参照）
キリスト教Ⅱ キリスト教Ⅲ	2単位必修 （1科目以上選択）	1～4年次	異なる講義題目のものを複数履修した場合、修得単位は全て卒業に必要な単位にできます。

2．編入学者

2・3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」から4単位を必修とします。3年次編入学者のみ「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。

本学編入学以前に他大学等で修得した「キリスト教」関連科目は、必修相当としての単位認定の対象外です。（p.156参照）

2015年度開講「キリスト教」関連科目

▲は他学部・他学科開放科目

種　　別	開放	科　目　名	単位 前	単位 後	履修年次	開講校舎
英語英米文学科／英文学科専門科目	▲	キリスト教と英米文学1		2	234	緑園
	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
日本語日本文学科／日本文学科専門科目	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
	▲	キリスト教と日本文学		2	1234	緑園
コミュニケーション学科専門科目	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
国際交流学科専門科目	▲	世界の宗教		2	1234	緑園
音楽芸術学科専門科目 演奏学科専門科目	▲	キリスト教音楽概論1	2		234	山手
音楽芸術学科専門科目	▲	賛美歌学	2		12	緑園

特別な手続きが必要な科目

1．「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」

学外でのボランティア活動の実働時間に応じて、卒業に必要な単位として認定される科目です。それぞれ45時間以上、90時間以上、270時間以上が各科目の基準です。これらの3科目は複数又は重複して履修できます。履修希望者は、シラバスを参照の上、ボランティアセンターが開催するボランティア説明会（4・5・7・10月）に出席し、「履修の手引き」にしたがって履修手続きをしてください。なお、卒業年次生が卒業学期に履修登録できるのは、各科目の基準の活動時間を超えている場合に限ります。

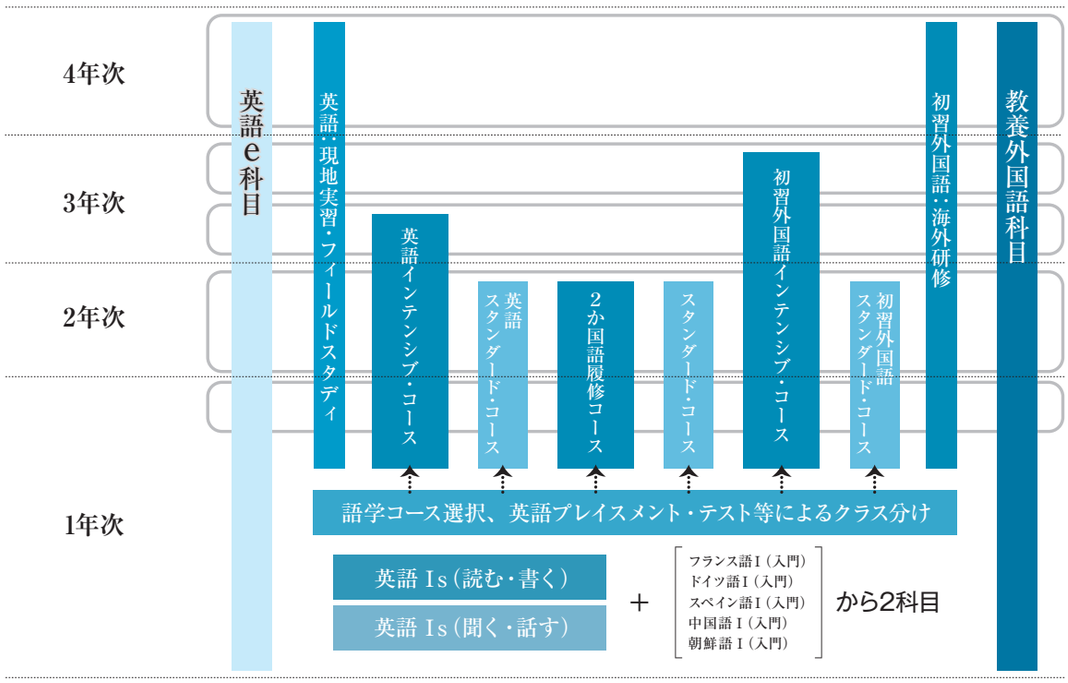
2．「キャリア実習（短期インターンシップ）」「キャリア実習（長期インターンシップ）」

人材育成専門の教員による事前・事後指導等、充実したサポート体制の下インターンシップに参加する科目です。履修希望者は、就職課主催の説明会（春：10月、夏：5月）に出席し、募集要項にしたがって申し込み手続きをしてください。

3．「音楽実技 A, B」：履修者数制限科目

音楽学部を有する総合大学であるフェリスのメリットを活かし、全学部生が通常の時間割の中で実技レッスンを受けられる科目です。レッスンは原則としてグループ形式で行われ、特別な音楽経験がなくても履修可能です。声楽、ピアノ、オルガン、室内合唱の4分野から選択できます。履修希望者は、前期、後期初めの指定された期間に申し込み手続きをしてください。

英語科目・初習外国語科目カリキュラムマップ



語 学 科 目

カリキュラムの説明

学科ごとの詳しい説明は「語学科目ハンドブック」に掲載しているので、必ず確認してください。

履修方法

1．語学科目群

本学で開講する語学科目群は、次のように構成されています。

- 英語
- 初習外国語：フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語
- 教養外国語：古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語
- 日　本　語：「日本語Ⅰ・Ⅱ」

2．語学科目の種類

（1）英語

① インテンシブ科目（ｉ科目）

英語インテンシブ・コースの学生のみが履修できる科目です。履修するクラスについては、英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。

② スタンダード科目（ｓ科目）

英語科目を必修として履修する学生のための科目です。履修するクラスについては、入学時に実施するアンケート及び英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。

③ 英語選択科目（ｅ科目）

全学生が自由に履修できる科目で、全ての科目が初回授業時選抜科目です。選抜は、事前に発表する優先順位に従って行われます。

英文学科の2か国語履修コースの学生は、ｅ科目を4単位修得する必要があります。

（2）初習外国語

① 「Ⅰ（入門）」科目

前期にのみ開講する入門科目です。各言語の特徴、文化的背景、発音・文法の基礎、会話の初歩などを学びます。

② インテンシブ科目（ｉ科目）

主に初習外国語インテンシブ・コースの学生が履修できる科目です。

文法、読む、話す、書く、LL の中から、1年次後期、2年次前期は週6回、2年次後期は週4回、3年次前期・後期は週1回以上の授業を履修します。

③ スタンダード科目（ｓ科目）

文法、読む、話す、LL の中から、1年次後期、2年次前期・後期に週2回の授業を履修します。

④ 演奏学科優先のドイツ語科目

「ドイツ語Ⅰ（文法）」「ドイツ語Ⅰ（読む）」「ドイツ語Ⅱｓ（文法）」「ドイツ語Ⅱｓ（読む）」を前期・後期通して履修します。

（3）教養外国語

全学生が自由に履修できる科目です。

ただし、イタリア語には音楽学部演奏学科を対象としているものがあります。（開講科目表参照）

（4）日本語

全学生が自由に履修できる科目です。

3．語学履修コース・言語の選択

所属する学部・学科により、卒業に必要な語学の単位数と選択できる語学履修コース・言語の種類が異なります（pp.63～76「各学部・学科の語学科目履修方法」参照）。外国人留学生の語学科目履修方法については p.146～149を参照してください。

履修コースや言語の種類を選択する際には、「語学科目ハンドブック」を熟読してください。語学責任者、所属学科の教務委員（p.170参照）に相談することもできます。

【2015年度入学者の「語学履修コース・言語選択届」提出期間】

各学生の履修コース・言語は、「語学履修コース・言語選択届」に基づき決定されます。

「語学履修コース・言語選択届」提出以降、コース開始前の履修コース・言語の変更は原則として認められません。

対象者	期　　間	提出先
1年次全員	2015年6月3日（水）～6月5日（金）	言語センター

4．履修許可

英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コースについては、希望者が定員を超えた場合は選抜を行い、履修許可者を決定します。

（1）英語インテンシブ・コース

希望者が多い場合は、英語プレイスメント・テストの結果に基づいて選抜し、履修許可者（定員180名：文学部・音楽学部116名、国際交流学部64名）を決定します。

（2）初習外国語インテンシブ・コース

当該言語の「Ⅰ（入門）」を履修していることが前提となります。

希望者が多い場合は、次の基準で選抜し、履修許可者を決定します。

① 各言語の初習外国語インテンシブ・コースの希望者が、第1希望の段階で25名を超えた場合に選抜が行われる。

② 遅延者及び未提出者等手続に不備のあった者については、選抜から外れる。

③ 当該言語の「Ⅰ（入門）」の履修状況により、優先順位が低くなることがある。

④ 第1希望の段階で選抜のあった言語のインテンシブ・コースに、第2・第3希望の者が許可されることはない。

また、第2希望の段階で選抜のあった言語のインテンシブ・コースに、第3希望の者が許可されることはない。

⑤ 「Ⅰ（入門）」の成績評価により、初習外国語インテンシブ・コースの履修許可を取り消されることがある。

5．語学科目のクラス指定

英語科目と初習外国語科目では、クラス指定の方法が異なります。

学期ごとに自分の指定クラスを掲示、学生要覧等でよく確認してください。

また、指定されたクラス以外で履修することは、原則として認められません。やむを得ない理由によりクラス変更を希望する場合には、手続が必要です（p.20「クラス指定及び変更手続」参照）。

(1) 英語科目

英語科目（必修相当）のクラスは、語学履修コースにかかわらず入学時に実施するアンケート及び英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。指定されたクラスの英語科目は、自動で履修登録されます。

① 英語インテンシブ科目（ｉ科目）

1年次7月に1年次後期分、1年次3月に2年次前期・後期分、2年次3月に3年次前期分の指定クラスが発表されます。各クラスはＡ～Ｊクラスの習熟度別に編成されており、クラス定員は18名です。

② 英語スタンダード科目（ｓ科目）

1年次4月に1年次前期分、7月に1年次後期分、1年次3月に2年次前期・後期分の指定クラスが発表されます。各クラスは習熟度別に編成されています。

(2) 初習外国語科目

① 初習外国語インテンシブ科目

初習外国語インテンシブ科目の中から、各自卒業に必要な単位を満たすよう履修してください。

各言語で開講されているインテンシブ科目のうち、「Ⅱｉ（LL)」「Ⅲｉ（話す)」「Ⅲｉ（LL)」「Ⅳｉ（話す)」科目でクラスが複数設けられている場合には、語学責任者（p.170）から指定されたクラスを履修してください。

初習外国語インテンシブ科目は、すべて各自で履修登録をする必要があります。

② 初習外国語スタンダード科目のクラス指定

各学期始めに、所属する学部・学科・語学履修コースによってクラスが指定されます。指定されたクラスの科目は、各自で履修登録をしてください。

6．初習外国語「Ⅰ（入門)」の履修方法

開講科目表を確認の上、所属する学部・学科の指定クラスの中から履修するクラスを選択し、初回の授業に必ず出席してください。履修希望者が多い場合は、授業内で選抜を行うことがあります。

7．英語プレイスメント・テストの受験

英語プレイスメント・テストは、英語インテンシブ科目・英語スタンダード科目の習熟度別クラス編成及び理解度・達成度を確認するために実施されます。

英語インテンシブ科目履修者は、1年次6月、1月及び2年次1月の計3回、英語スタンダード科目履修者は1年次6月に、英語プレイスメント・テストを受験しなければなりません。

受験対象者は、掲示で発表される詳細を確認の上、必ず受験してください。

【英語プレイスメント・テスト実施日程】

	日　　程
第１回	2015年6月12日（金）
第２回	2016年1月29日（金）

8．語学科目の再履修

語学科目の再履修は、次の原則に従うこととします。

(1) 英語科目

未修得科目	再履修可能科目	備　　考
英語インテンシブ科目（ｉ）	英語スタンダード科目（ｓ）、英語ｅ科目	英語インテンシブ科目（ｉ）による再履修は不可。
英語スタンダード科目（ｓ）	英語スタンダード科目（ｓ）、英語ｅ科目	

学期初めの掲示を確認し、指定された期間に再履修クラスの申し込みをしてください。時間割の制約等、やむを得ない理由により他のクラスで再履修する場合には、履修相談時に申し出てください。（履修相談時には、必ず FerrisPassport の成績照会画面をプリントしたものを持参すること。）

なお、英語 e 科目で再履修する場合は履修相談は不要です。各自シラバスをよく確認した上で履修登録してください。

（2）初習外国語科目

学期初めの掲示を確認し、所属する学部・学科の指定クラスで再履修してください。時間割の制約等、やむを得ない理由により他のクラスで再履修する場合には、履修相談時に申し出てください。（履修相談時には、必ず FerrisPassport の成績照会画面をプリントしたものを持参すること。）

なお、初習外国語インテンシブ・コースについては、コース修了者として認定される科目が別表（p.62）のとおり定められています。

① 未修得の科目と同種類の科目を再履修すること。

未修得科目	再履修科目
初習外国語インテンシブ科目（ｉ）	初習外国語インテンシブ科目（ｉ） 又は初習外国語スタンダード科目（ｓ）
初習外国語スタンダード科目（ｓ）	初習外国語スタンダード科目（ｓ）

② 未修得の科目と同じローマ数字の付された科目を再履修すること。なお、初習外国語科目に付されているローマ数字は、次のとおり対応しています。

【ローマ数字対応表】

未修得科目	再履修科目	備　　考
Ⅰ	Ⅰ、Ⅱ	Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ科目による再履修も可。
Ⅱ	Ⅰ、Ⅱ	
Ⅲ	Ⅲ、Ⅳ	Ⅴ、Ⅵ科目による再履修も可。
Ⅳ	Ⅲ、Ⅳ	
Ⅴ	Ⅴ、Ⅵ	
Ⅵ	Ⅴ、Ⅵ	

9．語学履修コース・言語の変更

語学履修コース・言語の変更を希望する場合には、「語学履修コース・言語変更願」の提出により、変更が認められます。年次により提出時期が異なります。下記の表を参照してください。

（1）英語インテンシブ・コースに関わる変更

① 他コースから英語インテンシブ・コースへの変更

定員に欠員が生じた場合のみ、英語プレイスメント・テストの結果に基づき、審査の上、可否を決定することとします。欠員の有無については、英語の語学責任者（p.170）に問い合わせてください。

② 英語インテンシブ・コースから他コースへの変更

英語インテンシブ・コースから他コースへ変更を希望する場合は、「語学履修コース・言語変更願」を提出する前に、必ず当該言語の語学責任者（p.170）と十分相談してください。

③ 英語インテンシブ・コースから英語スタンダード・コースへの変更

次ページの表の日程のほかに、次の履修相談日にも、英語インテンシブ・コースから英語スタンダード・コースへの変更の相談を受け付けます。

【相談受付期間】 前期：4月8日（水）
後期：9月15日（火）
＊時間は FerrisPassport の掲示で確認してください。

(2) 初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更

初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更を希望する場合は、「語学履修コース・言語変更願」を提出する前に、必ず当該言語の語学責任者（p.170）と十分相談してください。

【「語学履修コース・言語変更願」提出期間】

期　　間	年　　次	変更適用時期	提出先
2015年4月20日（月）～4月24日（金）	4年次生	2015年度前期から	教務課
2015年7月6日（月）～7月10日（金）	2・3年次生	2015年度後期から	
2015年10月5日（月）～10月9日（金）	4年次生	2015年度後期から	
2016年1月4日（月）～1月8日（金）	1・2・3年次生	2016年度前期から	

10.　英語インテンシブ・コースの継続履修条件

英語インテンシブ・コース履修者に対しては、2年次後期までの計3回（1年次6月・1月及び2年次1月）英語プレイスメント・テストを受験することを継続履修の条件としています。英語インテンシブ・コース履修者のうち、テストを受験しなかった者に対しては、原則として次学期以降の英語インテンシブ科目の履修を認めません。

11.　インテンシブ・コース修了者の成績証明書

英語インテンシブ・コース及び初習外国語インテンシブ・コース履修者のうち、「必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した者」について、成績証明書に「インテンシブ・コース修了者」である旨記載しています。

なお、英語インテンシブ・コース履修者については、「必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した者」であり、かつ「2年次後期までの計3回（1年次6月・1月及び2年次1月）英語プレイスメント・テストを受験した者」を対象とします。

また、2年次編入学者についても、上記と同じ条件を満たした場合には、「インテンシブ・コース修了者」として記載されます。

記載される内容・条件は次のとおりです。

(1) インテンシブ・コースの成績証明書

	英語インテンシブ・コース修了者	初習外国語インテンシブ・コース修了者
認定の条件	①必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得すること。 ②2年次後期まで毎回英語プレイスメント・テストを受験すること。	必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得すること。
修得すべき科目	別表（p.61）のとおり	別表（p.62）のとおり
記載される内容（例）	英語インテンシブ・コース修了	初習外国語インテンシブ・コース修了（○○語）
修了判定の時期	3年次前期までの修得状況に基づき、判定される。 3年次後期（9月）に交付される成績通知書から記載される。	3年次後期までの修得状況に基づき、判定される。 4年次前期（4月）に交付される成績通知書から記載される。

インテンシブ・コース修了者として認定されるために、必修相当として修得すべき科目は、次のとおりです。

英語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

文学部・国際交流学部		音楽学部	
授業科目名	履修方法	授業科目名	履修方法
初習外国語「○○語Ⅰ（入門）」 初習外国語「△△語Ⅰ（入門）」 初習外国語「○○語Ⅱs（文法）」 初習外国語「○○語Ⅱs（読む）」 初習外国語「○○語Ⅱs（LL）」	この中から 2単位修得	初習外国語「○○語Ⅰ（入門）」 初習外国語「△△語Ⅰ（入門）」 初習外国語「○○語Ⅱs（文法）」 初習外国語「○○語Ⅱs（読む）」 初習外国語「○○語Ⅱs（LL）」	この中から 2単位修得
英語Ⅰs（読む・書く） 英語Ⅰs（聞く・話す）	すべて修得	英語Ⅰs（読む・書く） 英語Ⅰs（聞く・話す）	すべて修得
英語Ⅱi（Reading） 英語Ⅱi（Writing） 英語Ⅱi（Listening） 英語Ⅱi（Speaking） 英語Ⅱi（Language Development） 英語Ⅱi（講読）	すべて修得	英語Ⅱi（Reading） 英語Ⅱi（Writing） 英語Ⅱi（Listening） 英語Ⅱi（Speaking） 英語Ⅱi（Language Development） 英語Ⅱi（講読）	すべて修得
英語Ⅲi（Reading） 英語Ⅲi（Writing） 英語Ⅲi（Listening） 英語Ⅲi（Speaking） 英語Ⅲi（Language Development）	すべて修得	英語Ⅲi（Reading） 英語Ⅲi（Writing） 英語Ⅲi（Listening） 英語Ⅲi（Speaking） 英語Ⅲi（Language Development）	すべて修得
英語Ⅳi（Reading） 英語Ⅳi（Writing） 英語Ⅳi（Listening） 英語Ⅳi（Speaking） 英語Ⅳi（講読）	すべて修得	英語Ⅳi（Reading） 英語Ⅳi（Writing） 英語Ⅳi（Listening） 英語Ⅳi（Speaking） 英語Ⅳi（講読）	すべて修得
英語Ⅴi（Reading） 英語Ⅴi（Speaking）	すべて修得	英語Ⅴi（Reading） 英語Ⅴi（Speaking） ※Ⅴi科目にかえて 英語e科目を2単位履修で充当可	すべて修得

※外国人留学生は、上記科目のうち初習外国語科目2単位分を「留学生日本語」によって満たすことができます。

初習外国語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

例：フランス語インテンシブ・コースの場合

文学部日本文学科・コミュニケーション学科・音楽学部・国際交流学部	
授業科目名	履修方法
英語Ⅰｓ（読む・書く） 英語Ⅰｓ（聞く・話す）	すべて修得
フランス語Ⅰ（入門） ドイツ語Ⅰ（入門） スペイン語Ⅰ（入門） 中国語Ⅰ（入門） 朝鮮語Ⅰ（入門）	この中から2単位修得
フランス語Ⅱｉ（文法） フランス語Ⅱｉ（読む1） フランス語Ⅱｉ（読む2） フランス語Ⅱｉ（LL）	すべて修得
フランス語Ⅲｉ（文法） フランス語Ⅲｉ（読む） フランス語Ⅲｉ（話す） フランス語Ⅲｉ（書く） フランス語Ⅲｉ（LL）	すべて修得
フランス語Ⅳｉ（読む1） フランス語Ⅳｉ（読む2） フランス語Ⅳｉ（話す） フランス語Ⅳｉ（書く） フランス語Ⅳｉ（LL）	この中から4単位修得
フランス語Ⅴｉ（読む） フランス語Ⅴｉ（話す） フランス語Ⅴｉ（書く） フランス語Ⅴｉ（LL）	この中から1単位修得
フランス語Ⅵｉ（読む） フランス語Ⅵｉ（話す） フランス語Ⅵｉ（書く） フランス語Ⅵｉ（LL）	この中から1単位修得

※外国人留学生は、上記科目のうち英語科目2単位分を「留学生日本語」によって満たすことができます。

各学部・学科の語学科目履修方法

外国人留学生の語学科目履修方法については、p.146～ p.149を参照してください。

文学部英語英米文学科／英文学科

（1）英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	6	5	5	2				20	22	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ｉs（読む・書く） [1] 英語Ｉs（聞く・話す） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語II i (Reading) [1] 英語II i (Writing) [1] 英語II i (Listening) [1] 英語II i (Speaking) [1] 英語II i (Language Development) [1] 英語II i (講読) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語III i (Reading) [1] 英語III i (Writing) [1] 英語III i (Listening) [1] 英語III i (Speaking) [1] 英語III i (Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IV i (Reading) [1] 英語IV i (Writing) [1] 英語IV i (Listening) [1] 英語IV i (Speaking) [1] 英語IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語Ｉ（入門）科目】 ○○語Ｉ（入門） [1] △△語Ｉ（入門） [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】 英語V i (Reading) [1] 英語V i (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により　20単位

初習外国語のＩ，IIが付された科目により　2単位

（2）２か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	2	2	2					12	20	32
英語ｅ科目	※4										
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs（読む・書く）[1] 英語Ⅱs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs（読む・書く）[1] 英語Ⅲs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs（読む・書く）[1] 英語Ⅳs（聞く・話す）[1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】 ○○語Ⅰ（入門）[1] △△語Ⅰ（入門）[1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs（文法） ○○語Ⅱs（読む） ○○語Ⅱs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs（文法） ○○語Ⅲs（読む） ○○語Ⅲs（話す） ○○語Ⅲs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs（読む）* ○○語Ⅳs（話す） ○○語Ⅳs（LL） この中から2単位を修得

※英語ｅ科目を1年次前期から3年次前期までの間に、4単位追加選択履修が必要。

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により　12単位

初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により　4単位

初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により　4単位

文学部日本語日本文学科／日本文学科、コミュニケーション学科

（1）英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	6	5	5	2				20	22	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ｉs（読む・書く） [1] 英語Ｉs（聞く・話す） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IIi (Reading) [1] 英語IIi (Writing) [1] 英語IIi (Listening) [1] 英語IIi (Speaking) [1] 英語IIi (Language Development) [1] 英語IIi（講読） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IIIi (Reading) [1] 英語IIIi (Writing) [1] 英語IIIi (Listening) [1] 英語IIIi (Speaking) [1] 英語IIIi (Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IVi (Reading) [1] 英語IVi (Writing) [1] 英語IVi (Listening) [1] 英語IVi (Speaking) [1] 英語IVi（講読） [1]
初習外国語	【初習外国語Ｉ（入門）科目】 ○○語Ｉ（入門） [1] △△語Ｉ（入門） [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】 英語Vi (Reading) [1] 英語Vi (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により　20単位

初習外国語のＩ，IIが付された科目により　2単位

（2）初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2								2	22	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ｉｓ(読む・書く)　[1] 英語Ｉｓ(聞く・話す)　[1]			
初習外国語	【初習外国語Ｉ（入門）科目】 ○○語Ｉ（入門）　[1] △△語Ｉ（入門）　[1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅡＩ(文法)　[3] ○○語ⅡＩ(読む1)　[1] ○○語ⅡＩ(読む2)　[1] ○○語ⅡＩ(LL)　[1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅢＩ(文法)　[2] ○○語ⅢＩ(読む)　[1] ○○語ⅢＩ(話す)　[1] ○○語ⅢＩ(書く)　[1] ○○語ⅢＩ(LL)　[1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅣＩ(読む1) ○○語ⅣＩ(読む2) ○○語ⅣＩ(話す) ○○語ⅣＩ(書く) ○○語ⅣＩ(LL) この中から4単位以上を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅤＩ(読む) ○○語ⅤＩ(話す) ○○語ⅤＩ(書く) ○○語ⅤＩ(LL) この中から1単位以上を修得	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅥＩ(読む) ○○語ⅥＩ(話す) ○○語ⅥＩ(書く) ○○語ⅥＩ(LL) この中から1単位以上を修得

卒業に必要な単位数

英語科目により	2単位
初習外国語のＩ，ⅡＩが付された科目により	8単位
初習外国語のⅢ，ⅣＩが付された科目により	10単位
初習外国語のⅤ，ⅥＩが付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	2	2	2					8	10	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs(読む・書く) [1] 英語Ⅲs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs(読む・書く) [1] 英語Ⅳs(聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により　8単位

初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により　2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2								2	10	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs(文法) ○○語Ⅱs(読む) ○○語Ⅱs(LL) この中から2単位以上を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs(文法) ○○語Ⅲs(読む) ○○語Ⅲs(話す) ○○語Ⅲs(LL) この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs(読む)* ○○語Ⅳs(話す) ○○語Ⅳs(LL) この中から2単位を修得

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により　2単位

初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により　4単位

初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により　4単位

(5) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	2	2	2					8	16（*）	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

＊：卒業に必要な単位数10を含む

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く） [1] 英語Ⅰs（聞く・話す） [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs（読む・書く） [1] 英語Ⅱs（聞く・話す） [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs（読む・書く） [1] 英語Ⅲs（聞く・話す） [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs（読む・書く） [1] 英語Ⅳs（聞く・話す） [1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】 ○○語Ⅰ（入門） [1] △△語Ⅰ（入門） [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs（文法） ○○語Ⅱs（読む） ○○語Ⅱs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs（文法） ○○語Ⅲs（読む） ○○語Ⅲs（話す） ○○語Ⅲs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs（読む）* ○○語Ⅳs（話す） ○○語Ⅳs（LL） この中から2単位を修得

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

(3) 英語スタンダード・コース（p.67）又は（4）初習外国語スタンダード・コース（p.67）のいずれかの履修方法により修得すること。

すなわち
- 英語科目により　8単位
- 初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により　2単位

または、
- 英語科目により　2単位
- 初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により　4単位
- 初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により　4単位

国際交流学部の語学科目履修方法

（1）英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	6	5	5	2				20	22	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ｉs（読む・書く） [1] 英語Ｉs（聞く・話す） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IIi (Reading) [1] 英語IIi (Writing) [1] 英語IIi (Listening) [1] 英語IIi (Speaking) [1] 英語IIi (Language Development) [1] 英語IIi（講読） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IIIi (Reading) [1] 英語IIIi (Writing) [1] 英語IIIi (Listening) [1] 英語IIIi (Speaking) [1] 英語IIIi (Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IVi (Reading) [1] 英語IVi (Writing) [1] 英語IVi (Listening) [1] 英語IVi (Speaking) [1] 英語IVi（講読） [1]
初習外国語	【初習外国語Ｉ（入門）科目】 ○○語Ｉ（入門） [1] △△語Ｉ（入門） [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】 英語Vi (Reading) [1] 英語Vi (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により　20単位

初習外国語のＩ，IIが付された科目により　2単位

（2）初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2								2	22	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）[1]			
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】 ○○語Ⅰ（入門）[1] △△語Ⅰ（入門）[1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅱi（文法）[3] ○○語Ⅱi（読む1）[1] ○○語Ⅱi（読む2）[1] ○○語Ⅱi（LL）[1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅲi（文法）[2] ○○語Ⅲi（読む）[1] ○○語Ⅲi（話す）[1] ○○語Ⅲi（書く）[1] ○○語Ⅲi（LL）[1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅳi（読む1） ○○語Ⅳi（読む2） ○○語Ⅳi（話す） ○○語Ⅳi（書く） ○○語Ⅳi（LL） この中から4単位以上を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅴi（読む） ○○語Ⅴi（話す） ○○語Ⅴi（書く） ○○語Ⅴi（LL） この中から1単位以上を修得	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語Ⅵi（読む） ○○語Ⅵi（話す） ○○語Ⅵi（書く） ○○語Ⅵi（LL） この中から1単位以上を修得

卒業に必要な単位数

英語科目により	2単位
初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により	8単位
初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により	10単位
初習外国語のⅤ，Ⅵが付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	2	2	2					8	10	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs(読む・書く) [1] 英語Ⅲs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs(読む・書く) [1] 英語Ⅳs(聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により　8単位

初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により　2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2								2	10	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs(文法) ○○語Ⅱs(読む) ○○語Ⅱs(LL) この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs(文法) ○○語Ⅲs(読む) ○○語Ⅲs(話す) ○○語Ⅲs(LL) この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs(読む)* ○○語Ⅳs(話す) ○○語Ⅳs(LL) この中から2単位を修得

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により　2単位

初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により　4単位

初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により　4単位

（5）２か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	2	2	2					8	16	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs（読む・書く）[1] 英語Ⅱs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs（読む・書く）[1] 英語Ⅲs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs（読む・書く）[1] 英語Ⅳs（聞く・話す）[1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】 ○○語Ⅰ（入門）[1] △△語Ⅰ（入門）[1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs（文法） ○○語Ⅱs（読む） ○○語Ⅱs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs（文法） ○○語Ⅲs（読む） ○○語Ⅲs（話す） ○○語Ⅲs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs（読む）* ○○語Ⅳs（話す） ○○語Ⅳs（LL） この中から2単位を修得

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	8単位
初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により	4単位
初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により	4単位

音楽学部の語学科目履修方法

【卒業に必要な単位数】

次の（1）・（2）・（3）いずれのコースも、すべての語学科目の中から選択した科目により8単位を修得すること。

（1）スタンダード・コース

代表的な履修パターンは、次のとおりです。

教養外国語科目、「日本語Ⅰ・Ⅱ」を選択して履修することも可能です。

① 英語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英　　語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs（読む・書く）[1] 英語Ⅱs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs（読む・書く）[1] 英語Ⅲs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs（読む・書く）[1] 英語Ⅳs（聞く・話す）[1]

② 初習外国語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
初習外国語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】 ○○語Ⅰ（入門）[1] △△語Ⅰ（入門）[1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs（文法） ○○語Ⅱs（読む） ○○語Ⅱs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs（文法） ○○語Ⅲs（読む） ○○語Ⅲs（話す） ○○語Ⅲs（LL） この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs（読む）* ○○語Ⅳs（話す） ○○語Ⅳs（LL） この中から2単位を修得

*：同一科目の重複履修可能

③ 英語と初習外国語を履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英　　語	2	2							8	32
初習外国語	2	2								

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs（読む・書く）[1] 英語Ⅱs（聞く・話す）[1]		
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】 ○○語Ⅰ（入門）[1] △△語Ⅰ（入門）[1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs（文法） ○○語Ⅱs（読む） ○○語Ⅱs（LL） この中から2単位を修得		

※ 英語又は初習外国語「Ⅲs」以降を引き続いて履修することもできます。

④　英語とイタリア語を履修する場合

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）　[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）　[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs（読む・書く）　[1] 英語Ⅱs（聞く・話す）　[1]		
イタリア語	イタリア語Ⅰ（文法）　[1] イタリア語Ⅰ（読む）　[1]	イタリア語Ⅱ（文法）　[1] イタリア語Ⅱ（読む）　[1]		

※「英語Ⅲs（読む・書く）」「英語Ⅲs（聞く・話す）」「英語Ⅳs（読む・書く）」「英語Ⅳs（聞く・話す）」を引き続き履修することもできます。

⑤　イタリア語とドイツ語を履修する場合（演奏学科）

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
イタリア語	2	2							8	32
ドイツ語			2	2						

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
イタリア語	イタリア語Ⅰ（文法）　[1] イタリア語Ⅰ（読む）　[1]	イタリア語Ⅱ（文法）　[1] イタリア語Ⅱ（読む）　[1]		
ドイツ語			ドイツ語Ⅰ（文法）　[1] ドイツ語Ⅰ（読む）　[1]	ドイツ語Ⅱs（文法）　[1] ドイツ語Ⅱs（読む）　[1]

※ドイツ語を1年次に、イタリア語を2年次に履修することもできます。

（2）英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2	6	5	5	2＊＊				20	22（＊）	32
初習外国語	2								2		

＊：卒業に必要な単位数８を含む。

＊＊音楽学部の学生は、上記科目のうちVi科目２単位を、３年次前期までの間に英語ｅ科目を２単位修得することにより満たすことができます。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ｉｓ(読む・書く) [1] 英語Ｉｓ(聞く・話す) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅱｉ(Reading) [1] 英語Ⅱｉ(Writing) [1] 英語Ⅱｉ(Listening) [1] 英語Ⅱｉ(Speaking) [1] 英語Ⅱｉ(Language Development) [1] 英語Ⅱｉ(講読) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅲｉ(Reading) [1] 英語Ⅲｉ(Writing) [1] 英語Ⅲｉ(Listening) [1] 英語Ⅲｉ(Speaking) [1] 英語Ⅲｉ(Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅳｉ(Reading) [1] 英語Ⅳｉ(Writing) [1] 英語Ⅳｉ(Listening) [1] 英語Ⅳｉ(Speaking) [1] 英語Ⅳｉ(講読) [1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】 ○○語Ⅰ（入門） [1] △△語Ⅰ（入門） [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅴｉ(Reading) [1] 英語Ⅴｉ(Speaking) [1]
初習外国語	

(3) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英　　語	2								2	22（＊）	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

＊：卒業に必要な単位数８を含む。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ｉｓ(読む・書く) [1] 英語Ｉｓ(聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語Ｉ（入門）科目】 ○○語Ｉ（入門） [1] △△語Ｉ（入門） [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅡＩ(文法) [3] ○○語ⅡＩ(読む1) [1] ○○語ⅡＩ(読む2) [1] ○○語ⅡＩ(LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅢＩ(文法) [2] ○○語ⅢＩ(読む) [1] ○○語ⅢＩ(話す) [1] ○○語ⅢＩ(書く) [1] ○○語ⅢＩ(LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅣＩ(読む1) ○○語ⅣＩ(読む2) ○○語ⅣＩ(話す) ○○語ⅣＩ(書く) ○○語ⅣＩ(LL) この中から4単位以上を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅤＩ(読む) ○○語ⅤＩ(話す) ○○語ⅤＩ(書く) ○○語ⅤＩ(LL) この中から1単位以上を修得	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語ⅥＩ(読む) ○○語ⅥＩ(話す) ○○語ⅥＩ(書く) ○○語ⅥＩ(LL) この中から1単位以上を修得

文学部

英語英米文学科／英文学科

日本語日本文学科／日本文学科

コミュニケーション学科

文学部の人材養成目的

　文学の領域に関する高度の教育研究を行い、多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養を身に付けた人材を養成する。（学則第2条の2）

文学部について

フェリス女学院大学は、メアリー・キダーの私塾の頃から、英語圏の「ことば」と文化についての教育と日本文学の教育に力を入れてきました。これに伝統ある音楽教育を加えれば、フェリスは「表現」や「文化」について追求し、優秀な女性たちを社会に輩出してきたと言うことができると思います。

沿革にもあるように、1950年に短期大学として英文学科を設立、65年には四年制大学を開設し文学部において英文学科と国文学科を擁します。88年には文学部に国際文化学科を開設（のちの国際交流学部国際交流学科）、国文学科は93年から日本文学科と名称変更し、99年には英文・日文の両者にまたがる「コミュニケーション科目」を設置して、2004年にはコミュニケーション学科を開設し、伝統的な文学部の中でも常に時代の先端を切り拓いてきました。

そのような変遷をたどりながら文学部は、2014年度から英文学科と日本文学科の名称を変更し、英語英米文学科、日本語日本文学科、コミュニケーション学科の三学科体制となりました。

文学は、人間の言語による表現行為であるとともに、社会や文化の営為でもあります。想像力を行使し、思考・思想等を表現し、発見をおこなう主体である人間は、社会や文化の影響を受けており、一方で表現＝コミュニケートすることで社会や文化を変容させていきます。しかもそれが世界レベルで生じ、入り交じっている現在こそ、人間のいとなみである「文学」行為や表現を学び、研究することは、非常に重要なことであり、そこにこそ文学部の存在意義があるとフェリスは考えます。また、人間の不幸や対立、社会の貧困などについても、文学は深い関心を抱き続け、その対象化作業がこれからも必要なことは言うまでもありません。さらに文学は現在、言語による表現のみならず、広く映像表現や音楽表現、身体表現、デザインなどの形をとるとともに、出版物だけでなく放送や通信などの新しいデジタル・メディアを通じても人びとに伝えられてもいます。

このように、私たちの想像力や文化を活性化し、社会を柔軟性に富んだものにするためにも、いまほど大学において文学部が必要とされている時代はありません。

本学の英語英米文学科は、コミュニケーションの手段としての英語運用能力を養うとともに、イギリス、アメリカなど英語圏の文学やメディア表現、さらに社会・文化のあり方について研究します。

日本語日本文学科は、オーソドックスに、時代区分ごとの分野を網羅し、日本語で書かれた文学や表現、日本の文化を研究するとともに、コミュニケーション手段としての日本語について追究します。

コミュニケーション学科は、共生コミュニケーション、多文化社会、メディアと表現などの切り口から、多様化する現代社会と人間関係を社会科学的・文化学的にとらえる力をつけます。

また、三学科共通するものとして、1年次の「R&R（入門ゼミ）」や、最新の文学理論・文化理論を学べる科目群も揃っています。

いずれも、その分野で一流の研究者や実務家である専任教員や非常勤の先生方が、講義をしたり討論をうながしたり、研究のヒント、また人生のヒントを与えてくれたりします。授業は概して少人数で行われ、ワークで進行するもの、教室の外へ出るものも少なくありません。学生のみなさんが、このようにめぐまれた条件の下で学び、社会へ旅立ってくれることを願っています。

文学部専門科目カリキュラム（2015年度入学者）

英語英米文学科

群		
I	基礎を学ぶ	
	R & R（入門ゼミ）	英米文化基礎ゼミ
II	全体像を知る	
	イギリス研究入門1	アメリカ研究入門1
	イギリス研究入門2	アメリカ研究入門2
	イギリス研究入門3	アメリカ研究入門3
	イギリス研究入門4	アメリカ研究入門4
	イギリス研究入門5	英語学研究入門1
		英語学研究入門2
	Advanced English	
	Academic Writing 1	英米文化専門講読1
	Academic Writing 2	英米文化専門講読2
	Global Issues 1	英米文化専門講読3
	Global Issues 2	英米文化専門講読4
	Business Communication 1	英米文化専門講読5
	Business Communication 2	英米文化専門講読6
	Literature and Culture 1	英米文化専門講読7
	Literature and Culture 2	英米文化専門講読8
	English for Children 1	英米文化専門講読9
	English for Children 2	英米文化専門講読10
		英米文化専門講読11
III	専門と出会う	
	英米文化発展ゼミ	
	英語圏の文化と社会	
	イギリス史1	アメリカの政治と社会1
	イギリス史2	アメリカの政治と社会2
	イギリス史3	アメリカの思想と宗教
	イギリスの政治と社会1	アメリカの文化
	イギリスの政治と社会2	現代アメリカ論1
	イギリスの思想と宗教	現代アメリカ論2
	イギリスの文化	カナダの社会と文化
	現代イギリス論	オーストラリアの社会と文化1
	アメリカ史1	オーストラリアの社会と文化2
	アメリカ史2	
	英語圏の文学と芸術	
	イギリス文学史1（詩）	アメリカ文学史
	イギリス文学史2（劇）	アメリカ詩1
	イギリス文学史3（小説）	アメリカ詩2
	イギリス詩1	アメリカ演劇1
	イギリス詩2	アメリカ演劇2
	イギリス詩3	アメリカ小説1
	イギリス演劇1	アメリカ小説2
	イギリス演劇2	キリスト教と英米文学1
	イギリス演劇3	キリスト教と英米文学2
	イギリス小説1	英米文化特論1
	イギリス小説2	英米文化特論2
	イギリス小説3	英米文化特論3
	イギリス伝承文学1	英米文化特論4
	イギリス伝承文学2	英米文化特論5
	イギリス伝承文学3	英米文化特論6
	イギリス伝承文学4	英米芸術史
	イギリス文化史	英語圏の映画と映像1
	イギリスの文化と芸術1	英語圏の映画と映像2
	イギリスの文化と芸術2	英語圏の映画と映像3
		英語圏の映画と映像4
	英語学	
	英語の歴史1	日英語の発想と表現
	英語の歴史2	Thought and Expression in English
	英語学1	英語学特論1
	英語学2	英語学特論2
	English Linguistics 1	英語の発音1
	English Linguistics 2	英語の発音2
	英語と社会・文化1	
	英語と社会・文化2	
	English Skills	
	翻訳技法1	Focus on Listening and Reading 1
	翻訳技法2	Focus on Listening and Reading 2
	通訳技法1	Writing Workshop 1
	通訳技法2	Writing Workshop 2
	同時通訳技法1	Academic Skills 1
	同時通訳技法2	Academic Skills 2
		英語集中セミナー1
		英語集中セミナー2
IV	専門を深める	
	英米文化専門ゼミA,B	英米文化卒論ゼミA,B
V	専門を極める	
	卒業論文	
選択	英語圏で実体験	
	Summer Abroad (UK)	Field Study 1
	Summer Abroad (US)	Field Study 2

日本語日本文学科

群		
I	基礎を学ぶ	
	R&R（入門ゼミ）	日本語文化基礎ゼミ
II	全体像を知る	
	日本語学概論A,B	日本近代文学史A,B
	日本語の歴史A,B	漢文学概説A,B
	日本古典文学史1	言語学概説
	日本古典文学史2	
	日本古典文学史3	
	日本古典文学史4	
III	専門と出会う	
	日本語日本文学の基礎を学ぶ	
	基礎論文演習（文章表現）	文学理論の基礎
	書誌学・くずし字の基礎	日本史の基礎（古代～近世）
	古典読解の基礎	日本史の基礎（近現代）
	漢文読解の基礎	
	日本語日本文学の専門を学ぶ	
	日本語資料を読む	古典文学を読む4
	日本語教育資料を読む	近現代文学を読む1
	古典文学を読む1	近現代文学を読む2
	古典文学を読む2	中国文学を読む
	古典文学を読む3	
	日本語学	
	［専門を学ぶ］	［専門を深める］
	日本語文法研究の方法	日本語の形態と構文
	日本語語彙研究の方法	日本語の意味と語彙
	日本語音声研究の方法	日本語の音声とアクセント
	方言研究の方法	日本語の文体と語法
	日本語教育研究の方法	日本の漢字と国語辞書
		日本語の敬語
	日本文学	
	［専門を学ぶ］	［専門を深める］
	上代文学研究の方法	キリスト教と日本文学
	中古文学研究の方法	神話の世界
	中世文学研究の方法	説話の世界
	近世文学研究の方法	古代和歌の世界
	近現代文学研究の方法	物語の世界
		日記の世界
		随筆の世界
		中世和歌の世界
		軍記の世界
		俳諧の世界
		近世小説の世界
		近代小説の世界
		現代小説の世界
		近現代詩歌の世界
		同時代文学の世界
		能・狂言の世界
		歌舞伎の世界
		浄瑠璃の世界
		近現代演劇の世界
		書道芸術の世界
	日中交流言語文化	
	［専門を深める］	
	漢字の世界1	漢詩漢文の世界2
	漢字の世界2	日中比較言語・文学の世界
	漢詩漢文の世界1	
	日本の言語・文学・文化	
	［視野を広げる］	［言語文化を体感する］
	言語と文化	日本伝統文化を学ぶ
	方言と社会言語学	国際日本文学研究を学ぶ
	コンピュータと言語学	小説創作を学ぶ
	文学と子ども	短歌創作を学ぶ
	文字と文学	現代詩創作を学ぶ
	文学と都市空間	俳句創作を学ぶ
	地域文化を読み解く	報道文を学ぶ
	民俗文化を読み解く	編集を学ぶ
	絵巻・絵図を読み解く	朗読・アナウンスを学ぶ
	マンガ・アニメ文化を読み解く	
	映画・映像を読み解く	
	日本語教育	
	［専門を学ぶ］	［専門を深める］
	日本教育学概論A,B	日本語教育の教材分析A,B
		日本語学習のコースデザイン
		日本語教育評価法
		第二言語習得論
		日本語教育のための異文化理解
		日本語教授法A,B
		日本語教育実習1
		日本語教育実習2
IV	専門を深める	
	日本言語文化専門ゼミA,B	日本言語文化卒論ゼミA,B
V	専門を極める	
	卒業論文	
選択	書道A,B	

コミュニケーション学科

群		
I	基礎を学ぶ	
	R&R（入門ゼミ）	コミュニケーション基礎ゼミ
II	全体像を知る	
	言語コミュニケーション概論	心理コミュニケーション概論
	社会コミュニケーション概論	コミュニケーション概論A,B
	文化コミュニケーション概論	コミュニケーション研究方法の全体像
	研究方法に取り組む	
	実験の研究計画をたてる	文献・情報の集め方
	アンケート・社会調査の方法	データを数量から読み解く
	インタビュー・面接のスキル	フィールドワークとエスノグラフィー
	話しことばを分析する	フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ
III	専門と出会う	
	コミュニケーションの基礎を学ぶ	
	対人コミュニケーションの心理学	マスコミュニケーションと情報社会
	ことばと記号のコミュニケーション	組織の中の人間関係
	社会的行為としてのコミュニケーション	身体としぐさの心理学
	英語コミュニケーション概説	日本語コミュニケーション学概説A,B
	歴史言語コミュニケーション概説	日本語コミュニケーションの歴史A,B
	日本語文法論とコミュニケーション	日本語音声とコミュニケーション
	形態と構文のコミュニケーション学	文体と語法の日本語コミュニケーション学
	コミュニケーション学探求	
	コミュニケーション学探求1	コミュニケーション学探求6
	コミュニケーション学探求2	コミュニケーション学探求7
	コミュニケーション学探求3	コミュニケーション学探求8
	コミュニケーション学探求4	コミュニケーション学探求10
	コミュニケーション学探求5	コミュニケーション学探求11
	多文化理解	
	［知と出会う］	［フィールドへ出る］
	多文化・多言語社会を考える	先住民族の言語・文化と共生
	クレオール文化の考え方・読み方	アジアとの出会いと異文化体験
	ディアスポラ（離散）の思想	多文化社会の人間学
	異文化のコミュニケーション	多文化体験としての都市フィールドワーク
	文化の心理学	異文化トレーニング
	これからの多文化教育	ことばのフィールドワーク
	ことばと個人・社会の因果関係を探る	舞踊の文化人類学
	第二言語習得の英語コミュニケーション学	
	共生コミュニケーション	
	［知と出会う］	［フィールドへ出る］
	エスニックマイノリティーの問題を考えるA,B	「日本におけるアジア」とのネットワーキング
	子どもの発達とこれからの教育問題	ファシリテーターの理論と実践A,B
	これからの家族問題A,B	視覚障害の理解と点字の技法A,B
	健康・医療におけるコミュニケーションの問題	聴覚障害の理解と手話の技法A,B
	HIV・難病問題と向き合う	共生のフィールドワーク
	PTSDと被害者のグリーフワーク	
	ジェンダーと男女共同参画社会	
	障害者の心理学と共生社会	
	エイジングの心理学と高齢社会	
	グローバル化する人の移動の社会学	
	表現とメディア	
	［知と出会う］	［フィールドへ出る］
	メディアリテラシーを身につける	映像取材A,B
	放送文化と制度を考える	マルチメディア制作Ⅰ(CG･DTP編集)A,B
	新聞・出版ワークショップ	マルチメディア制作Ⅱ(情報デザイン)A,B
	マルチメディアの現在と未来	プレゼンテーションの方法A,B
	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ	取材と記事のレッスン
	日本語コミュニケーション：意味と語彙	ディベートと自己主張
	日本語敬語コミュニケーション	ビジネス・コミュニケーションスキル
	ネットワークによるコミュニケーションの構築	身体表現論
	コンピュータによる調査データの解析A,B	編集デザインスキル
	文献・情報にアクセスする	コミュニケーションスキルトレーニングの技法
	現代文化を読み解く	
	ファッション文化	映画・映像文化
	スポーツ文化	広告とマーケティング
	現代人と宗教	社会・文化と英語コミュニケーション
IV	専門を深める	
	コミュニケーション専門ゼミⅠA,Ⅰ B	コミュニケーション専門ゼミⅡA,Ⅱ B
V	専門を極める	
	卒業論文・卒業制作	

文学・文化理論を学ぶ

カルチュラルスタディーズA,B
テクスト生成と批評A,B
古典と表象文化A,B
ジェンダー・フェミニズム批評A,B
ポピュラーカルチャーA,B
児童文学論A,B
声の文化と文字の文化A,B
キリスト教と文学
文学部とキャリア

文学部専門科目カリキュラム（2014年度以前入学者）

英語英米文学科

群		
I	**基礎を学ぶ**	
	R＆R（入門ゼミ）	英米文化基礎ゼミ
II	**全体像を知る**	
	イギリス研究入門1	アメリカ研究入門1
	イギリス研究入門2	アメリカ研究入門2
	イギリス研究入門3	アメリカ研究入門3
	イギリス研究入門4	アメリカ研究入門4
	イギリス研究入門5	英語学研究入門1
		英語学研究入門2
	Advanced English	
	英米文化専門講読1	英米文化専門講読7
	英米文化専門講読2	英米文化専門講読8
	英米文化専門講読3	英米文化専門講読9
	英米文化専門講読4	英米文化専門講読10
	英米文化専門講読5	英米文化専門講読11
	英米文化専門講読6	
III	**専門と出会う**	
	英米文化発展ゼミ	
	英語圏の文化と社会	
	イギリス史A	アメリカの政治と社会A
	イギリス史B	アメリカの政治と社会B
	イギリス史3	アメリカの思想・宗教A
	イギリスの政治と社会A	アメリカの文化
	イギリスの政治と社会B	現代アメリカ論1
	イギリスの思想と宗教	現代アメリカ論2
	イギリスの文化論総説A	カナダの政治と社会
	現代イギリス論	オーストラリア地域文化研究A
	アメリカ史1	オーストラリア地域文化研究B
	アメリカ史2	
	英語圏の文学と芸術	
	イギリス文学史1（詩）	アメリカ文学史
	イギリス文学史2（劇）	アメリカ詩1
	イギリス文学史3（小説）	アメリカ詩2
	イギリス詩1	アメリカ演劇の世界A
	イギリス詩2	アメリカ演劇の世界B
	イギリス詩3	アメリカ小説1
	イギリス演劇1	アメリカ小説2
	イギリス演劇2	キリスト教と英米文学1
	イギリス演劇3	キリスト教と英米文学2
	イギリス小説1	英語圏文学B
	イギリス小説2	英米文化特論2
	イギリス小説3	英米文化特論3
	フォークロアの世界A	英米文化特論4
	フォークロアの世界B	英米文化特論5
	イギリス伝承文学3	英米文化特論6
	イギリス伝承文学4	英米芸術史
	イギリス文化史	英語圏の映画と映像A
	英語圏の文学と芸術A	英語圏の映画と映像B
	英語圏の文学と芸術B	英語圏の映画と映像3
		英語圏の映画と映像4
	英語学	
	英語の歴史A	日英語の発想と表現
	英語の歴史B	Thought and Expression in English
	英語学1	英語学特論
	英語学2	英語学特論2
	English Linguistics 1	英語の発音A
	English Linguistics 2	英語の発音B
	英語と社会・文化	
	英語と社会・文化2	
	English Skills	
	翻訳技法A	Focus on Listening and Reading 1
	翻訳技法B	Focus on Listening and Reading 2
	通訳技法A	Writing Workshop 1
	通訳技法B	Writing Workshop 2
	同時通訳技法A	Academic Skills 1
	同時通訳技法B	Academic Skills 2
		英語集中セミナー1
		英語集中セミナー2
	Advanced English	
	Academic Writing 1	The English-Speaking World A
	Academic Writing 2	The English-Speaking World B
	Global Issues 1	English for Kids A
	Global Issues 2	English for Kids B
	Business Communication 1	
	Business Communication 2	
IV	**専門を深める**	
	英米文化専門ゼミA,B	英米文化卒論ゼミA,B
V	**専門を極める**	
	卒業論文	
選択	**英語圏で実体験**	
	イギリス現地実習	フィールド・スタディ1
	アメリカ現地実習	フィールド・スタディ2

日本語日本文学科

群		
I	**基礎を学ぶ**	
	R&R（入門ゼミ）	日本言語文化基礎ゼミ
II	**全体像を知る**	
	日本語学概論A,B	日本近代文学史A,B
	日本語の歴史A,B	漢文学概説A,B
	日本古典文学史1	言語学概説
	日本古典文学史2	
	日本古典文学史3	
	日本古典文学史4	
III	**専門と出会う**	
	日本語日本文学の基礎を学ぶ	
	基礎論文演習（文章表現）	文学理論の基礎
	書誌学・くずし字の基礎	日本史の基礎（古代～近世）
	古典読解の基礎	日本史の基礎（近現代）
	漢文読解の基礎	
	日本語日本文学の専門を学ぶ	
	日本語資料を読む	古典文学を読む4
	日本語教育資料を読む	近現代文学を読む1
	古典文学を読む1	近現代文学を読む2
	古典文学を読む2	中国文学を読む
	古典文学を読む3	
	日本語学	
	［専門を学ぶ］	［専門を深める］
	日本語文法研究の方法	日本語の形態と構文
	日本語語彙研究の方法	日本語の意味と語彙
	日本語音声研究の方法	日本語の音声とアクセント
	方言研究の方法	日本語の文体と語法
	日本語教育研究の方法	日本の漢字と国語辞書
		日本語の敬語
	日本文学	
	［専門を学ぶ］	［専門を深める］
	上代文学研究の方法	キリスト教と日本文学
	中古文学研究の方法	神話の世界
	中世文学研究の方法	説話の世界
	近世文学研究の方法	古代和歌の世界
	近現代文学研究の方法	物語の世界
		日記の世界
		随筆の世界
		中世和歌の世界
		軍記の世界
		俳諧の世界
		近世小説の世界
		近代小説の世界
		現代小説の世界
		近現代詩歌の世界
		同時代文学の世界
		能・狂言の世界
		歌舞伎の世界
		浄瑠璃の世界
		近現代演劇の世界
		書道芸術の世界
	日中交流言語文化	
	［専門を深める］	
	漢字の世界1	漢詩漢文の世界2
	漢字の世界2	日中比較言語・文学の世界
	漢詩漢文の世界1	
	日本の言語・文学・文化	
	［視野を広げる］	［言語文化を体感する］
	言語と文化	日本伝統文化を学ぶ
	方言と社会言語学	国際日本文学研究を学ぶ
	コンピュータと言語学	小説創作を学ぶ
	文学と子ども	短歌創作を学ぶ
	文字と文学	現代詩創作を学ぶ
	文学と都市空間	俳句創作を学ぶ
	地域文化を読み解く	報道文を学ぶ
	民俗文化を読み解く	編集を学ぶ
	絵巻・絵図を読み解く	朗読・アナウンスを学ぶ
	マンガ・アニメ文化を読み解く	
	映画・映像を読み解く	
	日本語教育	
	［専門を学ぶ］	［専門を深める］
	日本教育学概論A,B	日本語教育の教材分析A,B
		日本語学習のコースデザイン
		日本語教育評価法
		第二言語習得論
		日本語教育のための異文化理解
		日本語教授法A,B
		日本語教育実習1
		日本語教育実習2
IV	**専門を深める**	
	日本言語文化専門ゼミA,B	日本言語文化卒論ゼミA,B
V	**専門を極める**	
	卒業論文	
選択	書道A,B	

コミュニケーション学科

群		
I	**基礎を学ぶ**	
	R&R（入門ゼミ）	コミュニケーション基礎ゼミ
II	**全体像を知る**	
	言語コミュニケーション概論	心理コミュニケーション概論
	社会コミュニケーション概論	コミュニケーション概論A,B
	文化コミュニケーション概論	コミュニケーション研究方法の全体像
	研究方法に取り組む	
	実験の研究計画をたてる	文献・情報の集め方
	アンケート・社会調査の方法	データを数量から読み解く
	インタビュー・面接のスキル	フィールドワークとエスノグラフィー
	話しことばを分析する	フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ
III	**専門と出会う**	
	コミュニケーションの基礎を学ぶ	
	対人コミュニケーションの心理学	マスコミュニケーションと情報社会
	ことばと記号のコミュニケーション	組織の中の人間関係
	社会的行為としてのコミュニケーション	身体としぐさの心理学
	英語コミュニケーション概説	日本語コミュニケーション学概説A,B
	歴史言語コミュニケーション概説	日本語コミュニケーションの歴史A,B
	日本語文法論とコミュニケーション	日本語音声とコミュニケーション
	形態と構文のコミュニケーション学	文体と語法の日本語コミュニケーション学
	コミュニケーション学探求	
	コミュニケーション学探求1	コミュニケーション学探求6
	コミュニケーション学探求2	コミュニケーション学探求7
	コミュニケーション学探求3	コミュニケーション学探求8
	コミュニケーション学探求4	コミュニケーション学探求10
	コミュニケーション学探求5	コミュニケーション学探求11
	多文化理解	
	［知と出会う］	［フィールドへ出る］
	多文化・多言語社会を考える	先住民族の言語・文化と共生
	クレオール文化の考え方・読み方	アジアとの出会いと異文化体験
	ディアスポラ（離散）の思想	多文化社会の人間学
	異文化のコミュニケーション	多文化体験としての都市フィールドワーク
	文化の心理学	異文化トレーニング
	これからの多文化教育	ことばのフィールドワーク
	ことばと個人・社会の因果関係を探る	舞踊の文化人類学
	第二言語習得の英語コミュニケーション学	
	共生コミュニケーション	
	［知と出会う］	［フィールドへ出る］
	エスニックマイノリティーの問題を考える A,B	「日本におけるアジア」とのネットワーキング
	子どもの発達とこれからの教育問題	ファシリテーターの理論と実践A,B
	これからの家族問題A,B	視覚障害の理解と点字の技法A,B
	健康・医療におけるコミュニケーションの問題	聴覚障害の理解と手話の技法A,B
	HIV・難病問題と向き合う	共生のフィールドワーク
	PTSDと被害者のグリーフワーク	
	ジェンダーと男女共同参画社会	
	障害者の心理学と共生社会	
	エイジングの心理学と高齢社会	
	グローバル化する人の移動の社会学	
	表現とメディア	
	［知と出会う］	［フィールドへ出る］
	メディアリテラシーを身につける	映像取材A,B
	放送文化と制度を考える	マルチメディア制作Ⅰ(CG･DTP編集)A,B
	新聞・出版ワークショップ	マルチメディア制作Ⅱ(情報デザイン)A,B
	マルチメディアの現在と未来	プレゼンテーションの方法A,B
	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ	取材と記事のレッスン
	日本語コミュニケーション：意味と語彙	ディベートと自己主張
	日本語敬語コミュニケーション	ビジネス・コミュニケーションスキル
	ネットワークによるコミュニケーションの構築	身体表現論
	コンピュータによる調査データの解析A,B	編集デザインスキル
	文献・情報にアクセスする	コミュニケーションスキルトレーニングの技法
	現代文化を読み解く	
	ファッション文化	映画・映像文化
	スポーツ文化	広告とマーケティング
	現代人と宗教	社会・文化と英語コミュニケーション
IV	**専門を深める**	
	コミュニケーション専門ゼミⅠA,ⅠB	コミュニケーション専門ゼミⅡA,ⅡB
V	**専門を極める**	
	卒業論文・卒業制作	

文学・文化理論を学ぶ

カルチュラルスタディーズA,B	古典と表象文化A,B	ポピュラーカルチャーA,B	声の文化と文字の文化A,B
テクスト生成と批評A,B	ジェンダー・フェミニズム批評A,B	児童文学論A,B	キリスト教と文学
文学部とキャリア			

英語英米文学科／英文学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

英米及び英語圏の言語、文学、文化などを多角的な視点で学び、それらの知的遺産を引き継ぎ、また海外での学びを通して語学力を身に付け、さらに情報を収集、整理、分析できる実務能力を備えた、国際社会に貢献する有為な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

英米及び英語圏の言語、文学、文化などを系統的に修得することにより、国際化の時代にふさわしい教養と語学力を身に付け、異文化を理解しつつ、国際社会に多様なかたちで貢献できる能力をもつ者に「学士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

英米及び英語圏の言語、文学、文化、思想、歴史などに関する知識を、高度な専門教育と学際的な研究を通して修得させるとともに、海外留学・海外体験を積極的に奨励し、実践的語学力を養い、国際社会に貢献できる知性と主体性を養う。

卒業に必要な単位数

2015年度入学者

科目区分		単位数			備　考	参照
共通	基礎教養	2			「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共通	総合課題	2			「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
共通	語　学	語学履修コースによる： ① 22 ② 20			①英語インテンシブ・コース選択者 ②２か国語履修コース選択者	*2
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計44単位	「R＆R（入門ゼミ）」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅱ－A	12	合計44単位	Ⅱ群－Aから12単位以上	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅱ－B	6	合計44単位	Ⅱ群－Bから6単位以上	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅲ	20	合計44単位	Ⅲ群から20単位以上	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	合計44単位	専門ゼミA，B、卒論ゼミA，Bを各1単位、合計4単位	*3
専門	選　択					
専門	卒業論文	6				
その他		語学履修コースによる： ① 48 ② 50				*4
合　計		124				

2014年度以前入学者

科目区分		単位数			備　考	参照
共通	基礎教養	2			「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共通	総合課題	2			「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
共通	語　学	語学履修コースによる： ① 22 ② 20			①英語インテンシブ・コース選択者 ②２か国語履修コース選択者	*2
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計32単位	「R＆R（入門ゼミ）」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅱ	12	合計32単位	Ⅱ群から12単位以上	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅲ	14	合計32単位	Ⅲ群から14単位以上	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	合計32単位	専門ゼミA，B、卒論ゼミA，Bを各1単位、合計4単位	*3
専門	選　択					
専門	卒業論文	6				
その他		語学履修コースによる： ① 60 ② 62				*4
合　計		124				

＊1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
＊2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.63～64英語英米文学科／英文学科の「語学科目の履修」を見てください。
＊3	2015年度入学者 選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ-A群から12単位以上、選択必修Ⅱ-B群から6単位以上、選択必修Ⅲ群から20単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計44単位以上を修得してください。 2014年度以前入学者 選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から14単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計32単位以上を修得してください。
＊4	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）
	2012年度以降入学者 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、前頁の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.146を参照してください。 ①「日本事情A、B」から4単位 ②「留学生日本語」10単位 ③英語科目12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）

3 年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者

科目区分		単位数		備　　考	参照
共通	基礎教養	4		「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	
	総合課題				
	語　　学	–		語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	*1
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	–		
		選択必修Ⅱ	–		
		選択必修Ⅲ	–		
		選択必修Ⅳ	4	「英米文化専門ゼミ A」1単位、「英米文化専門ゼミ B」1単位 「英米文化卒論ゼミ A」1単位、「英米文化卒論ゼミ B」1単位	
	卒業論文	6			
その他		48		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		62			

ただし、3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（p.53「キリスト教科目」参照）

カリキュラムの説明

英語英米文学科では、近年の英語・英米文学研究の対象の広がりを受け、従来の英文学研究の枠組みを超えて幅広い分野について学ぶことができます。具体的には、1. イギリス、アメリカをはじめとする英語圏の文学、芸術、映画、2. 英語圏のことばと文化、3. イギリスやアメリカの政治、社会、思想、歴史、宗教、4. 翻訳、通訳、英語教育などコミュニケーションの手段としての英語、を学ぶ科目が設置されています。これらの専門科目は、英語そのものの実力を高めるために共通科目に設置されている「英語インテンシブ・コース」などと結びつくことで、より有意義なものとなるでしょう。

1年次に全員が履修するものとして、選択必修Ⅰ基礎を学ぶの「R&R（入門ゼミ）」と「英米文化基礎ゼミ」があります。前期の「R&R（入門ゼミ）」は Research & Report を略したもので、文学部共通に設置された「演習」（ゼミナール）形式の授業です。大学で学ぶうえで必要な心構えや学習方法の基礎を身につけます。具体的には、学術資料の調べ方、レジュメやレポートの書き方、発表や討論のしかたなど基礎的な事柄について学びます。原則として、大学入学後の初めの2年間は、この「R&R」担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」（AA）として、みなさんの相談を受け、必要なアドバイスをおこないます。後期の「英米文化基礎ゼミ」においては、「R&R」で学んだことを活かしながら、自分の興味のある分野について深く学びます。

選択必修Ⅱ全体像を知るの「研究入門」は、「R&R（入門ゼミ）」、「英米文化基礎ゼミ」などと同じく1年次から履修できる科目群です。それぞれの分野の基本的知識のほか、現在のみなさんの興味がどのように展開されていくのか、見通しが得られるように構成されています。

選択必修Ⅲ専門と出会うの「英米文化発展ゼミ」などは2年次対象の「演習」科目であり、全員が必ず履修してください。

選択英語圏で実体験の「Summer Abroad（UK, US）」（「現地実習」）は、休暇期間中に実施される英語圏の大学への短期研修です。ひとつのトピックを中心に現地で学習する「Field Study」（「フィールド・スタディ」）も開講され、文学ゆかりの地や各国の博物館・美術館などを、トピックに詳しい先生の説明を受けながら巡り、授業で学んだことをじかに体験します。

選択必修Ⅳ専門を深めるの「英米文化専門ゼミ」では、各担当者の指導を受けながら、興味のある分野についての研究を深めていきます。「R&R（入門ゼミ）」、「英米文化基礎ゼミ」、「研究入門」などで学んだことを基礎に、発表・討論を通じて知識を深化します。それらをさらに発展させたものが「英米文化卒論ゼミ」であり、その成果を「卒業論文」にまとめます。

4年間の履修の指針

大学の4年間では、特定の分野に偏らない履修をすることが望ましく、できるだけ多くのことについて学ぶように努力しましょう。特に1，2年次の間は、いろいろなことを知るために、幅広い分野の授業を組み合わせた時間割を考えることが大切です。一見関連しないようなテーマが、実は深いところで結びついていることがよくあるからです。ここではイギリスの小説を学ぶことを例に考えてみましょう。

例えば、イギリスのヴィクトリア朝（19世紀）の小説について学ぶうえで、エリザベス朝（16世紀）の演劇や17世紀の詩などについての知識があると理解が深まることがよくあります。なぜなら、文学作品の多くは、時代やジャンルを超えてつながっているからです。また、大西洋をはさんだアメリカ合衆国を意識しながらイギリスの小説を考えることも思わぬ発見につながります。イギリスとアメリカの社会は私たちが考える以上に密につながっており、お互いに強く影響し合っているからです。さらに、小説における会話を読み取るためには言語学の談話分析の知識などが大いに役立ちます。映画化された作品から逆転写させて原作そのものを読み直すこともできますし、小説で描かれる建築物などを詳しく調べることで作品そのものの理解が深まることもよくあります。このように、すべての分野はどこかで必ずつながっており、幅広くいろいろな分野を学ぶことによって意外な発見をすることができるのです。

具体的には、「研究入門」においては、「イギリス」、「アメリカ」、「英語学」の三つの分野を選択する、1年次後期の「英米文化基礎ゼミ」と2年次前期の「英米文化発展ゼミ」の授業では敢えて異なる分野のもの

を選ぶなど、自分の視野を広げる努力をしましょう。そのうえで、2年次からは、3年次の「専門ゼミ」で何を学ぶかを意識しながら履修科目を選び、自分の興味のある領域に少しずつ近づいていくことをお勧めします。そして、3，4年次においては、「専門ゼミ」、「卒論ゼミ」の分野に関連するテーマを扱う科目を中心に履修してさらに知識を深め、卒業論文の作成に役立てるとよいでしょう。

英語の運用能力

英語英米文学科では、先に述べたような専門知識の多くを英語の文献などを通して得ていきます。そのため、一定以上の英語運用能力をできるだけ早く身につけることが必要です。また、翻訳や通訳などに興味がある場合には、さらに高い英語運用能力を身につけるための努力を続ける必要があります。「英語インテンシブ・コース」などの共通科目に設置された「英語」の授業のほか、英語英米文学科の専門科目に「Academic Writing」や「Focus on Listening and Reading」など、英語の運用能力を高めるための授業が設置されています。これらの科目では、履修の前提となる英語力があらかじめ指定されていたり、履修者数が限定されていることもあります。シラバスなどで内容を十分に確認した上で、履修の順序なども工夫して時間割を組むことをお勧めします。

その他

選択必修Ⅲには、文学・文化理論を学ぶとして、文学部の全学生を対象とした共通科目を用意しています。最新の文学・文化理論を学ぶことはみなさんの研究テーマを考えるのに大いに役立つでしょう。また、自分が興味をもっているテーマの位置づけを知るために、「イギリス史」、「アメリカ史」のような「歴史」の授業のほか、「イギリス文学史」、「アメリカ文学史」、「英米芸術史」、「英語の歴史」などの講義を用意しています。通史的な知識をつけることで、自分の興味がその分野においてどのような意味をもっているのかを理解することも大切です。

履修単位数については特定の学年に偏るのではなく、4年間で平均して履修することが理想です。各自の事情に合わせながら、卒業要件の124単位をうまく4年間で分けていくように履修しましょう。

英語英米文学科／英文学科　カリキュラムマップ（2015年度入学者）

レベル＊	1		2		3	4	
	R&R（入門ゼミ）	英米文化基礎ゼミ	英米文化発展ゼミ		英米文化専門ゼミ A 英米文化専門ゼミ B	英米文化卒論ゼミ A 英米文化卒論ゼミ B	卒業論文
イギリス・アメリカの文化と社会 イギリス・アメリカの政治、歴史、思想、宗教に関する社会科学的な学識を修得する。	イギリス史1 イギリスの文化	イギリス史2 イギリスの思想・宗教	イギリス史3 イギリスの政治と社会1	現代イギリス論 イギリスの政治と社会2			
	アメリカ研究入門1 アメリカ史1 アメリカの文化	アメリカ研究入門2 アメリカ史2	アメリカの政治と社会1 現代アメリカ論1 アメリカの思想と宗教	アメリカの政治と社会2 現代アメリカ論2	英米文化専門講読6 英米文化専門講読7		
			オーストラリアの社会と文化1 カナダの社会と文化	オーストラリアの社会と文化2			
			英米文化特論4 英米文化特論6	英米文化特論5			
イギリス・アメリカの文学と芸術 イギリス・アメリカの文学、視覚芸術、映画に関する人文系の学識を修得する。	イギリス研究入門2 イギリス詩1 イギリス研究入門5 イギリス演劇1 イギリス研究入門4 イギリス小説1	イギリス文学史1(詩) イギリス詩2 イギリス文学史2(劇) イギリス演劇2 イギリス文学史3(小説) イギリス小説2	イギリス詩3 イギリス演劇3 イギリス小説3		英米文化専門講読2 英米文化専門講読5 英米文化専門講読4		
	イギリス研究入門3 イギリス伝承文学1	イギリス伝承文学2	イギリス伝承文学3	イギリス伝承文学4	英米文化専門講読3		
	イギリス研究入門1 イギリス文化史 イギリスの文化と芸術1		英米芸術史 イギリスの文化と芸術2		英米文化専門講読 1		
	アメリカ研究入門4 アメリカ詩1 アメリカ演劇1 アメリカ小説1	アメリカ文学史 アメリカ詩2 アメリカ演劇2 アメリカ小説2	英米文化特論1 英米文化特論2 英米文化特論3		英米文化専門講読9		
	アメリカ研究入門3		英語圏の映画と映像1 英語圏の映画と映像3	英語圏の映画と映像2 英語圏の映画と映像4	英米文化専門講読8		
			キリスト教と英米文学1	キリスト教と英米文学2			
英語学 英語の歴史や構造に関する専門的な学識を修得する。	英語学研究入門1 英語学1 日英語の発想と表現 英語の歴史1 英語の発音1	英語学研究入門2 英語学2 英語の歴史2 英語の発音2	英語と社会・文化1 English Linguistics 1 Thought and Expression in English 英語学特論1	英語と社会・文化2 English Linguistics 2 英語学特論2	英米文化専門講読10 英米文化専門講読11		
English Skills / Advanced English 高度な英語運用能力を修得する。	英語集中セミナー1 Focus on Listening and Reading 1 Academic Skills 1	英語集中セミナー2 Focus on Listening and Reading 2 Academic Skills 2	翻訳技法1 通訳技法1 同時通訳技法1 Writing Workshop 1 English for Children 1	翻訳技法2 通訳技法2 同時通訳技法2 Writing Workshop 2 English for Children 2	Academic Writing 1 Academic Writing 2 Global Issues 1 Global Issues 2 Business Communication 1 Business Communication 2 Literature and Culture 1 Literature and Culture 2		
文学・文化理論 イギリス・アメリカに関する人文系・社会系の調査・研究に資する文学・文化理論を学ぶ。			古典と表象文化 A 声の文化と文字の文化 A 児童文学論 A カルチュラルスタディーズ A ポピュラーカルチャー A	古典と表象文化 B 声の文化と文字の文化 B 児童文学論 B カルチュラルスタディーズ B ポピュラーカルチャー B	テクスト生成と批評 A テクスト生成と批評 B キリスト教と文学 ジェンダー・フェミニズム批評 A ジェンダー・フェミニズム批評 B 文学部とキャリア		
現地実習 イギリス・アメリカの大学における語学研修や、文化的・社会的に重要な地への訪問により、英語および英語圏文化に関するより深い学識を修得する。	Summer Abroad (UK) Field Study 1	Summer Abroad (US) Field Study 2					

レベル＊　学科が想定するレベル（難易度）です。1：導入、2：基礎、3：発展、4：卒業論文等を表しています。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

英語英米文学科／英文学科　カリキュラムマップ（2014年度以前入学者）

レベル＊	1		2		3	4	
	R&R（入門ゼミ）	英米文化基礎ゼミ	英米文化発展ゼミ	＊アメリカを読み解く ＊イギリスを読み解く ＊英語の実像を探る ＊英語文献を読み解く	英米文化専門ゼミ A 英米文化専門ゼミ B	英米文化卒論ゼミ A 英米文化卒論ゼミ B	卒業論文
英語圏の社会と文化	イギリス史 A イギリス文化論総説 A	イギリス史 B イギリスの思想・宗教 ＊イギリス文化論総説 B	イギリス史3 イギリスの政治と社会 A ＊イギリスの思想・宗教 A	現代イギリス論 イギリスの政治と社会 B ＊イギリスの思想・宗教 B			
	アメリカ研究入門1 アメリカ研究入門2 アメリカ史1 ＊アメリカの文化 A	＊アメリカ研究入門 アメリカの文化 アメリカ史2 ＊アメリカの文化 B	アメリカの政治と社会 A ＊アメリカ史 現代アメリカ論1 ＊現代アメリカ論	アメリカの政治と社会 B アメリカの思想・宗教 現代アメリカ論2 ＊アメリカン・スタディーズ	英米文化専門講読6 英米文化専門講読7 ＊アメリカの思想・宗教 B		
			オーストラリア地域文化研究 A カナダの政治と社会	オーストラリア地域文化研究 B			
			英米文化特論4 英米文化特論5	英米文化特論6			
英語圏の文学と芸術	イギリス研究入門2 イギリス詩1 ＊イギリス詩の世界 A イギリス研究入門5 イギリス演劇1 ＊イギリス演劇の世界 A イギリス研究入門4 イギリス小説1 ＊イギリス小説を読む A ＊イギリス文学史 A	イギリス文学史1(詩) イギリス詩2 ＊イギリス詩の世界 B イギリス文学史2(劇) イギリス演劇2 ＊イギリス演劇の世界 B イギリス文学史3(小説) イギリス小説2 ＊イギリス小説を読む B ＊イギリス文学史 B	イギリス詩3		英米文化専門講読2		
			イギリス演劇3		英米文化専門講読5		
			イギリス小説3		英米文化専門講読4		
	イギリス研究入門3 フォークロアの世界 A	＊英語文化研究入門 フォークロアの世界 B	イギリス伝承文学3	イギリス伝承文学4	英米文化専門講読3		
	イギリス研究入門1 イギリス文化史	＊イギリス研究入門 英語圏の文学と芸術 A	英米芸術史	英語圏の文学と芸術 B	英米文化専門講読 1		
	アメリカ研究入門4 アメリカ詩1 アメリカ詩の世界 A アメリカ演劇の世界 A アメリカ小説1 アメリカ小説を読む A	アメリカ文学史 アメリカ詩2 アメリカ詩の世界 B アメリカ演劇の世界 B アメリカ小説2 アメリカ小説を読む B	英米文化特論2 ＊英語圏文学 A ＊英米文学特論 A	英米文化特論3 英語圏文学 B ＊英米文学特論 B	英米文化専門講読9		
	アメリカ研究入門3		英語圏の映画と映像 A 英語圏の映画と映像3	英語圏の映画と映像 B 英語圏の映画と映像4	英米文化専門講読8		
	＊英米文学研究入門		キリスト教と英米文学1	キリスト教と英米文学2			
英語学	英語学研究入門1 英語学研究入門2 英語学1 日英語の発想と表現 英語の歴史 A 英語の発音 A	英語学研究入門 ＊ 英語学2 英語の歴史 B 英語の発音 B	英語と社会・文化 英語学特論 English Linguistics 1 Thought and Expression in English ＊英語のさまざまな側面 A ＊英語のしくみを知る A	英語と社会・文化2 英語学特論2 English Linguistics 2 ＊英語のさまざまな側面 B ＊英語のしくみを知る B	英米文化専門講読10 英米文化専門講読11		
English Skills / Advanced English	英語集中セミナー1 Focus on Listening and Reading 1 Academic Skills 1 ＊Internet English A The English-Speaking World A ＊時事英語研究 A ＊Ferris Special English Program	英語集中セミナー2 Focus on Listening and Reading 2 Academic Skills 2 ＊Internet English B The English-Speaking World B ＊時事英語研究 B	翻訳技法 A 通訳技法 A 同時通訳技法 A Writing Workshop 1 English for Kids A ＊Academic Writing A ＊Global Issues A ＊Teaching Japanese Language A	翻訳技法 B 通訳技法 B 同時通訳技法 B Writing Workshop 2 English for Kids B ＊Academic Writing B ＊Global Issues B ＊Teaching Japanese Language B	Academic Writing 1 Academic Writing 2 Global Issues 1 Global Issues 2 Business Communication 1 Business Communication 2 Literature and Culture 1 Literature and Culture 2		
文学・文化理論			古典と表象文化 A 声の文化と文字の文化 A 児童文学論 A カルチュラルスタディーズ A ポピュラーカルチャー A	古典と表象文化 B 声の文化と文字の文化 B 児童文学論 B カルチュラルスタディーズ B ポピュラーカルチャー B	テクスト生成と批評 A テクスト生成と批評 B キリスト教と文学 ジェンダー・フェミニズム批評 A ジェンダー・フェミニズム批評 B 文学部とキャリア		
実体験	イギリス現地実習 フィールド・スタディ1	アメリカ現地実習 フィールド・スタディ2					

＊…2014年度以前開講科目

レベル＊　学科が想定するレベル（難易度）です。1：導入、2：基礎、3：発展、4：卒業論文等を表しています。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

「履修上の注意」（pp.20～26）及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1．共通科目（基礎教養・総合課題、語学）の履修

pp.48～54、55～62を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2．専門科目の履修

カリキュラム表、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1)「R&R（入門ゼミ）」：1年次前期に履修

① 選考：クラスは学科が決定します。

② 再履修：「R&R（入門ゼミ）」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「英米文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R（入門ゼミ）」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員（p.170）の指示を受けてください。

(2)「英米文化基礎ゼミ」：1年次後期に履修

① 選考：クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。

② 再履修：「英米文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【注意】「R&R（入門ゼミ）」または「英米文化基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであることを3年次「英米文化専門ゼミ」の履修条件とします。

(3)「英米文化発展ゼミ」：2年次前期に履修【2014年度以降入学生】

クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。

(4)「英米文化専門ゼミ」：3年次に履修

① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。

② 再履修：「英米文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「英米文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(5)「英米文化卒論ゼミ」：4年次に履修

① 所属ゼミは原則として3年次の「英米文化専門ゼミ」と同一担当者のものとし、その担当者のもとで卒業論文指導を受けることとします。

② 再履修：「卒論ゼミ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミ B」を重複して履修し、「卒論ゼミ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

（6）留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学、セメスター・アブロード及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「英米文化専門ゼミ」「英米文化卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、派遣・交換留学学期には卒業できません。

→p.38「海外留学」

（7）「卒業論文」

卒業論文は、卒業する年度に提出することとします。提出方法等については p.35を参照してください。

日本語日本文学科／日本文学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

日本語、日本文学、日本文化に関する学びを通して、調査・研究・創作に関する能力を身に付け、ことばと表現に関する豊かな感性と知性を育み、歴史性・社会性を伴う幅広い視点をもち、社会に貢献する有為な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

日本語、日本文学、日本文化に関する基本的な知識と能力を身に付けて、ことばと表現に関する豊かな感性と知性をもち、幅広い視点で社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

入門・基礎から高度な専門性をもつものまで各年次にわたる演習（ゼミ）、学科専門科目の基礎となる基幹科目群、文化と歴史にも関わる豊富な専門講義科目群から成るカリキュラム構成を通して、日本の言語、文学、文化に対する深い知識と社会での応用力を養う。

卒業に必要な単位数

科目区分		単位数		備　考	参照
共通	基礎教養	2		「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語　学	語学履修コースによる： ① 10 ② 22		①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	「R＆R（入門ゼミ）」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
		選択必修Ⅱ	12	Ⅱ群から12単位以上	
		選択必修Ⅲ	18	Ⅲ群から18単位以上	
		選択必修Ⅳ	4	専門ゼミA，B、卒論ゼミA，Bを各1単位、合計4単位	
		合計36単位			
	選　択				
	卒業論文	6			
その他		語学履修コースによる： ① 68 ② 56			*4
合　計		124			

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
*2	卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者は10単位、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.65～68日本語日本文学科／日本文学科の「語学科目の履修」を見てください。
*3	選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から18単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計36単位以上を修得してください。
*4	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）
	2012年度以降入学者 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.146を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」10単位

3 年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数		備　　考	参照
共通	基礎教養 総合課題	4		「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	
共通	語　　学	–		語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	*1
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	–		
専門	選択必修	選択必修Ⅱ	–		
専門	選択必修	選択必修Ⅲ	–		
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	「日本言語文化専門ゼミA」1単位、「日本言語文化専門ゼミB」1単位 「日本言語文化卒論ゼミA」1単位、「日本言語文化卒論ゼミB」1単位	
専門	卒業論文	6			
その他		48		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊1のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		62			

ただし、「キリスト教Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（p.53「キリスト教科目」参照）

カリキュラムの説明

日本語日本文学科のカリキュラムは、日本語学・日本文学を柱として立てられています。日本語学は、日本語学と日本語教育学に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学に専門・細分化されます。その授業科目には、専門に関わる科目、全体に共通して必要な科目、また教職課程や日本語教員養成に関する科目があります。これは、他学科の開放科目を含め有機的繋がりの中に段階を追って履修することにより、専門の総体的な知識を得つつ、専門的な知識を深めていくことができるよう設定されたものです。言語体験や文学体験を重視した科目も特徴です。また各科目群における修得単位数が示されていますが、あくまでも最低目標値にすぎません。専門の知識を深め、身につけるためには、専門科目の積極的な履修が望まれます。

4年間の履修の指針

1年次に履修が指定されている科目は科目群Ⅰ 基礎を学ぶ の「R&R（入門ゼミ）」「日本言語文化基礎ゼミ」です。前期の「R&R（入門ゼミ）」は、Research & Report の略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなど大学ならではの方法を全員が身につけ、学習が実りあるものとなるようトレーニングをします。このクラスの担当教員が、原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー（AA）」としてみなさん方に種々のアドバイスを行います。後期の「日本言語文化基礎ゼミ」は、日本語日本文学科の各専門分野における基礎資料の集め方、研究の初

歩を学ぶ時間です。これら2つの演習により、日本語日本文学科で勉強をしていくための基礎を幅広く学んでください。

また、科目群Ⅲ 専門と出会うの 日本語日本文学の基礎を学ぶは、専門分野を学んでいくための基礎的な力をつけるための科目群です。できるだけすべての科目を履修するようにしてください。なかでも「基礎論文演習（文章表現）」は、専門分野についてのレポートや卒業論文を書いていくために必ず必要となる基礎力を養成するための科目ですので、1年次の後期に履修するようにしてください。

さらに、1年次から、科目群Ⅱ 全体像を知るの「概論・文学史」等を履修することによって、各専門分野の全体的知識を学びます。ある専門分野のことが他の分野のことと全く無関係ということはありません。幅広く学ぶことで更に専門が深まってくるものです。教職課程履修者や日本語教員養成講座受講者、大学院進学希望者は、科目群Ⅱについては全科目の履修が理想的です。

2年次以降、更に専門的な研究方法や知識を習得するため、科目群Ⅲ 専門と出会う の中に、より専門的な科目が用意されています。これらの科目の中には実際に調査し、整理・分析して発表するという主体的な参加が要請されるものもあり、特に2年次の「～を読む」はクラス定員に制限を設けた学科選抜の演習形式科目で、週2回の授業により一気に実践力を高めるものです。科目群Ⅲには、日本語日本文学のより専門的な科目の他に、日本の言語・文学・文化について、視野を広げたり、実際に体感する科目も開かれています。これらの科目を選択することでより深い探究、より広い展望を獲得できます。

2年次終了までに、進むべき専門の分野を決定して、3年次に科目群Ⅳ 専門を深めるの「日本言語文化専門ゼミ」を選択履修し、各自の研究テーマを本格的に学ぶことになります。さらに、4年次には同じ科目群Ⅳの「日本言語文化卒論ゼミ」を履修し、卒業論文作成に向けて研鑽を積むことになります。卒業論文のテーマは、平生の履修の中で常に考え、早めに見つけるよう心がけてください。

教職（国語）資格、日本語教員

日本語日本文学科の専門科目を履修しつつ、教職課程の科目の履修を積み重ねることで、国語の教員免許状が取得できます。また、日本語教員養成講座の選択必修科目の多くは日本語日本文学科の専門科目なので、卒業要件を満たしつつ効率的に日本語教員養成講座を修了することができます。それぞれのカリキュラム表をよく読み、専門科目の履修を資格取得に有効に生かしてください。

その他

選択必修Ⅲには 文学・文化理論を学ぶとして、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を日本文学・日本語研究に大いに生かしてください。

また、4年間で平均して履修することも大切なことです。卒業要件の124単位を上手に按分して各学年でムラなく学ぶよう計画してください。

日本語日本文学科／日本文学科　カリキュラムマップ

レベル＊	1	2	3	4
ゼミ 少人数の演習形式の授業で、基礎を固め、専門を深める	R&R（入門ゼミ） 日本言語文化基礎ゼミ 基礎論文演習（文章表現）	日本語資料を読む 日本語教育資料を読む 古典文学を読む1 古典文学を読む2 古典文学を読む3 古典文学を読む4 近現代文学を読む1 近現代文学を読む2	日本言語文化専門ゼミ A 日本言語文化専門ゼミ B	日本言語文化卒論ゼミ A 日本言語文化卒論ゼミ B 卒業論文
日本語日本文学基礎 専門を学んでいくための基礎力を養成する	書誌学・くずし字の基礎 古典読解の基礎 文学理論の基礎 日本史の基礎（古代～近世） 日本史の基礎（近現代） 漢文読解の基礎			
日本語関係分野 日本語関係分野の基礎から専門を学ぶ	日本語学概論 A 日本語学概論 B 日本語の歴史 A 日本語の歴史 B	日本語文法研究の方法 日本語語彙研究の方法 日本語音声研究の方法 方言研究の方法 日本語教育研究の方法 日本語の形態と構文 日本語の意味と語彙 日本語の音声とアクセント 日本語の文体と語法 日本の漢字と国語辞書 日本語の敬語		
日本語教育関係分野 日本語教育関係分野の基礎から専門を学ぶ	日本語教育学概論 A 日本語教育学概論 B	日本語教育研究の方法 日本語教育の教材分析 A 日本語教育の教材分析 B 日本語学習のコースデザイン 日本語教育評価法 第二言語習得論 日本語教育のための異文化理解 日本語教授法 A 日本語教授法 B	日本語教育実習1 日本語教育実習2	
日本文学関係分野 日本文学関係分野の基礎から専門を学ぶ	日本古典文学史1 日本古典文学史2 日本古典文学史3 日本古典文学史4 日本近代文学史 A 日本近代文学史 B 漢文学概説 A 漢文学概説 B	上代文学研究の方法 中古文学研究の方法 中世文学研究の方法 近世文学研究の方法 近現代文学研究の方法 神話の世界 説話の世界 古代和歌の世界 物語の世界 日記の世界 随筆の世界 中世和歌の世界 軍記の世界 俳諧の世界 近世小説の世界 近代小説の世界 現代小説の世界 近現代詩歌の世界 同時代文学の世界 能・狂言の世界 歌舞伎の世界 浄瑠璃の世界 近現代演劇の世界 日中比較言語・文学の世界 書道芸術の世界		
日本の言語・文化・文学 分野を横断した学習や実習によって、視野を広げる	キリスト教と日本文学 キリスト教と文学（共通科目） 言語学概説 日本伝統文化を学ぶ 国際日本文学研究を学ぶ 小説創作を学ぶ 短歌創作を学ぶ 俳句創作を学ぶ 現代詩創作を学ぶ 報道文を学ぶ 編集を学ぶ 朗読・アナウンスを学ぶ	言語と文化 方言と社会言語学 コンピュータと言語学 文学と子ども 文字と文学 文学と都市空間 地域文化を読み解く 民俗文化を読み解く 絵巻・絵図を読み解く マンガ・アニメ文化を読み解く 映画・映像を読み解く 書道 A 書道 B		
文学部共通科目 日本語日本文学に関連する理論や文化を多角的に学ぶ	カルチュラルスタディーズ A カルチュラルスタディーズ B 古典と表象文化 A 古典と表象文化 B テクスト生成と批評 A テクスト生成と批評 B ポピュラーカルチャー A ポピュラーカルチャー B 声の文化と文字の文化 A 声の文化と文字の文化 B ジェンダー・フェミニズム批評 A ジェンダー・フェミニズム批評 B 児童文学論 A 児童文学論 B 文学部とキャリア			

レベル＊　学科が想定するレベル（難易度）です。1：導入、2：基礎、3：発展、4：卒業論文等を表しています。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

「履修上の注意」（pp.20～26）及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1．共通科目（基礎教養・総合課題、語学）の履修

pp.48～54、55～62を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2．専門科目の履修

カリキュラム表、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1)「R&R（入門ゼミ）」：1年次前期に履修

① 選考：クラスは学科が決定します。

② 再履修：「R&R（入門ゼミ）」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「日本言語文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R（入門ゼミ）」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員（p.170）の指示を受けてください。

(2)「日本言語文化基礎ゼミ」：1年次後期に履修

① 選考：クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。なお、「R&R（入門ゼミ）」担当者とは、異なる担当者のもとで履修することとします。

② 再履修：「日本言語文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【注意】「R&R（入門ゼミ）」または「日本言語文化基礎ゼミ」のいずれか1単位が修得済みであることを3年次「日本言語文化専門ゼミ」の履修条件とします。

(3)「基礎論文演習（文章表現）」：1年次後期に履修【2012年度以降入学生】

1年次の後期に1単位を履修することとします。クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

(4) 選択必修Ⅲについて

2年次に、選択必修Ⅲのつぎの科目群（2年次ゼミ）の中から前期後期それぞれ1科目4単位ずつ、合計8単位を履修してください。クラスは学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

「日本語資料を読む」「日本語教育資料を読む」
「古典文学を読む1」「古典文学を読む2」「古典文学を読む3」「古典文学を読む4」
「近現代文学を読む1」「近現代文学を読む2」
「中国文学を読む」

(5)「日本言語文化専門ゼミ」：3年次に履修

① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示及び学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。

② 再履修：「日本言語文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「日本言語文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(6)「日本言語文化卒論ゼミ」：4年次に履修

① 所属ゼミは原則として3年次の「日本言語文化専門ゼミ」と同一担当者とし、その担当者のもとに卒業論文指導を受けることとします。

② 再履修：「卒論ゼミ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミ B」を重複して履修し、「卒論ゼミ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「日本言語文化専門ゼミ」と「日本言語文化卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、交換・認定留学学期には卒業できません。

→p.38「海外留学」

(8)「卒業論文」

卒業論文は、卒業する年度に提出することとします。提出方法については p.35を参照してください。

コミュニケーション学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域における科学的アプローチによる学びを通して、科学的論理に基づく理解と実践力をもち、多文化共生社会の構築に貢献する有為な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域において、調査・統計、論理的理解、実践的表現の技法を習得し、それらの方法を用いて客観的な視点から社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

実証的研究方法の習得に重点を置いた導入・基礎的科目群に始まり、理論的専門科目群「知と出会う」と実践的専門科目群「フィールドへ出る」を配し、現代社会を論理的かつ科学的に理解する能力を養う。

卒業に必要な単位数

科目区分		単位数			備　　考	参照
共通	基礎教養	2			「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共通	総合課題	2			「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
共通	語　　学	語学履修コースによる： ① 10 ② 22			①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計36単位	「R＆R（入門ゼミ）」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅱ	12	合計36単位	Ⅱ群から12単位以上	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅲ	18	合計36単位	Ⅲ群から18単位以上	*3
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	合計36単位	専門ゼミⅠA，ⅠB、専門ゼミⅡA，ⅡBを各1単位、合計4単位	*3
専門	選　　択					
専門	卒業論文・卒業制作	6				
その他		語学履修コースによる： ① 68 ② 56				*4
合　　計		124				

＊1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
＊2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.65～68コミュニケーション学科の「語学科目の履修」を見てください。
＊3	選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から18単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計36単位以上を修得してください。
＊4	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）
	2012年度以降入学者 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.146を参照してください。 ①「日本事情A、B」から4単位 ②「留学生日本語」10単位

3 年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数		備　考	参照
共通	基礎教養 総合課題	4		「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	
共通	語　学	–		語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	*1
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	–		
専門	選択必修	選択必修Ⅱ	–		
専門	選択必修	選択必修Ⅲ	–		
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	「コミュニケーション専門ゼミⅠA」(1単位)	
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	「コミュニケーション専門ゼミⅠB」(1単位)	
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	「コミュニケーション専門ゼミⅡA」(1単位)	
専門	選択必修	選択必修Ⅳ	4	「コミュニケーション専門ゼミⅡB」(1単位)	
専門	卒業論文・卒業制作	6			
その他		48		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊1のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　計		62			

ただし、「キリスト教Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.53「キリスト教科目」参照)

カリキュラムの説明

コミュニケーション学科の目ざすもの

コミュニケーション学科は、みなさん方が21世紀の多文化・共生時代を生きるため、多様化する社会や人間、文化などを総合的にとらえた上で、社会関係をスムーズにし、対人スキルを身につけ、豊かな表現能力が獲得できるよう、現状把握・調査・分析・理論、そして実習・実践などを重視する学科として2004年度に新しく開設されました。

人は、動物とは異なり一人では生きてゆけず、「社会」を構成してしか生きられません。その際、人は「ことば」で思考し、書きことば・話しことば・しぐさ・音・画像などの記号を駆使し、情報の乗り物であるメディアという道具を用いて自己表現や他者とのコミュニケーションを行っています。その繁雑さと「個」というエゴのため、時として人間は他の動物よりもはるかに非合理的な争いを生じさせもし、身近なところでは誤解や「いじめ」、他者の人権や生命の侵害、グローバルにみれば差別や貧困、大量殺戮や戦争などの悲しくかつ憂慮すべき事態を繰り返してきました。人間がもっと賢くなり、「憎しみ」の連鎖を断ち切り、多様な人びとと平和的に暮らせるようになる世界を構築するためには、私たち全員がもっともっと人間の心や社会のシステム、様ざまな文化、表現のしかたなどについて学び、むしろ「違い」を楽しむような実践が求められます。その時のキーワードが「コミュニケーション」にほかなりません。

カリキュラムの構成

本学のコミュニケーション学科は、以上のような問題意識の上に立って、カリキュラム構成に他大の同じような学科にはない数多くの特徴をそなえています。

まずカリキュラムの構造ですが、①入学したての大学生としてトレーニングを少人数のゼミで積む 基礎を学ぶ、②コミュニケーション研究の入門編として 全体像を知る、③実証的研究方法編としての 研究方法に取り組む、④各論の基礎編である コミュニケーションの基礎を学ぶ、そして⑤各論の専門科目である 多文化理解・共生コミュニケーション・表現とメディア の3領域からなる 専門と出会う が、階梯性をもって配置されています。④⑤の「専門と出会う」の中には、2年次生全員が履修しなければならない、ゼミ風の コミュニケーション学探求 も用意されています。また⑥コミュニケーション研究の解釈実践ともいえる 現代文化を読み解く が加わり、最後に⑦卒業論文・卒業制作に結実するゼミナールとしての 専門を深める 専門を極める でしめくくられるよう組み立てられています。

カリキュラムのハイライトである⑤は、さらにそれぞれ 知と出会う と フィールドへ出る とで構成されており、前者は主として現状や先行研究について理論的に学び、後者は主として学内外でのワークショップや実習によって実践的に学びます。

4年間の履修の指針

コミュニケーションに関連する授業内容は多岐にわたっており、どれもまんべんなく履修することをお勧めします。最低限の取得単位で卒業するのは、もったいないことです。しかし、「あれもこれも」と欲張りすぎても、「コミュニケーション学科でどんな勉強をしたの？」と他人や就職面接で訊かれて答えられないことになりかねません。自分の興味や研究テーマ、進路などにそって、自分なりのカリキュラムを構造化する必要があります。また、基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科の開放科目、語学などもできるだけ関連させて履修したいものです。そのかわり、かなりハードな学生・学習生活になることを覚悟する必要があり、4年間・8セメスターの計画（履修計画のみならず留学や就職活動の予定）や、長期の夏休み・春休みなどの計画（資格や免許の取得など）をしっかり立てておくことが肝要です。

1年目に全員必修で履修する選択必修Ⅰ 基礎を学ぶ は、「R&R（入門ゼミ）」と「コミュニケーション基礎ゼミ」からなっています。前期の「R&R（入門ゼミ）」は、Research & Report の略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。大学ならではの、学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなどを全員が身につけることによって大学での学習が実りあるものになるよう、トレーニング

をします。少人数制のこのクラスは、担当の先生が原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー(AA)」として、みなさん方に種々のアドバイスを行います。続く1年後期の「コミュニケーション基礎ゼミ」では、様ざまな領域にわたるコミュニケーション研究のいずれかひとつの“入り口”を経験してもらいます。

どちらも単位を取得しないと卒業できない必修科目です。配当された1年次生のうちに修得するようにしてください。

選択必修Ⅱ 全体像を知る としては、1、2年次に、コミュニケーションの概念や諸相に関する入門編である「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」のうちのいくつかと、多様な広がりを持つコミュニケーションに関する研究方法の入門編である「コミュニケーション研究方法の全体像」がおかれています。この6科目について学年指定はありませんが、1、2年次のうちに履修しておくことを推奨します。また 研究方法に取り組む の8科目のうちいくつかを、やはり2年次までに履修してください。今後4年間の授業で、なかでもゼミと卒業論文・制作の場では、これらの授業で得た知識が「身についていることを前提」として授業が進みます。これらⅡ群の単位は、合計12単位以上満たしていないと卒業できません。「研究方法に取り組む」の8科目のうちのいくつかは「社会調査士」の資格科目ともなりますので、詳細は学科からの説明をよく聞いてください。

選択必修Ⅲ 専門と出会う では、まず コミュニケーションの基礎を学ぶ で、コミュニケーション研究における各論の専門的知識が講じられます。心理学や社会学、言語学などの専門的な研究領域において、コミュニケーションという概念がどうとらえられ、どのように研究されてきたのかについての基礎を学んでいきます。

また2年次生は、前期に、この中のコミュニケーション学探求から、必ず1科目を履修してください。学科の専任教員が、それぞれの専門性をゼミ形式で鍛えます。

選択必修Ⅲのメイン科目は、多文化理解 共生コミュニケーション 表現とメディアの3ジャンルで、現状や先行研究について理論的に学ぶ 知と出会う くくりと、主に学内外におけるワークショップや実習によって実践的に学ぶ フィールドへ出る くくりがそれぞれラインナップされています。3ジャンルまんべんなく履修することをお勧めしますが、自分なりの専攻・ピークを作ってもいいでしょう。科目によっては現地実習などで参加費が必要な場合やパスポートが必要な場合などがあり、授業時間外の参加が求められることも少なくありませんので、初回授業時には必ず出席して担当教員の説明や指示をよく聞いてください。また、多くの科目で毎回のようにレポートや制作物の提出が課題とされ、グループワークやホームワークが求められるでしょう。

これらの選択必修Ⅲは、現代文化を読み解く と合わせて18単位以上履修すれば卒業要件を満たしますが、できるだけ多くの科目を学ぶに越したことはありません。

選択必修Ⅳ 専門を深める の「コミュニケーション専門ゼミⅠA, Ⅰ B」は、コミュニケーション学科全専任教員がそれぞれ研究テーマを掲げてゼミナール生を募集し、3年次に学生全員がいずれかのゼミナールに所属して、発表や討論や文献講読、フィールドワーク、調査などをしながら少人数で研究を行います。それは、4年次の「コミュニケーション専門ゼミⅡA, Ⅱ B」に橋渡しされ、最終的な「卒業論文・卒業制作」をまとめます。これらⅣ群はいずれも必修です。3年次からはゼミ担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」となります。

4年間・8セメスターの履修は、次のモデル図をよく参考にして組み立ててください。また、2年次後期に募集され3年次から始まるゼミナールは、次頁のような研究内容のゼミが予定されています。早い学年のうちから履修計画を立てておくようにしてください。

4年間の履修モデル

科目群／セメスター	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
語　学	磨く／訓練する		実践力をつける		語学力を維持する／発展させる			
「全体像を知る」基礎編	「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」「コミュニケーション研究法の全体像」の履修							
プレゼミ	R&R	基礎ゼミ	コミュニケーション学探求					
「研究方法に取り組む」	「研究方法」科目群の履修（上記を含む12単位以上）							
「コミュニケーションの基礎を学ぶ」	「基礎を学ぶ」科目群の履修（なるべくまんべんなく）							
コミュニケーション科目専門	「多文化理解」「共生コミュニケーション」「表現とメディア」科目群の履修（まんべんなく又は分野をしぼって履修）							
その他の履修			留学、インターンシップ、ボランティア実習					
ゼミ・卒論・卒制				ゼミ選び	研究テーマづくり	研究テーマ決定	調査、フィールドワーク	執筆・制作

＊履修にあたっては、web 上のシラバスおよび学生要覧を必ず熟読して登録・授業に参加してください。またシラバス上で使用されているテクニカルタームについては、各自で調べておいて履修に臨むほか、R & R テキストの「用語集」なども熟読してください。

ゼミナール担当（指導可能）分野

教員名		潮村公弘	齋藤孝滋	渡辺浪二	諸橋泰樹	高田明典	井上恵美子	高橋京子	小ヶ谷千穂	相澤　一	夏目　純
専　攻		異文化心理	社会言語学	心理学	マスコミ社会学	メディア文化論	教育学	身体論	多文化共生	異文化コミュ	企画編集
指導分野	心理・社会心理	◎	○	◎	○	○					
	異文化・多文化	○	◎						◎	◎	
	言　語		◎							○	
	身　体		○					◎			
	家族・教育			◎			◎		○		
	ジェンダー				◎		◎		○		
	思想・社会					◎	○	○	◎	◎	○
	メディア	○		○	◎	◎					◎
	コンピューター・情報			○		◎					
最低限履修しておくべき研究方法科目(2科目のうちどちらかは履修しておくこと)		データを数量から読み解く	話しことばを分析する	実験の研究計画をたてる	アンケート・社会調査の方法	文献・情報の集め方	インタビュー・面接のスキル	フィールドワークとエスノグラフィー	多文化・多言語社会を考える	アンケート・社会調査の方法	文献・情報の集め方
		実験の研究計画をたてる	データを数量から読み解く	データを数量から読み解く	データを数量から読み解く	マルチメディア制作IA	アンケート・社会調査の方法	文献・情報の集め方	フィールドワークというライフヒストリー分析を学ぶ	文献・情報の集め方	インタビュー・面接のスキル
履修しておくことが望ましい科目		文化の心理学	ことばのフィールドワーク	対人コミュニケーションの心理学	ジェンダー問題と男女共同参画社会	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ	子どもの発達とこれからの教育問題	身体表現論	グローバル化する人の移動の社会学	異文化のコミュニケーション	編集デザインスキル
		コンピュータによる調査データの解析 A,B	言語コミュニケーション概論	コンピュータによる調査データの解析 A,B	メディアリテラシーを身につける	アンケート・社会調査の方法	これからの家族問題 A,B	身体としぐさの心理学	フィールドワークとエスノグラフィー	多文化・多言語社会を考える	マルチメディア制作I（CG・DTP編集）A,B
		アンケート・社会調査の方法	日本語文法論とコミュニケーション	組織の中の人間関係	マスコミュニケーションと情報社会	文化コミュニケーション概論	ジェンダー問題と男女共同参画社会	スポーツ文化	共生のフィールドワーク	アジアとの出会いと異文化体験	新聞・出版ワークショップ

＊表の見方…教員ごとに、指導可能分野に丸印がついています（◎は「かなり専門的に指導可」、○は「指導可」）。表をヨコに見ると分野ごとのゼミが浮かび上がります。たとえば、「言語」関係のゼミ志望でしたら、第1希望齋藤先生、第2希望相澤先生などのように希望することができます。もちろん、第1希望高橋ゼミ、第2希望高田ゼミ、第3希望小ヶ谷ゼミなどのように、一貫しない志望でもかまいませんが、その分事前の最低限履修しておくべき研究方法科目や履修しておくことが望ましい科目が増えることになります。

＊＊……夏目先生は非常勤講師ですので、出講日は週1回となります。

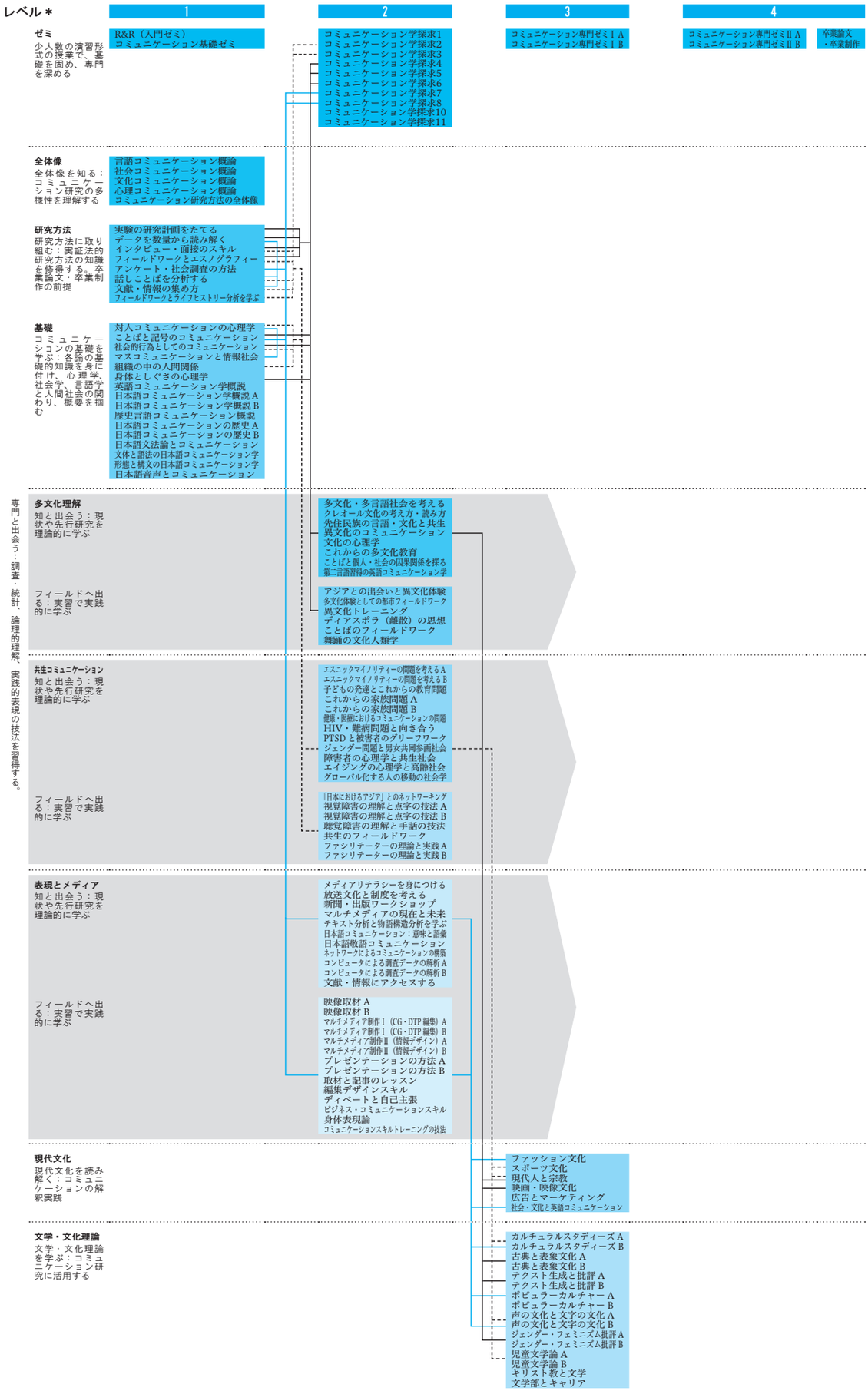
その他

Ⅲ群には、文学・文化理論を学ぶとして、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を、コミュニケーション研究に大いに活かしてください。

科目名には、これまでみなさんが聞いたことのない、横文字や最新用語が使われているものがあります。履修前・登録前に、必ずシラバスをよく読んで授業に臨んでください。

なお本学科には、設備の関係や学習効果を上げるため、受講者数を少人数に絞っている科目が少なからずあります。履修申し込みを学生本人が「履修者数制限科目希望受付期間」に行うか、授業の第1回目に出席して当該教員による選抜を受けなければなりません。卒業要件や入ゼミ条件にかかわる科目であるにもかかわらず、申し込みを怠ったり1回目の授業を休んだりすると、履修できずに本人の不利益になりますので、充分注意してください。

コミュニケーション学科　カリキュラムマップ



レベル＊　学科が想定するレベル（難易度）です。1：導入、2：基礎、3：発展、4：卒業論文等を表しています。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

「履修上の注意」（pp.20～26）及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1．共通科目（基礎教養・総合課題、語学）の履修

pp.48～54、55～62を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2．専門科目の履修

カリキュラム表、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1)「R&R（入門ゼミ）」：1年次前期に履修

① 選考：クラスは学科が決定します。履修登録は学科で行います。

② 再履修：「R&R（入門ゼミ）」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「コミュニケーション基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R（入門ゼミ）」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員（p.170）の指示を受けてください。

(2)「コミュニケーション基礎ゼミ」：1年次後期に履修

① 選考：クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。前期末に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。

② 再履修：「コミュニケーション基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【注意】「R&R（入門ゼミ）」または「コミュニケーション基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであることを3年次「コミュニケーション専門ゼミ」の履修条件とします。

(3)「コミュニケーション学探求」：2年次前期に履修

① 選考：クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

② 2年前期のオリエンテーション時に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。

(4) 選択必修Ⅱについて

① 1年次または2年次に、選択必修Ⅱ「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」と「コミュニケーション研究方法の全体像」および「実験の研究計画をたてる」「アンケート・社会調査の方法」「インタビュー・面接のスキル」「話しことばを分析する」「文献・情報の集め方」「データを数量から読み解く」「フィールドワークとエスノグラフィー」「フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ」の中から12単位以上を修得すること。

② 上記のうち「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」「コミュニケーション研究方法の全体像」は必修指定にはなっていませんが、重要な基礎科目です。各「概論」は1つ以上、「研究方法」は是非履修するようにしてください。

(5)「コミュニケーション専門ゼミⅠA, ⅠB」：3年次に履修

① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。

② 再履修：「コミュニケーション専門ゼミⅠA, Ⅰ B」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「コミュニケーション専門ゼミⅡA, Ⅱ B」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員（p.170）の指示を受けてください。

(6)「コミュニケーション専門ゼミⅡA, Ⅱ B」：4年次に履修

① 所属ゼミは原則として3年次の「コミュニケーション専門ゼミⅠA, Ⅰ B」と同一担当者とし、その担当者のもとに卒業論文・卒業制作の指導を受けることとします。

② 再履修:「コミュニケーション専門ゼミⅡA」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「コミュニケーション専門ゼミⅡB」を重複して履修し、「コミュニケーション専門ゼミⅡA」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「コミュニケーション専門ゼミⅠA, Ⅰ B」と「コミュニケーション専門ゼミⅡA, Ⅱ B」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、交換・認定留学学期には卒業できません。

→p.38「海外留学」

(8)「卒業論文・卒業制作」

卒業論文・卒業制作は、卒業する年度に提出することとします。「卒業論文・卒業制作」の単位認定は、卒業する年度に限ります。「卒業論文・卒業制作」の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が設定されています。要件などの詳細に関しては4年次前期に開催される「卒業論文・卒業制作オリエンテーション」において説明されるので、掲示等に留意してください。

社会調査士資格認定について

「社会調査士」とは、日本教育社会学会・日本行動計量学会・日本社会学会の三学会が連携協力して設立した「社会調査士認定機構」が認定する資格であり、所定の科目群の履修を通して社会調査に関する基礎的な知識と技能および応用力と倫理観を身につけた者に対して認定されます。コミュニケーション学科では、この「社会調査士」の資格取得のために必要となる科目の認定を受けています。ただし、資格認定のためには、所属するゼミナールや、履修する科目に関して、条件があります。社会調査士資格の取得を希望する人は、学科から配布される資料や、文学部共同研究室の掲示に注意するようにしてください。社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人社会調査協会のホームページで見ることができます。(http://jasr.or.jp)

国際交流学部

国際交流学科

国際交流学部の人材養成目的

国際交流の領域に関する高度の教育研究を行い、グローバリゼーションの時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた人材を養成する。（学則第2条の2）

国際交流学部　国際交流学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

国際交流の領域に関する高度の教育研究を行い、グローバリゼーションの時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた人材、すなわちこれからの社会に貢献できる知性と行動力をもった人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域に関する知識を修得するとともに、グローバリゼーションの時代にふさわしい教養や語学力を身に付け、地球的課題に立ち向かい、社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（国際交流学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

入門・基幹科目群から始まり、国際協力、文化交流、人間環境の３プログラムへと展開するカリキュラムで国際交流における総合的知識を教授する。これにより、世界の現実を把握し理解する能力、グローバリゼーションの時代に相応しい教養、他者理解のための語学力を養う。

卒業に必要な単位数

2014年度以降入学者

科目区分		単位数			備　　考	参照
共通	基礎教養	2			「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共通	総合課題	2			「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
共通	語　　学	コースによる： ① 10 ② 16 ③ 22			①スタンダード・コース選択者 ②２か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
専門	必　　修	10			「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位	*3
専門	選択必修	基幹科目	12		基幹科目から12単位	*4
専門	選択必修	所属するプログラムの推奨科目	6	合計で20単位以上	国際協力、文化交流、人間環境プログラムのうち、所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上を修得	*5
専門	選択必修	所属プログラムの科目		合計で20単位以上		
専門	卒業論文	6				*6
その他		① 62 ② 56 ③ 50				*7
合　　計		124				

2009～2013年度入学者

科目区分		単位数		備　　考	参照
共通	基礎教養	2		「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共通	総合課題	2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
共通	語　　学	コースによる： ① 10 ② 16 ③ 22		①スタンダード・コース選択者 ②２か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
専門	必　　修	ⓐ 10　　ⓑ 8		ⓐ卒業論文コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位 ⓑ6単位コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位	*3
専門	選択必修	A群から4単位以上 B群から4単位以上 C群から4単位以上	かつ合計で32単位以上		*5
専門	ⓐ卒業論文または ⓑ指導教員の指定する 国際交流学科専門科目	6			*6
その他		① 62 ② 56 ③ 50			*7
合　　計		124			

＊1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
＊2	卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース選択者は10単位、2か国語履修コース選択者は16単位、また、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.69～72を見てください。
＊3	「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位の計10単位が必修です。 また、2014年度以降入学者は「研究入門（国際交流学部での学び）」が必修です。 なお、卒業論文に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修が認められた場合、「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位の計8単位が必修です。 「研究入門」の修得単位は、2013年度以前入学者は4単位まで、2014年度以降入学者は修得した単位全てが卒業に必要な単位として認められます。（必修単位2単位を含む。） 履修方法は、「専門科目の履修」を見てください。
＊4	2014年度以降入学者 基幹科目から12単位が必修です。
＊5	2014年度以降入学者 2年次前期から、国際協力プログラム、文化交流プログラム、人間環境プログラムのうち1つに所属します。 所属するプログラムの推奨科目から最低6単位以上、かつプログラム内で合計20単位以上となるように修得してください。 2009～2013年度入学者 A 群、B 群、C 群から各4単位以上、かつ合計で32単位以上となるように修得してください。
＊6	卒業論文に代えて、指導教員の指定する国際交流学科専門科目（6単位）の履修を認められる場合があります。アカデミック・アドバイザーと相談の上、所定の手続きが必要です。（「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」、「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目は対象外です。）
＊7	全学生対象 次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで） 2014年度以降入学者のみ適用 ・必修として規定された以上に、基幹科目から自由に選択した科目 ・国際交流学科実践科目 ・選択必修として規定された以上に所属するプログラムから選択した科目 ・国際交流学科の所属外プログラムの科目
	2012年度以降入学者 1年次～４年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。 2011年度以前入学者 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく２年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、左記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.146を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」 2010年度以降入学者　10単位 2009年度以前入学者　12単位

編入学者の卒業に必要な単位数

2015年度以降入学者

2年次編入学者

科目区分		単位数	備　考	参照
共通	基礎教養 総合課題	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	*1
共通	語　　学	6	英語または初習外国語科目から6単位	*2
専門	基礎演習	2		
専門	選択必修	基幹科目 8 所属するプログラムの推奨科目 6 所属プログラムの科目 （合計で20単位以上）	基幹科目から8単位 国際協力、文化交流、人間環境プログラムのうち、所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上を修得	
専門	専門演習	4		*3
専門	卒業論文	6		*4
その他		44	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		94		

2014年度以降入学者

2年次編入学者

科目区分		単位数	備　考	参照
共通	基礎教養 総合課題	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	*1
共通	語　　学	6	英語または初習外国語科目から6単位	*2
専門	基礎演習	2		
専門	選択必修	A群から4単位以上 B群から4単位以上 C群から4単位以上 （かつ合計で28単位以上）		
専門	専門演習	ⓐ 4　ⓑ 2	ⓐ卒業論文コースを選択した場合 ⓑ6単位コースを選択した場合	
専門	卒業論文	6		
その他		ⓐ 44　ⓑ 46	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限 *1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		94		

２年次編入学者が各学期に履修登録できる単位数の上限

この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。

2011～2012年度入学者	2年次の各学期：31単位を限度とします。
2013年度以降入学者	2年次～4年次の各学期：学期ごとに24単位を限度とします。

3年次編入学者

科目区分		単位数	備　考	参照
共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	*1
	総合課題			
	語　　学	−		
専門	選択必修	−		
	専門演習	4		*3
	卒業論文	6		*4
そ の 他		48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		62		

*1	2年次編入学者・3年次編入学者 「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から計4単位が必修です。 3年次編入学者のみ適用 「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（P.53「キリスト教科目」参照）
*2	2年次編入学者は、英語または初習外国語科目の中から合計6単位が必修です（教養外国語は除く）。 履修方法の詳細は、オリエンテーションで配布される資料を参照してください。
*3	卒業論文に代えて、アカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目（6単位）の履修が認められた場合、「専門演習」は2単位が必修です。
*4	卒業論文に代えて、アカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目（6単位）の履修が認められる場合があります。
*5	2015年度以降入学の2年次編入学者のみ適用 「研究入門」は修得した単位全てが卒業に必要な単位として認められます。 2014年度以前入学の2年次編入学者、3年次編入学者 「研究入門」は4単位まで卒業に必要な単位として認められます。
*6	3年次編入学者は、「基礎演習」を履修することはできません。

カリキュラムの説明

国際交流学部での学びとねらい

問題はなにか

われわれは毎日、新聞やテレビ、近年急速な発達をとげたインターネットなどで世界の出来事を見聞きしています。しかしそれらの出来事がどのような意味を持ち、どのような背景をもっているのか、わからないことも少なくありません。また世界の様々な地域の様子が伝えられもします。それぞれの地域で人々がどのような生活を送り、どのようなことを考え、どのような文化をはぐくみ、どのような社会を形づくっているのか。さらに世界が直面する深刻な問題の数々も報じられています。それらに対してどのような取り組みがなされ、対策が講じられているのでしょうか。世界の問題は、いまやわれわれの生活とも密接に結びついています。そして、世界の人々とふれあい、理解し合うためには何が必要なのでしょうか。

グローバルな視点、発想、行動力を修得

グローバリゼーションの流れがより本格化した21世紀の社会では、世界各地との交流を深め、文化・思想・言語が異なる人々と“共生”することが大きなテーマです。しかし現実には、環境・社会問題や民族紛争、経済格差など多くの課題に直面しており、理想と現実の落差はきわめて深刻です。それゆえ世界や諸地域の現状を探り、過去にさかのぼり、未来のあり方を考察し、とりわけ、国境や文化の違いを超えた、人と人の結びつき について学び、考えるのが国際交流学部での学修です。

国際交流学部では、世界で日々起こっている問題を地球市民としてとらえ、グローバルな視点から考え、国境にとらわれない視点・発想を学び、世界で活躍できるコミュニケーション能力と行動力を身につけます。

3つのプログラム制

2014年度からスタートした新しいプログラム制では、「国際協力」、「文化交流」、「人間環境」の3つのテーマを軸に国際交流について学びます。初年次には、「研究入門」「導入演習」などの科目によって大学での学び方と現代世界に関する問題意識を身につけながら、「基幹科目」で国際交流について理解するために必要な基本的知識を学びます。そこから、各自の関心に従ってプログラムを選択し、それぞれに適切に配置された科目群の系統的な履修を通じて専門科目を学びます。基礎から専門へ、プログラム制でわかりやすく、しっかり階段を上るように学びます。

履修の指針

大学ではさまざまな分野の学修に関心をもち、視野と思考の幅を広げてください。重要なことは、できるだけ早いうちに自分が何を学びたいかを見つけ、自分が研究したいテーマが何かを明確にすることです。そのためにも必修科目に留意しながら、自分が学びたいことを4年間に配分し、有機的かつ総合的に学習することが大切です。

2014年度以降入学者

国際交流学科では、国際交流における総合的知識を自らの特性や志向に合わせて体系的に学べるよう、2014年度からプログラム制を導入しました。

1年次は基幹科目群を中心に、各専門分野の基礎を学びます。2年次以降は3つのプログラムのいずれかを選択し、各プログラムの学修目標にそって知識を深めます。各プログラムの学びの特徴は下記のとおりです。

プログラム	概　　要
国際協力	国際的な政治・経済・法のしくみを学び、国際協力のあり方を理解し、国際的な関係を有する内外の場で社会貢献をするために必要な能力を身につけます。 グローバル化する現代社会において、国際協力は普通の市民にとっても遠い存在ではありません。私たちの何気ない日々の生活や行動が、遠くの国・地域で暮らす人々の生活とさまざまな形でつながっています。しかし、多様な国・地域からなり複雑化した現代世界で、わたしたちと国際問題の関わりを発見・理解するのが容易でないのも事実です。そこでこのプログラムでは、平和、貧困、格差、人権、開発など、国境を越えて複雑に絡み合う政治・経済・社会問題に多角的に切り込み、その原因と構造を探求して問題解決の能力を養います。また、現実に展開されているさまざまな国際協力の実態を学ぶことで、国際協力の意味と難しさについて知見を深め、それを国際協力の実践へとつなぐことを目指します。
文化交流	日本および世界の文化、歴史、思想／宗教と、それらの相互的係わりを学び、現代世界の多様性と複合性を理解し、文化的観点から国際交流に貢献できる能力を身につけます。 古来より、世界各地域の文明間、あるいは国家間ではさまざまな手段で文化交流がおこなわれてきました。しかし現代の情報や交通手段の飛躍的発展は、国境を越えた交流をさらに容易にしただけでなく、世界の均一化を加速させてきたといえます。そこでこのプログラムでは、世界を国家中心に捉える見方を乗り越え、世界各地域の文化の多様かつ複合的なあり方を学ぶことで、文化交流について理解を深めることを目指します。まず、個別的な地域（日本、アジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ）に注目し、これらの地域の歴史や文化、宗教等を学び理解します。その上で各地域間の交流、つまり文化の多様性を尊重しつつ世界と共存していくための文化交流の歴史と現在について知識を広げ、洞察力を高めていきます。
人間環境	自然と社会の環境について学び、コミュニティや生活者の視点から、私たちの暮らしのあり方、調和のための条件などを理解し、他者との共生に貢献する能力を身につけます。 現代の人間を取り巻くさまざまな環境は、次第に画一的で均一なものになりつつあります。それは、自然環境の破壊、地球温暖化、食の安全性の軽視、インターネットやメディアの社会的影響の拡大、少子高齢化などの問題として、私たちの生活に深く影響を及ぼしています。このプログラムでは、暮らしと地球環境、食の地産地消やブランド化、観光の促進、ソーシャルビジネス、メディアの多様化、福祉・格差問題など、私たちにとって身近な課題を、ローカルとグローバルの2つの視点で捉え考えます。つまり、各テーマについての国際動向も学びつつ、私たちの環境や暮らしを見直し、社会の諸問題の解決策や改善策を新たな切り口で再考し、他者と共生できる社会を実現するための思考力と実践力を養います。

2014年度以降入学者は、プログラム制により学びたい領域を選び、3年次からの「専門演習」でテーマを深めていきます。履修の際には以下の5点に注意してください。

1．語学の選択（インテンシブ・コースかスタンダード・コースかを含む）

語学は専門科目の履修と密接な関係があります。1年次前期・後期の語学の履修は、慎重に考えましょう（『語学科目ハンドブック』を熟読してください）。

2．「導入演習」「研究入門（国際交流学部での学び）」

1年次前期に履修する国際交流学部の学びの基礎を習得する科目です。「導入演習」では、ノートの取り方、資料の探し方、レポートの書き方、口頭発表の仕方などのアカデミック・スキルを学びます。「研究入門（国際交流学部での学び）」では国際交流学科の学びの多様性を知ることができます。

3．「基礎演習」

自分自身が関心をもつ研究テーマについて、基礎的な知識や思考を深めるための演習科目です。少人数のゼミ形式で、議論や発表など自主的な学修を進めます。1年次後期から2年次後期まで各学期1単位、合わせて3単位を履修します。同一教員のものである必要はありませんから、関心のあるテーマのゼミを選んでください。

4．「専門演習」

3年次前期から履修が始まります。関心のある研究テーマを深め、4年間の学習の成果を「卒業論文」

にまとめることを目指します。専門演習一覧（p. 122）や学科が配布する「専門演習履修の手引き」を熟読し、各教員の研究テーマを参考に自分の研究にはどの「専門演習」が適切であるかをあらかじめ検討しておくことが望まれます。

5．上記以外の専門科目の履修

自分の学習計画を充分に踏まえて目的に応じた選択をする必要があります。次の（1）から（3）に注意して履修しましょう。

（1）基幹科目

1年次から2年次の間に学ぶ学科全体に共通する基礎知識を身につける科目で、合計12単位以上を修得しなければなりません。

（2）プログラム科目

2年次前期から3つのプログラムのうち希望のプログラムに所属します。各プログラムの科目には推奨科目があり、推奨科目6単位以上を含む合計20単位以上を修得しなければなりません。

（3）実践科目

上記（1）（2）の他に、専門分野を英語で学ぶ科目、研究のための調査方法を学ぶ科目、海外実習を通して国際交流の理解を深める科目など、知識を社会で活用するために必要なスキルを身につける科目もあります。

2013年度以前入学者

2013年度以前の入学者は、従来どおりABC群に基づき、多角的な学修計画を立ててください。各群の必修単位数に変更はありません。なお、ABC群とプログラム制の科目対応表は別冊の『開講科目表』に掲載していますので、履修の進め方についてはプログラム制を参考にすることも可能です。また、4年間の個々の学習の成果をまとめる「卒業論文」は、アカデミック・アドバイザーのもとで作成します。

さらに、国際交流や研究にとって非常に大切な語学には、英語のほか初習外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語）の5言語にインテンシブ・コースが設けられ、少人数での徹底した語学教育が行われます。また、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアにおける「現地実習」科目も用意されています。

なお、履修の際の注意事項の1.～4.は上記と同じです。ただし2.に関連して、「研究入門」の未修得者は、3種類の「研究入門」から1つを選んで履修してください。

5については配当年次に従ってA・B・C群から最低4単位以上、かつ合計32単位以上になるように修得しなければなりません。

1年次生の皆さんへ

新入生が語学や専門分野を決めることは難しいかもしれません。そのような場合には、アカデミック・アドバイザー（1年次前期は「導入演習」、1年次後期および2年次は「基礎演習」担当者）に相談することができます。オリエンテーション時に配布される「くっきり、しっかり学びのレシピ～国際交流学部学修便覧～」も参考にして、体系的な履修になるよう心がけましょう。

4年間の国際交流学部での学生生活をとおして、主体的に学習に励み、幅広い知識を蓄え、地球上で日々生起するさまざまな問題を地球市民の一員として考え、世界と未来に向けて平和と共生のメッセージを発信する力を身につけてください。それが国際交流の原点であるからです。

また、資格取得を目指している人は、早めに計画を立ててください。学科専門科目と資格関連科目の時間割が重複し、思うように履修できなくなる可能性があるので、1年次より計画的に履修しましょう。

なお、学生生活や学びに必要な情報はFerrisPassportで確認することができます。また、登校時と下校時には必ず掲示板を見て、自分にとって必要な情報をしっかりとキャッチしてください。

国際交流学科　カリキュラムマップ

★：推奨科目　＊：他のプログラムと重複する科目

レベル1

導入演習

研究入門（国際交流学部の学び）
研究入門（時事問題を学ぶ）
研究入門（歴史からみる現代世界）

基幹科目

国際交流への招待
国際関係論
人権保障と法
政治学概論
近代国際関係史
戦後国際関係史
グローバル化と労働
グローバル化と生活
社会学概論
グローバル化する社会
グローバル経済
国際交流の歴史
世界史概説
世界の宗教
日本史概説
日本の文化交流
日本経済の歴史
現代の日本経済
東アジア・東南アジアの近・現代史
ヨーロッパ近代史
ヨーロッパ現代史
横浜学総論
現代社会を理解するためのジェンダー理論
地球環境
世界の人口問題
平和思想と運動

レベル2

基礎演習

国際協力プログラム

比較人権論★
国際政治の基礎★
環境と開発問題の平和学★
国際経済学★
近代グローバル経済の発展★
国際開発の理論と実践★
国際社会と法★
世界の格差と国際協力★
地域の国際交流・協力★＊
近代日本と国際関係★
ヨーロッパ政治の基礎★
歴史からみるスペイン語圏＊
南アジアの労働＊
朝鮮近代史・植民地期★＊
中国近代史＊

文化交流プログラム

日本文化の原風景★
ラテンアメリカの歴史と文化★
歴史からみるスペイン語圏＊
文化交流論★
歴史からみるフランス
歴史からみるドイツ
朝鮮近代史・植民地期＊
中国近代史★＊
メディア文化と社会★＊
情報発信と世界＊
ヨーロッパの文化とジェンダー★
スペイン現代史
ヨーロッパ世界とキリスト教★
現代思想論★
ヨーロッパの文学★
ラテンアメリカの文学★
環境教育の理念と実践＊
ロシアと現代中国★
スポーツと国際社会★

人間環境プログラム

Globalization Studies ★
地域の国際交流・協力＊
企業と社会貢献★
ソーシャルメディアの基礎知識★
南アジアの労働★＊
横浜学実習★
メディア文化と社会＊
情報発信と世界★＊
地誌★
環境教育の理念と実践★＊
資源問題★
現代家族と福祉★
英語で学ぶグリーン経済と農業★
地域と食文化★
観光文化論★
移住と文化の理論★

実践科目

統計で学ぶ社会問題（基礎）
統計で学ぶ社会問題（応用）
英語で学ぶ社会科学
英語で学ぶ人文科学

レベル3

国際協力プログラム

比較政治制度論
国際政治の見方
国際機構と国際平和
国際機構とグローバル・イシューズ
途上国と開発経済学
現代グローバル経済の発展
開発援助論
戦争と平和の学説史
国際経済と法
法でみる世界
地域統合
日米関係史
ヨーロッパ政治思想史＊
グローバル・ビジネス
市民社会の国際協力
現代日本と国際関係
南アジアの経済
ヨーロッパ統合論
フランスの政治
朝鮮近代史・開国期＊
中国現代史＊
韓国現代史＊
北朝鮮現代史＊
アジアの国際関係
東南アジアと日本の国際協力
アジア現地実習
ユーラシアの国際関係＊
北ヨーロッパの歴史＊
イギリスの政治と社会
アメリカの政治と社会
現代アメリカ論
カナダの政治と社会
アフリカを学ぶ
中東を学ぶ
平和構築
人権と世界政治
安全保障

文化交流プログラム

ヨーロッパ政治思想史＊
日本政治思想史
現代社会に見る日本文化
儒教と世界
前近代の中国思想
フランス現代史
比較文化論から見た芸能
翻訳と文化
朝鮮近代史・開国期＊
中国現代史＊
韓国現代史＊
北朝鮮現代史＊
アジア共同体研究
若者の文化と社会＊
仏教と世界
イスラームと世界
中国の近現代文学
中国の文化と芸術
中国社会の現状を考える
韓国の文化と社会
ヨーロッパ地域論
ユーラシアの国際関係＊
北ヨーロッパの歴史＊
思想文化論
ヨーロッパ世界の芸術
近現代中国思想と日本
比較スポーツ論

人間環境プログラム

市民参加の社会形成
国際交通ビジネス
ソーシャルラーニング演習
情報が世界を変える
情報とシステムのセキュリティ
若者の文化と社会＊
地方分権と市民社会
人文地理学
自然地理学
都市生活の空間デザイン
住空間デザイン
環境共生型ライフスタイル
環境と社会運動
身体と生命の社会学
北ヨーロッパの福祉社会
格差社会とアイデンティティー
若者の労働環境
英語で学ぶグリーン経済とエネルギー
地域ブランドの育て方
農環境体験実習
海外環境フィールド実習
グローバル化する仕事と家族
在日外国人
余暇と旅行
民族問題から見た世界情勢
国際ブランド・ビジネス

実践科目

Current Global Affairs
Japan Studies
英語で学ぶグローバル問題
ヨーロッパ現地実習
オーストラリア現地実習

レベル4

専門演習
卒業論文

国際協力プログラム
国際的な政治・経済・法のしくみを学び、国際協力のあり方を理解し、国際的な関係を有する内外の場で社会貢献をするために必要な能力を身につけます。

文化交流プログラム
日本および世界の文化、歴史、思想／宗教と、それらの相互的係わりを学び、現代世界の多様性と複合性を理解し、文化的観点から国際交流に貢献できる能力を身につけます。

人間環境プログラム
自然と社会の環境について学び、コミュニティや生活者の視点から、私たちの暮らしのあり方、調和のための条件などを理解し、他者との共生に貢献する能力を身につけます。

レベル　学科が想定する標準的な難易度を表しています。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

専門科目の履修

2014年度以降入学者

国際交流学科では、2年次から国際協力、文化交流、人間環境の3つのプログラムから1つを選択し、選択したプログラムに沿って履修を進めていきますが、他の2つのプログラムの科目も履修することができます。

2013年度以前入学者

国際交流学科の専門科目は、A 群：地球社会、B 群：国際社会・文化、C 群：国際社会基礎理論の3群によって構成されています。この3群は、コースではありません。したがって、どの群の授業科目も、自由に選択することができます。履修にあたっては､開講科目表（別冊）の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載を確認してください。

必修科目の「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」については、次のとおり履修方法が定められています。

		必修科目			アカデミック・アドバイザー	
1年次	前期	「導入演習」	1単位必修	クラス指定	「導入演習」「基礎演習」担当者	*1 2013年度以前入学者は「研究入門（1）～（23）」の中から1科目を選択
		「研究入門」*1	2単位必修	「研究入門（国際交流学部での学び）」		
	後期	「基礎演習」	1単位必修	1科目を選択		
2年次	前期	「基礎演習」	1単位必修	1科目を選択	「基礎演習」担当者	後期「基礎演習」担当者が　3年次「専門演習」の選択・決定の指導を行います。
	後期	「基礎演習」	1単位必修	1科目を選択		
						「基礎演習」を2単位以上修得していることが「専門演習」履修の条件となります。
3年次	前期	「専門演習」	1単位必修	1科目を選択	「専門演習」担当者	同一教員が学生のアカデミック・アドバイザーとなり、授業科目履修及び研究の指導を行います。
	後期	「専門演習」	1単位必修	1科目を選択		
4年次	前期	「専門演習」	1単位必修	「卒業論文」*2（通年科目）6単位必修	「専門演習」担当者	*2「卒業論文」のかわりにアカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。この場合、4年次の「専門演習」は選択となります。詳細は、p.123を確認してください。
	後期	「専門演習」	1単位必修			

必修科目及びプログラム選択の手続き及び履修

必修科目の手続きに関する案内、クラス指定、選考はすべて学科が行います。窓口は全て国際交流学部共同研究室です。

学科からの情報発信は FerrisPassport の掲示、8号館掲示板で行うので、各自で確認してください。

1．手続き

手続き、履修登録については次のとおりです。

「基礎演習」「専門演習」は、提出された志望票に基づき学科が選考、調整を行います。

	申込み等手続	履修登録	提出先	選考
導入演習	指定されたクラスを履修するため、手続きは必要ありません。	自動登録	—	なし
研究入門	指定されたクラスを履修するため、手続きは必要ありません。	自動登録	—	なし
基礎演習	各学期に定められた期日までに志望票を提出	許可されたクラスが自動登録される	国際研 *	あり
専門演習	定められた期日までに志望票を提出	許可されたクラスが自動登録される	国際研 *	あり
プログラム選択	定められた期日までに所定用紙を提出	—	国際研 *	なし

* 国際研：国際交流学部共同研究室

「基礎演習」及び「専門演習」の志望票未提出の場合

「基礎演習」：原則として次学期の履修は認められません。

「専門演習」：原則として3年次の履修は認められません。

なお、第1次選考で未決定となった学生を対象に第2次選考を行います。

正規の手続き期間内に志望票を提出しなかった者は対象外です。

2．留学等の理由による「基礎演習」及び「専門演習」の規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流（同志社女子大学での国内留学）により、規定された履修年次・学期に履修することができない場合のルールは次のとおりです。

	ルール
基礎演習	(1) 1学期に2つ並行して履修することが認められます。 (2) 留学が決定した場合、留学の前の学期に「基礎演習」を2つ履修することも認められます。該当者は教務主任に申し出て指示を受けること。
専門演習	(1) 3年次履修分の「専門演習」を4年次に履修する者は、4年次前期または後期のいずれか1学期に限り、4年次履修分の「専門演習」と3年次履修分の「専門演習」を並行して履修することが認められます。 (2) 3年次後期から4年次前期までの2学期にわたる留学等については、3年次前期分の「専門演習」と3年次後期分の「専門演習」を並行して履修すること等が認められます。該当者は教務主任に申し出て指示を受けること。なお、派遣・交換留学学期には卒業できません。

3．再履修

必修科目の再履修の手続きは、学科の定めた期日に行います。詳細は国際交流学部共同研究室の掲示で確認してください。

(1) 導入演習

再履修は、国際交流学部共同研究室への手続きが必要です。

	ルール
導入演習 （前期のみ）	各クラス3名を上限に受付を行います。 語学科目、他の必修科目と時間割が重複しないように選択してください。

(2) 研究入門

国際交流学部共同研究室への手続きは不要です。履修登録期間内に各自で登録してください。

入学年度	再履修科目
2014年度以降入学者	「研究入門（国際交流学部での学び）」
2013年度以前入学者	2013年度以前開講「研究入門（1）～（23）」が未修得の場合、 「研究入門（国際交流学部での学び）」「研究入門（歴史から見る現代世界」 「研究入門（時事問題を学ぶ）」の3つの中から1つを選択してください。

(3) 基礎演習、専門演習

再履修は、国際交流学部共同研究室への手続きが必要です。

なお、再履修すべきクラスが複数ある場合、認められるルールは次のとおりです。

	ルール
基礎演習	2年次・3年次生：1学期のみ2つ並行して履修することが認められます。 4年次生　　：前期、後期とも2つ並行して履修することが認められます。
専門演習	3年次履修分の「専門演習」を4年次に履修する者は、4年次前期または後期のいずれか1学期に限り、4年次履修分の「専門演習」と3年次履修分の「専門演習」を並行して履修することが認められます。

4．「専門演習」の履修条件

(1) 前提

「基礎演習」を2単位以上修得していない者は、「専門演習」を履修することができません。

ただし、このルールは2年次編入学者には適用されません。

(2) 担当者

3年次の「専門演習」は、前期・後期とも同一担当者のものを履修しなければなりません。

5．「専門演習」の分野、テーマ一覧

国際交流学科には、次の「専門演習」が設けられます。オリエンテーション時に配布する「専門演習履修の手引き」と併せて、4年間の履修計画を立てる上での参考としてください。

分　　野		教　員　名	2015年度テーマ
1．地球環境を学ぶ		佐藤　　輝	環境問題
		高雄　　綾子	開発と環境の文化とメンタリティ
2．思想・文化を学ぶ	アジア	江上　　幸子	中国の社会・文化・ジェンダー
		筧　　雅博	日本文化（現代の日本社会の諸状況を含む）
		金　　香男	韓国の社会と文化
	ヨーロッパ	大野　英二郎（2015年度休講）	フランスを中心とするヨーロッパと日本の交流の歴史
		田丸　　理砂	ドイツ語圏の社会と文化（ジェンダーの視点から）
		寺尾　　隆吉	スペイン語圏の芸術と文化
		横山　安由美	フランスの文化と社会
		原口　　尚彰	地球市民とキリスト教
3．歴史・社会を学ぶ	アジア	泉谷　　陽子	近現代中国研究
		大西　比呂志	横浜を中心とする地域学
		新城　　道彦	朝鮮半島の歴史と文化
		福島　　仁	中国社会近代化の理論
	ヨーロッパ	上原　　良子	ヨーロッパ国際関係とフランス
		中塚　　次郎	スペインの政治・社会・文化
		矢野　久美子	ヨーロッパの現代社会（ドイツを中心として）
	アメリカ	ヒガ，マルセーロ	現代社会と移民：ラテンアメリカにおける人間の交錯
4．法を学ぶ		荒井　　真	日本および世界における様々な法律問題を考察し、論じる。
		常岡（乗本）せつ子	基本的人権や平和などの憲法問題（諸外国との比較や外国の研究者による日本研究を含む）
5．国際関係を学ぶ		古内　　洋平	現代国際社会の秩序
		杉之原　真子	グローバル経済と日米の社会・政治
6．経済を学ぶ		木曽　　順子	開発途上国の貧困と発展
		八幡　　清文	世界各国・地域の経済の動向 グローバリゼーションと日本の経済・社会
		齊藤　　直	戦後の日本経済と経営
7．現代社会を学ぶ		高柳　　彰夫	国際協力と市民社会
		春木　　良且	技術と社会 （プロジェクト学習で技術のトレンドをキャッチアップする。）
		ベンヤミン・ミドルトン	現代社会の社会学
		横山　　正樹	アジア太平洋地域における開発・環境問題の平和学
		和田　　浩一	スポーツと国際社会

「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目６単位の履修方法について

４年次には卒業論文を執筆します。

ただし、卒業論文に代えて学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。この場合は3年次後期の所定の期日（12月初旬）までに、3年次アカデミック・アドバイザー（「専門演習」担当者）と相談の上決定し、手続きを行ってください。なお、手続きの詳細については8号館掲示板で確認してください。

１．手続き

入学年度	対象者	手続き方法
2014年度以降入学者	卒業論文に代わる6単位履修者のみ	アドバイザーから許可を受け 国際交流学部共同研究室に届出
2013年度以前入学者	全員	「卒業論文コース」「6単位コース」 いずれかを選択

２．卒業論文を執筆する場合

（1）専門演習の履修

4年次の「専門演習」は選択ですが、「卒業論文」を提出しようとする者は、4年次に「専門演習」を履修しなければなりません。

（2）履修手続き、提出方法

「卒業論文」（通年科目）は4年次に、大学で登録されるので、自分で登録する必要はありません。提出方法については、p.35「卒業論文」を見てください。

３．　卒業論文に代えて学科専門科目6単位の履修が認められた場合の手続き

（1）科目の指定、指定対象除外科目

3年次アカデミック・アドバイザーが指定する国際交流学科専門科目6単位を、4年次の前期・後期にわたって履修しなければなりません。

ただし、「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目、履修者数制限科目、初回授業選抜科目は指定対象除外科目ですので指定できません。

（2）科目指定手続き、履修登録方法

（1）で指定された科目の履修登録は各自で行います。ただし、その前に国際交流学部共同研究室に指定科目を提出する必要があります。

（3）指定科目未修得時の再指定

4年次前期に指定科目の単位修得ができなかった場合は、9月アドバイザー面談でアカデミック・アドバイザーから再指定を受ける必要があります。再指定後の手続き等は（2）のとおりです。

（4）「卒業論文」から「学科専門科目6単位選択」への変更

４年次前期､後期開始前に変更が可能です。変更を希望する場合には学科（国際交流学部共同研究室）に申し出て必要な手続きをとってください。

履修上の注意（卒業延期者対象）

卒業延期が確定した学生のうち、次に該当する者は、卒業予定学期開始時に教務主任（p.170）に申し出て指示を受けてください。追加登録または再指定が認められる場合があります。

① 卒業論文選択において「基礎演習」･「専門演習」の志望票未提出等の理由により履修登録が完了していない。

② 6単位選択において成績評価が不合格となった等の理由により指定科目が未修得。

「現地実習」科目

現地実習科目には、「アジア現地実習（2）」「ヨーロッパ現地実習」、「オーストラリア現地実習」があります。履修の流れ、手続き等は下記の表を参照してください。

現地実習科目

対象科目（単位数）	「アジア現地実習（2）」（2単位）	
実習先	フィリピン	
参加人数	5～10名程度	
参加資格	資格として要求しませんが、英語の理解・表現能力は重要となります。	
スケジュール	2015年4月中旬	説明会に参加。
	2015年4月中旬	「実習参加申し込み」を海外交流課に提出。 申し込み方法については、説明会及び掲示で指示します。 以後、数回にわたり実習先ごとの説明会を行います。
	2015年9月中	実習（フィリピン）
履修登録	履修登録は大学側で行います。登録状況を確認してください。	

対象科目（単位数）	「オーストラリア現地実習」（2単位）	
実習先	ボンド大学（オーストラリア・ゴールドコースト市）	
参加人数	10～20名	
参加資格	資格として要求しませんが、次のとおり選考基準を設けます。 ①オーストラリアへの関心　②国際交流学部生優先 ③学年（上級生優先）　④語学力　⑤ GPA	
スケジュール	2015年4月中旬	説明会に参加。
	2015年4月下旬	「実習参加申し込み」を海外交流課に提出。 申し込み方法については、説明会及び掲示で指示します。
	2015年8月～9月	現地実習（オーストラリア）
履修登録	履修登録は大学側で行います。登録状況を確認してください。	

＊「ヨーロッパ現地実習」は、2015年度休講。

音楽学部

音楽芸術学科

演奏学科

音楽学部の人材養成目的

西洋音楽の根幹であるキリスト教音楽を基盤として、音楽の領域に関する高度の教育研究を行い、専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた人材を養成する。（学則第2条の2）

音楽芸術学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

音楽創造、音楽表現、音楽文化の領域における総合的な理解とともに、音楽で人と社会を結ぶための知識やスキルの修得を主眼とし、音楽のジャンルを越えた多彩な学びの中で、音楽と社会の接点を見すえ、幅広く社会で活躍する人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

音楽文化の創造や情報の発信、地域社会での音楽活動などに必要な幅広い知識やスキルを身に付け、音楽で人と社会を結び、社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（音楽）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

音楽創造、音楽表現、音楽文化の基礎から実践まで、幅広い教育を展開し、共通科目を含めた多様な授業科目の中から、音楽と社会の接点を見出して、自分の能力を開発できる力を養う。

卒業に必要な単位数

科目区分		単位数		備　　考	参照
共通	基礎教養	2		「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
共通	総合課題	2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
共通	語　　学	8			*2
専門	選択必修	1群　4	かつ合計34単位以上	1群から4単位以上	
専門	選択必修	2群　2	かつ合計34単位以上	2群から2単位以上	
専門	選択必修	3群　–	かつ合計34単位以上		
専門	選択必修	4群　2	かつ合計34単位以上	4群から2単位以上	
専門	選択必修	5群　2	かつ合計34単位以上	5群から2単位以上	
専門	選択必修	6群　4	かつ合計34単位以上	専門ゼミⅠ～Ⅳを各1単位、合計4単位	
専門	卒業プロジェクト	6			
そ の 他		72		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		124			

＊1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
＊2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.73～76を見てください。
	2012年度以降入学者 1年次～４年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。 2011年度以前入学者 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく２年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.146を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」から10単位

3 年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に62単位を修得することが卒業要件となります。ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.53「キリスト教科目」参照)

編入学者の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備　　考	参照
共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	
	総合課題			
	語　　学	–	語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	前頁 *2
専門	選択必修	4	6群から4単位： 「専門ゼミⅠ」1単位、「専門ゼミⅡ」1単位 「専門ゼミⅢ」1単位、「専門ゼミⅣ」1単位	
	卒業プロジェクト	6		
その他		48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：前頁＊2のとおり） ・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		62		

カリキュラムの説明

音楽芸術学科が目指すこと

音楽芸術学科は21世紀の社会における多様な音楽シーンで活躍できる人材の育成を目的としています。ますます多様化する社会のニーズに合わせて、音楽を「社会とつながる」観点で学び、実践し、また文化的、社会的背景において研究する学科として2005年度より展開しています。

1）新時代の音楽文化を切り拓く表現者、2）音楽文化を支える企業で働く人、3）音楽文化の裾野を広げる音楽指導者など、将来像を描きつつ、幅広い選択肢の中から3年次以降に所属するゼミを見据え、その基礎となる科目を選択していきます。

カリキュラムの構成及び特徴

音楽芸術学科は多様な分野に対応して2年次、3年次に多くの学科特有の科目を準備しています。それらは3年次から始まる専門ゼミの準備科目または専門科目として学生が自ら選択するようになっています。カリキュラム全体は学んでほしい分野の組み合わせに応じて7群に分かれています。

第1群「ミュージシャンシップを養う」

音楽を学ぶ上での不可欠な基礎理論・基礎実技を学びます。

第2群「キリスト教を学ぶ」

本学建学の理念であるキリスト教についての理解を、音楽を通して深めます。

第3群「ミュージシャンシップを高める」

第1群で養った音楽性をさらにスキルアップ、音楽家としてより高度な実践と応用の技術を身につけます。

第4群「音楽の背景を知る」

音楽の背景を、歴史・理論などの観点から深く学ぶための科目です。

第5群「社会実践コミュニケーション」

社会実践コミュニケーションに関する科目群で、現代的な内容の多彩な科目から構成されます。

第6群「専門を高める」

「基礎演習」から「応用演習」を経て専門ゼミⅠ～Ⅳへとつながります。1,2年次で自分の興味を絞ってゆき3,4年次で所属ゼミへと進みます。

第7群「専門を極める」

卒業プロジェクトを仕上げます。卒業プロジェクトには「卒業論文」または「卒業制作及び副論文」2タイプがあります。どちらの形で発表することにしても、専門ゼミの学びと連動して自分のプロジェクトを完成させます。

4年間の履修の指針

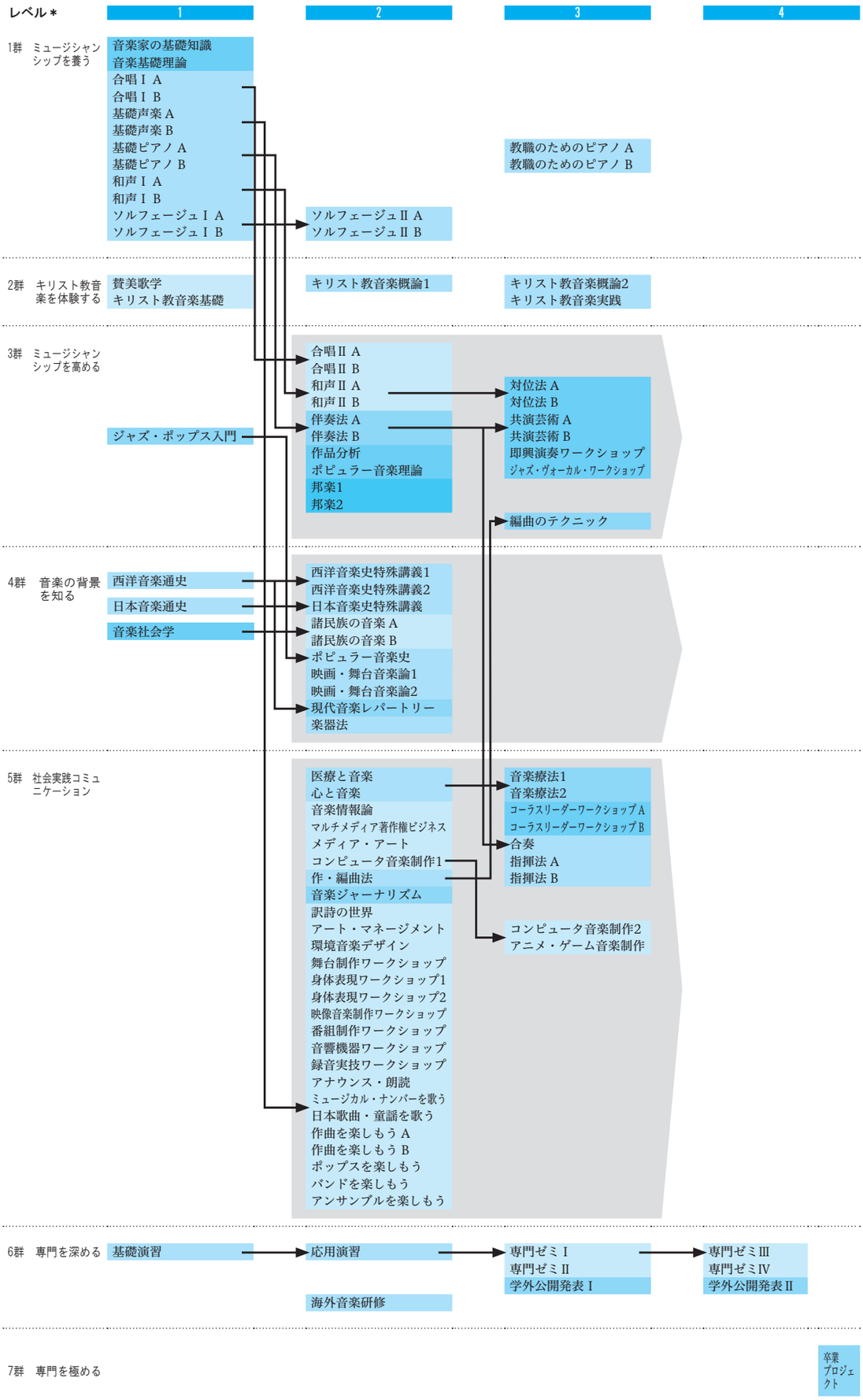
自由度の高いカリキュラムが特徴なので、そのメリットを生かすようにしてください。1年次では1群の科目を中心に音楽的基礎力を身につけ、2年次では3～5群を中心に、幅広い分野の専門科目を履修してください。関心のあるゼミの「履修前提科目」にチャレンジしてみるのもよいでしょう。また、1～2年次では、フェリスでの学びの基礎とも言える語学科目やキリスト教科目を履修します。「語学」の中でも、特に「英語」は将来どのような分野でも不可欠であり、英語教育に優れている本学で英語を学べることは、大きなメリットです。共通科目「基礎教養・総合課題科目群」には、「情報リテラシー」や「キャリア・デザイン」「女性学」に関する科目もあり、就職時にも役立つ知識を得ることができます。また、他学部に開放されている専門科目を履修することができます。こうした他学部との接点も総合大学である本学の強みです。

3～4年次はそれぞれ希望する専門ゼミに所属し、専門性をさらに追求します。音楽芸術学科の専門ゼミは、7つの多様な分野で構成されており、音楽理論を学んで創作にチャレンジする「作曲・編曲ゼミ」、「声」によるコミュニケーションの可能性を探求する「ヴォーカル・コミュニケーション・ゼミ」、音楽の情報発信に必要な実践的能力を高める「音楽ジャーナリズム・ゼミ」、より良い音環境創りについて探求する「音環境デザイン・ゼミ」、ポピュラー音楽を理論と実践の双方から学ぶ「ポピュラー音楽・ゼミ」、様々な活動をとおしてコンサートマネージメントを実践的に学ぶ「共演コミュニケーション・ゼミ」、新しいメディア・テクノロジーの可能性を探求する「音とメディア・テクノロジー・ゼミ」の中から選択します。

卒業要件単位の124単位を4年間にバランスよく振り分けるように履修計画を立てて下さい。専門ゼミの分野がよくわからない人は1～2年次に多様な科目にチャレンジして自分の専門分野を選んで下さい。選り好みをせず、チャレンジしてみると意外と自分で気づかなかった得意分野が見つかるかもしれません。心を自由にして挑戦してみてください。しかしその一方で、心に決めた分野があってその周辺科目を極める、というのもステキな計画になるでしょう。要するに、4年間という時間を無駄にせず、貪欲に勉強して下さい。

未来は自分の意欲の中にあります。チャレンジャーとして「音楽で社会とつながる」方策を模索しながら、また大学で音楽を学ぶことの意味づけをしながら、楽しく一生懸命勉強してください。音楽を学ぶことで得る様々な技術や能力は、自分で思っている以上の力となり、将来様々な場面で発揮されることになるでしょう。

音楽芸術学科　カリキュラムマップ



レベル＊　学科が想定するレベル（難易度）です。1：導入、2：基礎、3：発展、4：卒業論文等を表しています。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

専門科目の履修

1．「基礎演習」「応用演習」

「基礎演習」は1年次、「応用演習」は2年次に全員が履修する科目です。

履修する学期については、学科が決定します。原則として変更は認められません。

「基礎演習」「応用演習」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度に再履修することになります。各自、学期始めの履修相談で学科教務委員の指示を受けてください。

2．「専門ゼミⅠ～Ⅳ」について

(1)「専門ゼミⅠ・Ⅱ」：3年次に履修

① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。選考は、2年次後期に行いますが、詳細は後期開始後に発表します。

② 再履修：「専門ゼミⅠ・Ⅱ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「専門ゼミⅢ・Ⅳ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(2)「専門ゼミⅢ・Ⅳ」：4年次に履修

① 所属ゼミは原則として3年次の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」と同一担当者とし、その担当者のもとで卒業プロジェクトのための指導を受けることとします。

② 再履修：「専門ゼミⅢ」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「専門ゼミⅣ」を重複して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(3) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に「専門ゼミ」を履修することができない学生については、3年次履修分の「専門ゼミ」と4年次履修分の「専門ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

3．海外・学外における演奏活動に対して単位が与えられる授業科目

海外・学外における演奏活動、論文や作品の発表、音楽療法、演奏会等の企画・制作・運営等の実習に対して単位が与えられる科目は次のとおりです。

履修する学生はシラバスを参照の上、手続を行うこと。

授業科目名	内　　容	履修対象
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	音楽芸術学科・演奏学科
「学外公開発表Ⅰ・Ⅱ」	学外におけるプロジェクト（作品・論文・演奏）の発表	音楽芸術学科3・4年次生

4．卒業プロジェクト

卒業プロジェクトは、卒業する年度に提出することとします。「卒業プロジェクト」の単位認定は、卒業する年度に限ります。卒業論文等の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が定められています。要件などの詳細に関しては、掲示等に留意してください。

なお、「卒業プロジェクト」（通年科目）の履修登録は大学が行います。

演奏学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

キリスト教を基盤とする西洋伝統音楽の本質と文化的・歴史的な背景に対する理解を深め、確かな演奏技術と豊かな表現力を修得させ、広く社会に貢献する多彩な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

西洋伝統音楽の本質と文化的・歴史的な背景に関する知識と教養、確かな演奏技術、豊かな表現力を身に付け、演奏及びそれを中心とした様々な音楽分野で社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（音楽）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

西洋伝統音楽に対する理解を深め、演奏技術と表現力の向上を図るための専門性の高い科目群と卒業後の将来を考えるための科目群によってカリキュラムを編成し、演奏及びそれを中心とした音楽活動に幅広く対応できる総合的な能力を養う。

卒業に必要な単位数

2014年度以降入学者

科目区分		単位数	備　　考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語　　学	8		*2
専門	必　　修	1	「導入セミナー」	
		2	「2年次修了公開演奏」	
		4	「卒業公開演奏」	
	選択必修	39	1群から 24 単位	
			2群（「導入セミナー」を除く）から 6 単位	
			3群（「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」を除く）から 1 単位	
			4群から 2 単位	
			5群から 2 単位	
			6群から 2 単位	
			7群から 2 単位	
その他		66	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊2のとおり） ・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		124		

2011～2013年度入学者

科目区分		単位数	備　　考	参照
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語　　学	8		*2
専門	必　　修	3	「2年次修了公開演奏」	
		6	「卒業公開演奏」	
	選択必修	46	「専攻実技科目」から 24 単位	
			「ソルフェージュ」群から 4 単位	
			「アンサンブル科目」群から 6 単位	
			「演奏研究」群から 8 単位	
			「キリスト教音楽」群から 2 単位	
			「からだエクササイズ」群から 2 単位	
その他		57	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　　計		124		

＊1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
＊2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.73～76を見てください。
	2012年度以降入学者 1年次～４年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。 2011年度以前入学者 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく２年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、左記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細はp.146を参照してください。 ①「日本事情A、B」から4単位 ②「留学生日本語」から10単位

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に62単位を修得することが卒業要件となります。ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.53「基礎教養科目」参照)

編入学者の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備　考	参照
共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	
	総合課題			
	語　学	－	語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	＊2
専門	選択必修	12	「専攻実技科目」から12単位： 「専攻実技Ⅲ A」3単位、「専攻実技Ⅲ B」3単位 「専攻実技Ⅳ A」3単位、「専攻実技Ⅳ B」3単位	
	卒業公開演奏	6		
その他		40	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：＊2のとおり） ・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目（上限：8単位まで）	
合　計		62		

カリキュラムの説明

演奏学科がめざすこと

数ある学問の中で、芸術は特殊な位置づけと役割を持ちます。特に演奏は、行為と同時に音が消えてしまう「再現芸術」です。なぜこのような、一見すると実生活では何の役にも立たないようなことを、わざわざ時間をかけて学ぶ必要があるのでしょうか。

人は芸術がなくても最低限の生活を営むことができます。しかし、人間が自己の利益を追求するだけでなく、他者への思いやりに満ちた潤いのある社会を構成するためには、自らの精神に常に豊かな栄養を与え、他者と高次元でコミュニケートできてこそ、真の人間らしさや生きがいを持つこともできるのです。

古今の名作曲家たちが残してくれた楽譜を通して全人類の財産ともいえる芸術作品と向き合い、そこに込められた意図を正しく読み取るためには、幅広い教養や豊かな想像力が必要であり、また、解釈したことをイメージ通りの音楽にするには、高度な演奏技術や創造力が不可欠です。このような修業は4年では全く足りないのですが、4年間のなかで、演奏を意識的に、かつ集中して学ぶことにより、まずは自己を高めていくための方法を見つけていきましょう。将来的にも自分に栄養を与え続け、学びの成果を活かした社会貢献を実現する人に成長してほしいということが、演奏学科の願いです。

カリキュラムの特徴および構成

演奏学科のカリキュラムは、まず1・2年次で基礎を学び、3・4年次ではその学びを応用しつつ、さらに学習を発展させることができるように組まれています。また、カリキュラムの全体を見通せるよう、内容と目的に即した8つの群に分けられています。

第1群　専攻実技個人レッスンは、演奏学科生が1年次前期から4年次後期までの4年間をとおして履修する科目です。それぞれの担当教員が、学生のレベルに合った個人指導を行います。各学期末に行われる実技試験では、複数の学科教員から演奏についてのコメントや学習へのアドヴァイスを受け取ることができます。試験の課題についても、各自の成長段階に応じた曲が選べるように配慮されています。

第2群　基礎を身につけようでは、演奏に必要不可欠な基礎能力の習得を目指します。1年次の前期に行われる「導入セミナー」では、図書館や情報センターの利用方法を始め、楽器との付き合い方、楽譜の読み方、身に着けるべきステージマナー等、本学科での学びの方向性を一望することができるでしょう。

「和声」と「ソルフェージュ」は、一言でいえば音楽家の耳を鍛える科目です。ソルフェージュではプレイスメントテストによる能力別で、少人数クラスに分かれて授業が行われます。意識して訓練することによって、音楽的能力を上げていきましょう。「演奏のためのからだづくり」では、演奏する際に心身をリラックスさせておけるよう、脱力のテクニックや呼吸法を身につけます。「合唱」はアンサンブルの基礎中の基礎です。

第3群　ステージ経験を積もうでは、必修科目の公開演奏と自由参加の演奏会があります。「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」は必修科目の公開演奏で、各学期の実技試験期間に行います。「2年次修了公開演奏」は中間地点での学習成果、4年間の学習の総括として「卒業公開演奏」を行います。必修科目の他にも、実技試験で良い成績を修めたり、各種オーディションに合格することで、さまざまなステージの経験を積む機会が広がります。本番での経験は、そのチャンスを得るべく努力することを含めて、上達へのジャンプ台のようなものです。ぜひ最大限に利用してください。

第4群　アンサンブルを極めようでは、専攻と目的に応じて参加できる小編成アンサンブル科目が複数設けられています。他者と息を合わせて何かを成し遂げる作業は、自分の出している音や音楽の表情を客観的に聴く能力の向上に非常に役立つものであり、演奏の醍醐味を味わうための早道であると同時に、フェリスの教育理念である共生の意識を体現・体感できる大切な機会です。

第5群　レパートリーを築こうでは、自分の視野とレパートリーを拡げ、様々な時代の楽曲に接することができるよう、声楽・ピアノ・弦楽・管楽・バロック鍵盤音楽の各レパートリー、「オペラ演習」「オラトリオ演習」「キリスト教オルガン音楽実践」が開講されてあり、専攻楽器（声楽・ピアノ・弦楽・管楽・バロッ

ク鍵盤音楽)、時代や種目等、様々な角度から分類されています。また、試験にて特に優れた成績を修めた学生に対しては、演奏能力をさらに高めるために、希望する複数の教員から特別個人レッスンを受けることができる「演奏アドヴァンスト」があります。

第5群までは、実践・演習中心の科目群でしたが、第6群　知識を深めよう群では、理論や知識の習得を目指します。重要な科目が網羅されていますが、中でも「キリスト教音楽概論」「キリスト教オルガン音楽研究」は、ヨーロッパの音楽のルーツを知り、理解を深める科目であり、フェリスの特質をいかんなく発揮できる科目と言えます。

第7群　教える技術を身につけようでは、学ぶ立場から、教える立場へ移行した時に必要となる知識や技術を身につけるための授業が用意されています。教える仕事を選択しない場合でも、すべての演奏家は自分自身の最良のコーチとなる必要があります。音楽の学びを体系的に考えてみることで、客観的な切り口から音楽の学びをとらえることとなり、結果として自身の演奏の上達に繋がります。

第8群　PA 科目表現の幅を拡げようでは、専攻外の多岐にわたる楽器を副科として、個人、またはグループサイズで学ぶことができます。ただし、8群の科目はすべて実技料が別途発生します。

4年間の履修の指針

緑園校舎で過ごす1・2年次では、カリキュラムに沿って音楽的な基礎能力を高めましょう。演奏学科の専門科目はレベル別ではなく、科目の性質別に群分けがされています。第2群　基礎を身につけようから履修する6単位は、この2年間のうちに修得することが望ましいです。第3～7群からは、専攻楽器や各自の目的に合わせて、1・2年次はレベル1～2、3・4年次はレベル3～4の科目を中心に履修してください。なお、3年次以上の学年を対象とした専門科目は、基本的に山手で展開されています。校舎の移動が負担にならないように、緑園で開講されるキリスト教科目、語学、専門科目、教職科目（希望者）等　の履修については、1年次から履修計画を立てておくことをお勧めします。

また、総合大学で学べることの利点を生かして、学習の興味の対象を広げましょう。社会人として身につけておきたい基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科が開放している多様な科目を、自身のニーズに合わせて履修することができます。語学の学びが大層充実していることも本学の特徴です。言語には、その言葉を使う人々の歴史が凝縮されています。外国語を深く学ぶことは、留学や遊学に役立つだけでなく、他者への理解を深めること、つまり、音楽家としては作曲家との距離を縮めることに繋がります。

在学期間の後半である3年次から4年次にかけては、有無を言わさず人生設計の判断を迫られます。入学当初から心置きなく時間をかけて学習に励み、健全な精神と判断力、そして十分な体力を養ってください。

2011～2013年度入学者

2013年度学生要覧を参照してください。

演奏学科　カリキュラムマップ

レベル＊	1	2	3	4
1群　専攻実技 個人レッスン 各自の習熟度に合った個人指導により、演奏表現能力を向上させる。	専攻実技（声楽）Ⅰ A 専攻実技（声楽）Ⅰ B 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅰ A 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅰ B 専攻実技（弦楽器）Ⅰ A 専攻実技（弦楽器）Ⅰ B 専攻実技（管楽器）Ⅰ A 専攻実技（管楽器）Ⅰ B	専攻実技（声楽）Ⅱ A 専攻実技（声楽）Ⅱ B 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅱ A 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅱ B 専攻実技（弦楽器）Ⅱ A 専攻実技（弦楽器）Ⅱ B 専攻実技（管楽器）Ⅱ A 専攻実技（管楽器）Ⅱ B	専攻実技（声楽）Ⅲ A 専攻実技（声楽）Ⅲ B 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅲ A 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅲ B 専攻実技（弦楽器）Ⅲ A 専攻実技（弦楽器）Ⅲ B 専攻実技（管楽器）Ⅲ A 専攻実技（管楽器）Ⅲ B	専攻実技（声楽）Ⅳ A 専攻実技（声楽）Ⅳ B 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅳ A 専攻実技（鍵盤楽器）Ⅳ B 専攻実技（弦楽器）Ⅳ A 専攻実技（弦楽器）Ⅳ B 専攻実技（管楽器）Ⅳ A 専攻実技（管楽器）Ⅳ B
2群　基礎を 身につけよう ・音楽を学ぶ上で不可欠な基礎能力を修得する。 ・総合的な読譜能力を身に付ける。 ・表現者として自然な体の使い方を修得する。	導入セミナー 和声Ⅰ A 和声Ⅰ B 合唱Ⅰ A 合唱Ⅰ B ソルフェージュⅠ A ソルフェージュⅠ B 演奏のためのからだづくり A 演奏のためのからだづくり B	和声Ⅱ A 和声Ⅱ B 合唱Ⅱ A 合唱Ⅱ B ソルフェージュⅡ A ソルフェージュⅡ B		
3群　ステージ経験を積もう 舞台での演奏経験により実技領域の知と実践の力をさらに高める。		2年次修了公開演奏 演奏ボランティア 学内公開演奏	ﾌｪﾘｽﾌﾟﾚｰﾔｰｽﾞ・ｵﾝ・ｽﾃｰｼﾞ（ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ） 学外公開演奏 室内楽の夕べ	卒業公開演奏 ﾌｪﾘｽﾌﾟﾚｰﾔｰｽﾞ・ｵﾝ・ｽﾃｰｼﾞ（ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ） オーケストラ協演の夕べ
4群　アンサンブルを極めよう 多様なアンサンブル科目により他者とのコミュニケーションの取り方、協調性、管弦楽の構成や楽器の特性を理解する。		室内楽1A 室内楽1B 室内楽2A 室内楽2B 室内楽3A 室内楽3B ヴォーカルアンサンブル A ヴォーカルアンサンブル B バロックアンサンブル A バロックアンサンブル B ピアノ・デュオ A ピアノ・デュオ B 弦楽アンサンブル A 弦楽アンサンブル B フルートアンサンブル A フルートアンサンブル B 管楽アンサンブル A 管楽アンサンブル B	合唱Ⅲ A 合唱Ⅲ B 伴奏実習	
5群　レパートリーを築こう 時代や分野等、様々な角度から分類されるレパートリー科目により、自分の視野を拡げ、様々な時代の楽曲を演奏する能力を身につける。		ピアノレパートリー A ピアノレパートリー B 声楽レパートリー1A 声楽レパートリー1B 声楽レパートリー2A 声楽レパートリー2B 弦楽レパートリー A 弦楽レパートリー B 管楽レパートリー A 管楽レパートリー B バロック鍵盤音楽レパートリー A バロック鍵盤音楽レパートリー B キリスト教オルガン音楽実践 A キリスト教オルガン音楽実践 B	演奏アドヴァンストⅠ A 演奏アドヴァンストⅠ B 客員教授特別講義 オペラ演習 A オペラ演習 B オラトリオ演習 A オラトリオ演習 B	演奏アドヴァンストⅡ A 演奏アドヴァンストⅡ B
6群　知識を深めよう 音楽のルーツをたどり理解を深めるとともに、作品に込められた意図を正しく理解するために必要な理論や知識を修得する。	西洋音楽通史 日本音楽通史	諸民族の音楽 A 諸民族の音楽 B キリスト教音楽概論1 現代音楽レパートリー 演奏スペシャル講義1A 演奏スペシャル講義1B 演奏スペシャル講義2A 演奏スペシャル講義2B	キリスト教音楽概論2 対位法 A 対位法 B 楽曲分析 A 楽曲分析 B 共演芸術 A 共演芸術 B キリスト教オルガン音楽研究 A キリスト教オルガン音楽研究 B アーティストのための身体表現 A アーティストのための身体表現 B	国内音楽研修 海外音楽研修
7群　教える技術を 身につけよう 音楽の学びを体系的に考え、客観的に捉えることで、将来教える立場に立った時に必要となる知識、技術を身につける。	副科ピアノクラス A 副科ピアノクラス B 副科声楽クラス A 副科声楽クラス B	作・編曲法 キーボードハーモニー A キーボードハーモニー B 邦楽1 邦楽2 伴奏法 A 伴奏法 B	ピアノ指導ワークショップ A ピアノ指導ワークショップ B 幼児リトミック指導ワークショップ A 幼児リトミック指導ワークショップ B コーラスリーダーワークショップ A コーラスリーダーワークショップ B 指揮法 A 指揮法 B 編曲のテクニック	
8群　PA 科目 表現の幅を拡げよう 専攻以外の実技を学び、より豊かな表現力を養うことを目指す。	PA 初習副科個人実技 A PA 初習副科個人実技 B PA 副科グループ実技（バレエ）A PA 副科グループ実技（バレエ）B	PA 副科個人実技 A PA 副科個人実技 B PA 第2専攻グループ実技（バレエ基礎）A PA 第2専攻グループ実技（バレエ基礎）B	PA 第2専攻個人実技 A PA 第2専攻個人実技 B PA 教職副科個人実技 A PA 教職副科個人実技 B PA 第2専攻グループ実技（バレエ応用）A PA 第2専攻グループ実技（バレエ応用）B	

レベル＊　学科が想定するレベル（難易度）です。1：導入、2：基礎、3：発展、4：卒業論文等を表しています。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

専門科目の履修

2011年度、2014年度に演奏学科のカリキュラム改定があり、専門科目名の変更や、科目新設がなされました。このことに伴い、学生要覧上「カリキュラム表」「開講科目表」は、2014年度以降入学者、2011年度～2013年度入学者で異なります。

1．実技レッスンについて

音楽学部演奏学科で開講されている実技レッスン科目は以下のとおりです。

（1）必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
専攻実技Ⅰ A ～Ⅳ B	45分×15回※	なし	申込時期：履修登録期間 各自 FerrisPassport で履修登録。

※　授業回数15回の中に、実技試験も含まれます。

再履修の方法について

音楽学部教務委員の指示に従ってください。

なお、演奏学科生が「専攻実技Ⅰ A・B ～Ⅳ A・B」を再履修する場合、再履修料として１科目につき100,000円を納入しなければなりません。

（2）選択必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
演奏プロフェッショナルスタディ A,B	15分×15回※	なし	申込時期：履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。
専攻実技特別レッスン	45分×15回	なし	

（3）選択

科目名	時間数	実技料	履修手続
PA 初習副科個人実技 A,B	15分×15回	50,000円	申込時期：履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。
PA 副科個人実技 A,B	30分×15回	100,000円	
PA 教職副科個人実技 A,B	15分×15回	50,000円	
PA 第2専攻個人実技 A,B	45分×15回※	150,000円	申込時期：2年次後期 後期実技試験期間にオーディションを実施。詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。
PA 副科グループ実技 A,B（バレエ）	90分×15回	30,000円	申込時期：履修登録期間 詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。
PA 第2専攻グループ実技（バレエ基礎）A,B	90分×30回	60,000円	
PA 第2専攻グループ実技（バレエ応用）A,B	90分×45回	90,000円	

実技レッスンの出欠席について

① レッスン受講時

「レッスン受講票」の学生サイン欄に必ずサインを記入してください。

② レッスンをやむを得ず欠席する場合

必ず事前にレッスンの開講されている校舎の音楽学部副手室（緑園5号館）または音楽学部共同研究室（山手8号館）に連絡し、同時に担当教員にも連絡してください。

③ レッスンの休講

FerrisPassport に掲示されます。直接担当教員から連絡を受けて、休講掲示がない場合は、音楽学部共同研究室（山手8号館）又は教務課で確認してください。

2．「導入セミナー」（2014年度以降入学者）

1年次前期に全員が履修する必修科目です。

「導入セミナー」の成績評価が不合格となった場合は、翌年度の前期に再履修することになります。

3．2年次修了公開演奏

2年次後期に全員が履修する必修科目です。

（1）実施期間

後期の実技試験期間中に公開演奏会として行います。日程等詳細は掲示により通知します。

（2）注意事項

・「実技試験受験上の注意」に準じます。（p.142「実技試験」参照）

・履修登録は大学が行います。

（3）再履修

修得できなかった場合には、再履修の方法について、学科教務委員の指示を受けてください。

4．ステージ経験を積もう（2014年度以降入学者）

「ステージ経験を積もう」の科目は以下のとおりです。履修する学生はシラバスを参照の上、手続きを行ってください。

科目名	単位	対　象	履修年次
室内楽の夕べ	2	オーディションで選抜された者	34
オーケストラ協演の夕べ	3	オーディションで選抜された者	4
学内公開演奏	1	履修希望者	234
学外公開演奏	1	履修希望者	34
演奏ボランティア	1	履修希望者	234
フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ［スタンダード］	2	「演奏アドヴァンストⅠA,B」「演奏アドヴァンストⅡA,B」履修者のうち、オーディションで選抜された者。	34
フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ［アドヴァンスト］	3		34

5．演奏活動に対して単位が与えられる授業科目

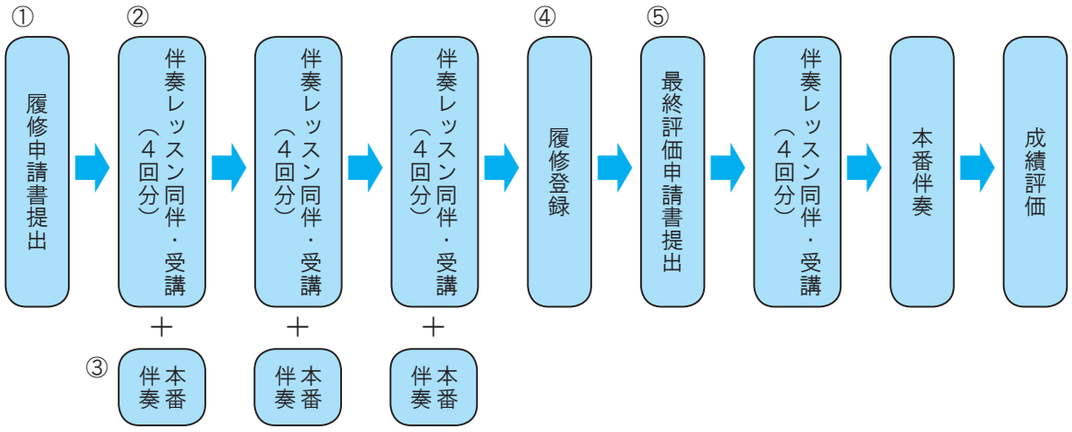
海外・学外における演奏活動、論文や作品の発表、音楽療法、演奏会等の企画・制作・運営等の実習に対して単位が与えられる科目です。

履修する学生はシラバスを参照の上、手続きを行ってください。

科目名	内　容	履修対象
「国内音楽研修」	国内における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	演奏学科
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	音楽芸術学科・演奏学科

6．「伴奏実習」

実技試験（専攻実技）、学内演奏、学内オーディション等において、計4回以上の本番伴奏を行うことにより単位が与えられる授業科目です。履修の流れは、原則として下図のとおりです。



① 「伴奏実習履修申請書」の提出

伴奏実習を開始する学期始めに、「伴奏実習履修申請書」を提出してください。履修申請は、履修可能な年次生でなければできません。

【「伴奏実習履修申請書」提出締切日】

	提出締切日	書類配布・提出窓口
前期	2015年4月17日（金）	音楽学部共同研究室（山手8号館） 音楽学部副手室（緑園5号館）
後期	2015年10月1日（木）	

② 伴奏レッスンの同伴・受講

本番伴奏を行うためには、同一学生・同一教員のもとで、専攻実技レッスン履修者の伴奏者として、4回分のレッスンに同伴し、受講しなければなりません。

1回のレッスン受講につき1枚の「伴奏実習受講カード」（音楽学部共同研究室（山手8号館）、音楽学部副手室（緑園5号館）備付）に、担当教員のサインを受け、その都度音楽学部共同研究室（山手8号館）あるいは音楽学部副手室（緑園5号館）に提出すること。

③ 本番伴奏

本番伴奏を行った後、学科主任の確認印を受けるための「伴奏実習受講カード」を当日中に音楽学部共同研究室（山手8号館）に提出すること。

※同一の実技試験、学内演奏、学内オーディション等において複数の本番伴奏を行った場合は1回と数えます。例えば、後期実技試験で声楽1名、器楽1名の伴奏を行う場合、「伴奏実習」としての伴奏対象者を1名に決定してレッスンを受けます。

④　履修登録

4回目以降、本番伴奏予定学期の履修登録期間内に、各自、履修登録すること。前期、後期を問わず登録が可能です。また、実技試験以外の本番伴奏を含む場合、履修登録の時期が早まることがあります。

⑤　「最終評価申請書」の提出

4回目以降の本番伴奏において、最終評価を行います。ただし、最終評価は実技試験における伴奏のみが対象となります。「曲目提出届」提出期間内に、「最終評価申請書」を音楽学部共同研究室（山手8号館）に提出してください。提出がない場合、「H」評価となり、単位は修得できません。次学期以降に再度履修登録し、次回の実技試験において成績評価を受けることになります。

7．演奏学科の専攻楽器等変更について

演奏学科の専攻楽器等変更を希望する場合は、所定用紙（「演奏学科専攻楽器等変更願」：教務課備付）をもって、所定の期日までに願い出なければなりません（提出窓口：教務課）。選考の上、専攻楽器等の変更が認められることがあります。ただし、願い出が可能な対象は次のとおりです。

選択楽器等	願い出提出時
ヴァイオリン→ヴィオラ ヴィオラ　　→ヴァイオリン	原則として1年次生または2年次生に限る
その他の選択楽器等変更	原則として2年次生に限る

【提出締切日】

2015年10月30日（金）

8．卒業公開演奏

（1）履修登録

「卒業公開演奏」は、通年科目です。履修登録は大学が行います。

（2）実施形態

卒業公開演奏は、「卒業試験公開演奏会」として行います。

（3）注意事項

卒業公開演奏に関する諸事項は、「実技試験受験上の注意」に準じます。（p.142「実技試験」参照）ただし、担当教員が認めた場合、副手を伴奏者とすることができます。

（4）日程

「卒業公開演奏」曲目提出届　提出期間	2015年11月16日（月）～24日（火）
「卒業試験公開演奏会」日程	2016年1月29日（金）・30日（土）

なお、2015年度9月卒業を希望する者の実施期間は次のとおりです。

9月卒業希望者の「卒業公開演奏」日程	前期実技試験期間中（2015年7月31日（金）・8月1日（土）・3日（月））に実施

実技試験等

1．実技試験

実技試験の課題曲発表、試験順番発表等は掲示により行います。

（1）実技試験該当科目

実技試験期間中に学期末試験を行う科目は、以下のとおりです。

区　分	科　目　名
必　　修	専攻実技Ⅰ A・B ～Ⅳ A・B（専攻実技ⅡB、ⅣB を除く） 2年次修了公開演奏、卒業公開演奏
選択必修	副科声楽クラス A,B 演奏プロフェッショナル・スタディ A,B（2011～2013年度入学者） 演奏アドヴァンストⅠ A,B、演奏アドヴァンストⅡ A,B（2014年度以降入学者） PA 第2専攻個人実技 A,B

（2）実技試験に関わる日程・手続き

【実技試験期間・会場】

	期　　間	会　場
前期実技試験	2015年7月31日（金）・8月1日（土）・3日（月）	山手校舎
卒業試験公開演奏会（卒業公開演奏） 4年次対象　後期実技試験	2016年1月29日（金）・30日（土）	山手校舎
後期実技試験	2016年2月9日（火）・10日（水）・12日（金）	山手校舎

実技試験実施までに①から⑥の手順を経ること。これらの日程は、前期5月下旬・後期11月下旬に掲示により通知します。

① 実技試験課題曲発表
② 「曲目提出届」用紙配布
③ 実技試験時間割発表
④ 実技試験演奏順番発表
⑤ 「実技試験曲目提出届」の提出（提出方法、提出先は掲示により確認すること。）
⑥ 実技試験実施

（3）演奏曲目提出

① 実技試験の演奏曲目

「実技試験曲目提出届」（以下「曲目提出届」）に記入の上、「レッスン受講票」とともに担当教員のサインを受け、必ず指定された期日までに提出すること。

なお、「専攻実技Ⅱ B」「専攻実技Ⅳ B」では、レポート提出が課されます。

「曲目提出届」に担当教員のサインを受ける前に、必ずレポートを提出してください。

② 指定された期日までに曲目提出がなかった場合、又は記載に不備があった場合

受験を不許可とすることがあります。

③ 「曲目提出届」記載内容の変更

原則として認めません。

（4）実技試験受験上の注意

① 実技試験の当日、演奏順番に遅れた場合

当日の受験は認めません。ただし、特別な事情により遅刻した者について、学科主任が遅刻理由を正当と認めた場合、当日の受験を許可することがあります。

② 追試験許可理由（p.29「追試験許可理由」参照）に準ずる理由により実技試験を欠席する場合

必ず事前に教務課に連絡すること。

③　試験時間が他の試験科目と重複している場合
　事前に音楽学部副手室（緑園5号館）または音楽学部共同研究室（山手8号館）に申し出て、指示を受けること。

④　試験において伴奏者を必要とする場合
　原則として学生が担当教員の了解の上で交渉し、決定するものとします。ただし、本学教員及び副手を伴奏者とすることはできません。
　伴奏者の氏名等は曲目提出届に必ず記入してから担当教員のサインを得ることになりますが、やむを得ない理由により後から伴奏者を変更する場合は、事前に必ず書面にて、音楽学部共同研究室（山手8号館）・音楽学部副手室（緑園5号館）に届け出ること。

（5）受験保留者
　レッスン回数が規定の回数を満たしていない場合、受験を保留とすることがあります。

2．実技追試験
　病気、その他やむを得ない理由により実技試験を受けられなかった学生は、追試験許可理由のいずれかに該当し、受験資格があると認められた場合に限り、願い出によって追試験を受けることができます。（実技以外の科目の追試験については、pp.28～29「追試験」参照。）
　なお、提出書類は、当該科目試験日に受験できなかったことを証明するものでなければなりません。

（1）実技追試験許可理由
（①～⑦　p.29「追試験許可理由」参照）
⑧　国内外の音楽講習会への参加（当該講習会のプログラム、参加を証明する書類及び関係教員の承諾書を提出）。

（2）受験手続
　実技追試験受験を希望する場合は、次の期日までに「追試験願」を記入の上、証明書類及び受験料（証紙購入）を添えて、教務課または山手事務室に提出しなければなりません。この期日に遅れると、一切受理されません。代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。実技追試験時間割発表日は、手続締切日の翌日となります。
　なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、実技追試験許可者発表日以降に受験料を返還します。

【実技追試験手続締切日】

前期	2015年8月20日（木）
後期（4年次生）	2016年2月3日（水）
後期（1～3年次生）	2016年2月18日（木）

受験料：1科目につき1,000円（p.29「追試験許可理由」②⑥の場合は受験料は不要です。）

（3）追試験日程等
①　実技科目追試験の詳細は、追試験許可者発表時に掲示します。
②　追試験の成績評価は、2割減点されます。
③　追試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

【追試験日程・会場】

	期　　間	会　場
前期	2015年8月29日（土）	山手校舎
後期（4年次生）	2016年2月9日（火）・10日（水）・12日（金）の期間中に実施。	山手校舎
後期（1～3年次生）	2016年2月29日（月）	山手校舎

3．実技再試験

音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格（評価「F」）とされた学生は、願い出て認められた場合に、改めて試験を受けることができます。

（1）再試験実施要領

① 評価は「C」を超えない。

② 再試験の不合格者に対する再試験は行わない。また、再試験について追試験は行わない。

③ 追試験については、再試験を行わない。

（2）受験手続

再試験受験資格者は、「再試験願」を記入の上、受験料（証紙購入）を添えて、教務課または山手事務室に提出しなければなりません。実技再試験許可者発表は、手続締切日の翌日となります。

【再試験手続日程】

	再試験該当者発表日	再試験手続締切日
前期	2015年8月4日（火）	2015年8月20日（木）
後期（4年次生）	2016年2月1日（月）	2016年2月3日（水）
後期（1～3年次生）	2016年2月15日（月）	2016年2月18日（木）

＊日程等詳細は、「実技試験に関わる日程」発表時に確認してください。
＊8月中の事務取扱い時間は、9:00～15:00です。
＊8月中旬の事務室閉鎖期間（事前に掲示で告知）は事務取扱いを行いません。

【再試験日程・会場】

	期　　間	会　場
前期	2015年8月29日（土）	山手校舎
後期（4年次生）	2016年2月9日（火）・10日（水）・12日（金）の期間中に実施。	山手校舎
後期（1～3年次生）	2016年2月29日（月）	山手校舎

受験料：1科目につき3,000円

外国人留学生

外国人留学生の履修

履修の進め方

外国人留学生※のカリキュラムは、原則として一般学生のものに準じます。ただし、共通科目については下記のとおり一部異なる部分があるので注意してください。

※ここでは、大学教育を受ける目的をもって入国し、本学1年次に入学した外国人留学生（私費留学生）を指します。
本学が外国の協定校から一定期間受け入れる学生（受入交換留学生）の履修についてはp.150を見てください。

日本語科目	外国人留学生の日本語運用能力を高めることを目的とします。修得単位は語学科目の単位となります。
日本事情に関する科目	外国人留学生の日本に対する理解を深めることを目的とします。修得単位は基礎教養科目の単位となります。

卒業に必要な単位数

（1）文学部英語英米文学科／英文学科

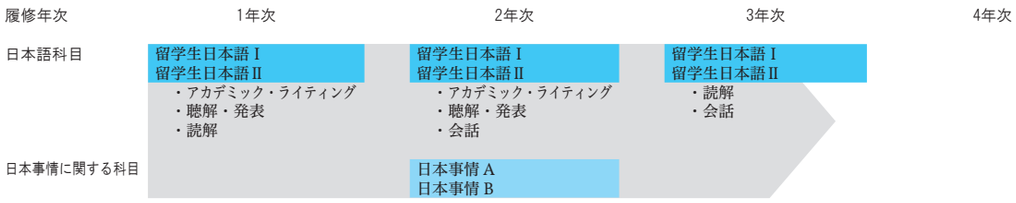
科目区分		単位数	備考
共通	日本事情に関する科目	4	「日本事情 A,B」から4単位*1
	語学	10	「留学生日本語」から10単位
		語学コースによる： ① 12 ② 20	①2か国語履修コース ②英語インテンシブ・コース

（2）文学部日本語日本文学科／日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

科目区分		単位数	備考
共通	日本事情に関する科目	4	「日本事情 A,B」から4単位*1
	語学	10	「留学生日本語」から10単位

＊1　日本語検定試験及び日本語プレイスメント・テストの結果、留学生の日本語能力が非常に高いと留学生科目委員会が認めた場合、必修単位のうち2単位を他の専門科目で読み替えることができます。該当者には、1年次後期以降の学期末に通知がありますので、手続きを行ってください。

留学生日本語カリキュラム・マップ



日本語科目の履修方法

2013年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
留学生日本語	2	2	2	2	2				10

[　] 内の数は、単位数

1年次　前期	1年次　後期	2年次　前期	2年次　後期	3年次　前期
アカデミック・ライティング（小説文・要約の基礎）［1］	アカデミック・ライティング（文章表現）［1］	アカデミック・ライティング（レポート作成演習）［1］	アカデミック・ライティング（論説文読解・要約）［1］	読解（新聞を読む）［1］
聴解・発表（講義聴解・ノートテイキング）［1］	読解（読解ストラテジー養成）［1］	聴解・発表（プレゼンテーション）［1］	会話（コミュニケーション能力養成）［1］	会話（ビジネス日本語）［1］
4単位		4単位		2単位

2011～2012年度入学者

「留学生日本語」必修10単位のうち、1年次前期に4単位、1年次後期に4単位、計8単位を必ず履修してください。

[　] 内の数は、単位数

1年次	2年次	3年次	4年次	卒業に必要な単位数
アカデミック・ライティング［2,2］				4単位
聴解・発表　［1,1］	読解　［1,1］			6単位
会話　［1,1］				
総合　［1,1］				
				10単位

日本語以外の語学科目

文学部英語英米文学科／英文学科

英語科目必修12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）を修得します。

2年次以降は、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行なってください。

1．英語科目の履修

外国人学生は、次のとおり英語科目を履修することができます。

履修の時期	必要な手続き等
1年次前期	希望者は英語スタンダード科目を履修することができます。履修クラスはオリエンテーション時に実施するアンケートに基づいて指定されます。
1年次後期	履修を希望する場合は、「英語科目履修申込書」*1を提出し、1年次6月に英語プレイスメント・テストを受験してください。履修クラスは英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。
2年次前期	履修クラスは語学責任者との履修相談に基づいて指定されます。
2年次後期	2年次6月に「語学履修コース・言語選択届」を提出し、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。履修クラスは英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。

→英語プレイスメント・テストについてはp.58

英語インテンシブ・コースの修了要件

外国人留学生が次頁の表①のとおり、必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した場合、英語インテンシブ・コース修了とします。修了判定は4年次前期までの修得状況に基づいて行われ、4年次後期（9月）に交付される成績通知書から記載されます。その他の取扱いについては、一般学生と同じとします。

なお、1年次でスタンダード科目を履修した場合も、インテンシブ科目の履修が認められるのは2年次以降となります。

＊1 「英語科目履修申込書」について

1年次後期に履修を希望する場合は、1年次6月に「英語科目履修申込書」を以下のとおり提出してください。

期　間	提出先
2015年6月3日（水）～5日（金）	言語センター

① 英語インテンシブ・コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英　語			【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）　[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）　[1]	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅱi（Reading）　[1] 英語Ⅱi（Writing）　[1] 英語Ⅱi（Listening）　[1] 英語Ⅱi（Speaking）　[1] 英語Ⅱi（Language Development）[1] 英語Ⅱi（講読）　[1]

言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
英　語	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅲi（Reading）　[1] 英語Ⅲi（Writing）　[1] 英語Ⅲi（Listening）　[1] 英語Ⅲi（Speaking）　[1] 英語Ⅲi（Language Development）[1]	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅳi（Reading）　[1] 英語Ⅳi（Writing）　[1] 英語Ⅳi（Listening）　[1] 英語Ⅳi（Speaking）　[1] 英語Ⅳi（講読）　[1]	【英語インテンシブ科目】 英語Ⅴi（Reading）　[1] 英語Ⅴi（Speaking）　[1]	

② 2か国語履修コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英　語			【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs（読む・書く）　[1] 英語Ⅰs（聞く・話す）　[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs（読む・書く）　[1] 英語Ⅱs（聞く・話す）　[1]

言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
英　語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs（読む・書く）　[1] 英語Ⅲs（聞く・話す）　[1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs（読む・書く）　[1] 英語Ⅳs（聞く・話す）　[1]		

上記の他に英語e科目を2年次前期から4年次前期までの間に、4単位追加選択履修が必要。

文学部日本語日本文学科／日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

日本語以外の語学を履修する場合、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行ってください。

1．英語科目の履修を希望する場合

外国人学生は、次のとおり英語科目を履修することができます。

履修の時期	必要な手続き等
1年次前期	希望者は英語スタンダード科目を履修することができます。履修クラスはオリエンテーション時に実施するアンケートに基づいて指定されます。
1年次後期	履修を希望する場合は、「英語科目履修申込書」*1を提出し、1年次6月に英語プレイスメント・テストを受験してください。履修クラスは英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。
2年次前期	履修クラスは語学責任者との履修相談に基づいて指定されます。
2年次後期	後期も引き続き履修を希望する場合は、2年次6月に「語学履修コース・言語選択届」を提出し、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。

→英語プレイスメント・テストについてはp.58

2．初習外国語の履修を希望する場合

2年次前期以降、初習外国語の履修を希望する場合は、あらかじめ語学責任者に相談してください。

3．母語の履修

外国人留学生が母語を語学科目の履修言語として選択することは、原則としてできません。特別な事情により履修を希望する場合には、当該言語の語学責任者、指導教員に申し出て、指示にしたがってください。

専門科目の履修方法

専門科目の履修方法については、すべて一般学生と同一です。不明な点がある場合には学科教務委員に相談してください。3・4年次演習（ゼミ）科目は、あらかじめ『履修が望ましい、あるいは必須の語学科目・コース』を定めている場合があります。

受入交換留学生の履修

受入交換留学生は、原則としてすべての共通科目（基礎教養科目、総合課題科目、語学科目）及び専門科目を履修できます。不明な点は、教務課に問い合わせてください。

（1）GPA 制度及び履修登録科目の取り消し制度
受入交換留学生は、この制度は適用されません。

（2）履修者数制限科目
通常科目の登録期間より早い時期に設定された受付期間に手続きを行う必要があります。許可された科目の変更及び取り消しはできません。p.24を参照してください。

（3）語学科目
履修相談で履修する科目・クラスの指定を受けてください。ただし、英語科目は、原則として「英語 e」に限るものとします。

（4）学科選抜科目
あらかじめ履修相談を受けてください。p.24を参照してください。

（5）日本語科目（「留学生日本語Ⅰ・Ⅱ」）及び日本事情に関する科目（「日本事情 A，B」）
受入交換留学生にも配慮して開講されているので、開講科目表を参照の上、積極的に履修してください。日本語科目の履修を希望する場合、必ず日本語プレイスメント・テストを受験してください。

日本語プレイスメント・テストの受験

日本語プレイスメント・テストは、日本語科目のクラス編成（習熟度別）を行うために実施されます。対象者は次のとおりです。必ず受験してください。日程及び詳細は個別に通知します。

【日本語プレイスメント・テスト実施日程】

日　　程	対象者（私費留学生）
2015年3月25日（水）	1年次生（新入生）

単位認定・単位互換

単位の認定

本学への入学以前・入学後在籍中に他大学等で修得した単位及び「実用英語技能検定」等の技能審査に合格した場合は、一定の基準に基づき本学において修得した卒業に必要な単位として認定されます。

認定される単位の上限

学　部　等	単 位 認 定 の 上 限
文学部・国際交流学部・音楽学部（編入学者を除く）	下記の①・②を合わせて60単位まで ①入学前：他大学等で修得した単位＋技能審査 ②入学後：他大学等で修得した単位（含む単位互換、留学）＋技能審査
2年次編入学者	編入学時の一括認定30単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位（含む単位互換、留学）＋技能審査
3年次編入学者	編入学時の一括認定62単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位（含む単位互換、留学）＋技能審査

他大学等で修得した単位の認定基準

他大学等で修得した科目の内容を勘案し、これと同等とみなされる科目区分（基礎教養科目・総合課題科目（キリスト教科目を含む）、語学科目、専門科目（必修・選択必修・選択）、教職科目のいずれか）として認定されます。

ただし、単位認定の種類によって認定除外科目があるので、十分確認してください。

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後在籍中に他大学等での科目等履修によって修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

1．技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり（p.157参照）	
申請先	教務課（緑園）	
申請方法	所定用紙（「単位認定（技能審査等）申請書」：教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：「合格証書」または「スコア・レコード」	
申請期間	2015年度前期分	2015年7月13日（月）～7月17日（金）
	2015年度後期分	2016年1月12日（火）～1月18日（月）
注　意	①　公開テストで取得したスコアに限ります。（TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは認定対象外です。） ②　取得時期は、入学後かつ申請日からさかのぼって１年以内のものに限ります。 ③　一度認定された言語について、あらためて同じ級（又は同レベルのスコア）を取得しても、再び認定はされません。ただし、上位の級（又は上位のスコア）を取得した場合には、すでに認定された分を除いた単位が認定されます。	

2．他大学等における科目等履修による単位認定

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」の単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」 「2年次修了公開演奏」の単位
申請先	教務課（緑園）	
申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ①　履修開始前 「他大学等における科目等履修願」（教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類：科目等履修を行う大学等の履修要項 シラバス等授業内容を示す書類のコピー ②　履修後 上記①の手続により、履修許可を受け、科目等履修を行った上で「単位認定申請書」（教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類：成績証明書、履修要項、シラバス等授業内容を示す書類のコピー	
①の申請期間	2015年度後期履修分	原則として履修開始の2か月前まで ＊新入生の申請期間については、教務課に問い合わせてください。 ＊卒業予定学期における履修は認められません。
	2016年度前期・後期履修分	原則として履修開始の2か月前まで
②の申請期間	教務課に問い合わせてください。	

3．海外の大学への交換・認定留学、セメスター・アブロードによって修得した単位の認定

入学後在学中に交換・認定留学、セメスター・アブロードによって海外の大学等において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
	国際交流学部専門科目	「導入演習」及び「研究入門」「基礎演習」「専門演習」「卒業論文」の単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
申請先	教務課（緑園）	
申請方法	教務課に問い合わせてください。	

4．単位互換制度により修得した単位の認定

次の単位互換制度により修得した単位は、本学以外で修得したその他の単位等の認定とあわせて本学において修得した卒業に必要な単位とみなすことができます。

なお、単位互換制度を利用して履修する単位数は、各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。

(1) 同志社女子大学において修得した単位の認定

国内留学協定に基づき交流学生として同志社女子大学において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」必修相当としての単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」の単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」の単位
申請先	教務課（緑園）	
申請方法・期限	所定用紙（「単位認定申請書」：教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：成績証明書、シラバス等授業内容を示す書類のコピー	
申請期間	教務課に問い合わせてください。	

(2) 放送大学において修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、放送大学の特別聴講学生として履修することができます。

履修・単位認定申請の条件は、次のとおりです。

単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

<table>
<tr><td colspan="2">履修可能学期</td><td colspan="2">以下の学期は単位認定希望の有無に関わらず、一切履修できません。
①入学（編入学）学期
②卒業予定学期（修業年限を満たす学期）
③休学期間
④交換・認定留学期間</td></tr>
<tr><td colspan="2">制度利用にあたっての注意事項</td><td colspan="2">・入学（編入学）した学期は履修できません。
・卒業判定に係る会議までに成績評価を得ることができないため、卒業予定学期は履修できません。
・卒業予定学期に、放送大学が実施する「再試験」制度を利用して合格しても、単位認定対象から除外されます。
・申請の際、本学に納入する授業料とは別に、放送大学での授業料（1科目：11,000円）が必要です。
・放送大学との協定に基づき、本制度を利用して修得できる単位数は、在籍期間を通じて30単位以内とします。
・詳細は、教務課に問い合わせてください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">履修申請方法</td><td colspan="2">次の①→②の順序で手続が必要です。
①所定用紙（「放送大学科目履修・単位認定申請書」：教務課にあります）を教務課（緑園）に提出してください。
放送大学での履修希望科目について、大学側で認定科目の対応の事前審査を行います。
↓
②上記①の事前審査により履修許可を受けた科目について、次の2点を教務課（緑園）に提出してください。
・所定用紙（「放送大学特別聴講学生出願票」：教務課にあります）
・放送大学での授業料（1科目：11,000円）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">手続期間</td><td rowspan="2">2015年度後期</td><td>①</td><td>2015年6月26日（金）まで</td></tr>
<tr><td>②</td><td>2015年7月3日（金）～10日（金）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2016年度前期</td><td>①</td><td>2016年1月8日（金）まで</td></tr>
<tr><td>②</td><td>2016年1月18日（月）～22日（金）</td></tr>
</table>

(3) 横浜市内単位互換制度履修申請方法及び修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、横浜市内単位互換制度参加大学の「単位互換履修生」として履修することができます。履修申請・単位認定については、次のとおりです。

履修を希望する学生は、所定の手続にて申請してください。

履修可能学期	以下の学期は単位認定希望の有無に関わらず、一切履修できません。 ①卒業予定学期（修業年限を満たす学期） ②休学期間 ③交換・認定留学期間
履修申請単位数の上限	協定に基づき、1年間（前期・後期合わせて）に履修申請できる単位数は8単位を上限とします。
申請先	教務課、山手事務室
申請方法・期限	前期および通年開講科目は4月に、後期開講科目は7月にそれぞれ履修申請を受け付けます。詳細は掲示で通知します。
単位認定	教授会で審議の上、認定の可否を決定します。（単位認定についての申請は必要ありません）
単位認定区分	すべて「専門科目（選択）」として認定されます。
2015年度参加大学（12大学）	神奈川大学、関東学院大学、國學院大學、鶴見大学、桐蔭横浜大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、東京都市大学、明治学院大学、横浜国立大学、横浜商科大学、横浜市立大学

入学前に他大学等で修得した単位の認定

1年次対象

本学への入学以前に他大学等で修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

(1) 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり（p.157参照）
申請先	教務課（緑園）
申請方法	所定用紙（「単位認定（技能審査等）申請書」：教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：「合格証書」または「スコア・レコード」
申請期間	2015年7月13日（月）～7月17日（金）
注　意	公開テストで取得したスコアに限ります。(TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは対象外です。)

(2) 他大学等における履修による単位認定

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」
	総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」の単位
申請先	教務課（緑園）	
申請期間	2015年4月2日（木）まで　入学年度前期に限って受け付けます。	

2年次編入・3年次編入学者対象

(1) 技能審査の合格による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の技能審査の合格による単位認定の対象外です。

(2) 他大学における履修による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の修得単位は一括して認定されるので、申請の必要はありません。

キリスト教科目の単位認定

2年次編入・3年次編入学者が本学入学以前に他大学等において修得した「キリスト教」関連科目は、本学における必修相当としては認められません。「選択」相当の認定対象として扱われます。

キリスト教科目関連科目の履修

3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます（p.53参照）。

2年次編入学者にこの措置はありません。

別表

技能審査の合格による単位認定

言　語	検定等の種類		相当する単位				
			10単位	9単位	8単位	6単位	4単位
英　語	実用英語技能検定（日本英語検定協会）				1級	準1級	
	TOEFL（国際教育交換協議会）	Paper-based Test			580点以上	550～579点	500～549点
		Internet-based Test			92点以上	80～91点	61～79点
	TOEIC（国際ビジネスコミュニケーション協会）				900点以上	730～899点	650～729点
フランス語	実用フランス語技能検定（フランス語教育振興協会）		1級	準1級	2級	準2級	3級
ドイツ語	ドイツ語技能検定（ドイツ語文学振興会）		1級		準1級	2級	3級
スペイン語	スペイン語技能検定（日本スペイン協会）		1級		2級		3級
中国語	中国語検定試験（日本中国語検定協会）		1級		準1級	2級	3級
朝鮮語	「ハングル」能力検定（「ハングル」能力検定協会）		1級		2級	準2級	3級

語学検定試験受験料補助制度

上記「技能審査の合格による単位認定」で対象となっている検定を含む指定の語学検定試験を受験した場合、所定の手続きにより、一定額の補助を受けることができます。詳細は FerrisPassport の掲示を確認してください。

「教職課程」「日本語教員養成講座」としての単位認定

本学への入学前または入学後在籍中に他大学等で修得した単位は、教育職員免許状の取得または日本語教員養成講座の修了のための単位として認定されることがあります。この場合の単位認定については、別冊の「教職課程 日本語教員養成講座」を参照してください。

学籍

学　　籍

修業年限及び在学期間

修業年限
　学部の教育課程修了に必要な期間のこと。休学期間を除き4年（8学期）です。

在学期間
　学生として在籍できる期間のこと。休学期間を除き8年を超えることはできません。

→大学ＨＰ　大学学則第9条

2年次編入学者の修業年限
　休学期間を除き3年（6学期）です。
　在学期間は休学期間を除き6年を超えることはできません。

3年次編入学者の修業年限
　休学期間を除き2年（4学期）です。
　在学期間は休学期間を除き4年を超えることはできません。

休　学

　病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合は、次の期日までに所定用紙（「休学願」：教務課にあります。）をもって休学を願い出ることができます。

→大学ＨＰ　大学学則第29条・第30条

休学期間
　前期もしくは後期の1学期、または1年を区分とし、休学期間は通算して4年を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

進級・年次の扱い
　前期または後期の1学期間のみ休学した学生は、翌年4月に自動的に1学年進級します。
　ただし、4年次生になっても、休学期間を除いた在学期間が修業年限を満たさないと卒業はできません。
　1年間継続して休学した場合は、年次が原級にとどまります。

在籍料、授業料等学納金の扱い
　休学者は、学期ごとに授業料及び実習費のそれぞれ半額を在籍料として納入しなければなりません。
　また、施設設備費については、休学中も大学学則第36条の2第2項の規定に従って納入しなければなりません。

→大学ＨＰ　大学学則第36条の2第2項

【休学願の提出期限】

前期（または前期から1年間）休学する場合	2015年5月29日（金）まで
後期（または後期から1年間）休学する場合	2015年11月30日（月）まで

復　学

復学の時期

届け出た休学期間が過ぎると、自動的に復学となります。

ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医との面談を行います。

さらに続けて休学を希望する場合または退学を希望する場合は手続が必要です。休学期間が終了する前に教務課に問い合わせてください。

退　学

事情により退学を希望する場合は、次の期日までに所定用紙（「退学願」：教務課にあります）をもって願い出なければなりません。この場合、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納入していなければ、退学は認められません。

→大学ＨＰ　大学学則第33条

【退学願の提出期限】

前期末に退学する場合	2015年9月30日(水)まで
後期末に退学する場合	2016年3月31日(木)まで

除　籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。

(1) 在学期間を超えて卒業資格を得られない場合
(2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
(3) 通算4年の休学期間を超えて、なお復学できない場合
(4) 死亡した場合
(5) 長期間にわたり行方不明の場合

なお、除籍日以降の履修・成績等はすべて無効となります。

→大学ＨＰ　大学学則第34条

留　学

交換留学又は認定留学の許可を受けた学生は、1年を限度としてその留学期間を、大学学則第9条に定める在学期間として扱います。

ただし、本学の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

→大学ＨＰ　大学学則第28条の2

→pp. 38～44 留学・海外研修・国内留学

転学部・転学科

転学部・転学科を志願する場合は、次の期日までに所定用紙（「転学部・転学科願」：教務課にあります）をもって願い出なければなりません。選考の上、転学部・転学科を認めることがあります。

転学部・転学科した学生の在学期間は、転学部・転学科以前の在学期間と合わせて8年（2年次編入学者は6年、3年次編入学者は4年）を超えることはできません。

→大学ＨＰ　大学学則第31条

【転学部・転学科願の提出期限】 2015年10月2日（金）まで

→大学ＨＰ　転学部・転学科内規

再入学

本学を退学した者又は除籍を受けた者が、在籍していた学科への再入学を志願する場合は、原則として退学または除籍日を含む年度の末日から2年以内に、所定の手続によって願い出なければなりません。教授会の議を経て、再入学を許可することがあります。

なお、再入学の時期は、学年または学期の始めとします。

→大学ＨＰ　大学学則第34条の2

→大学ＨＰ　再入学に関する内規

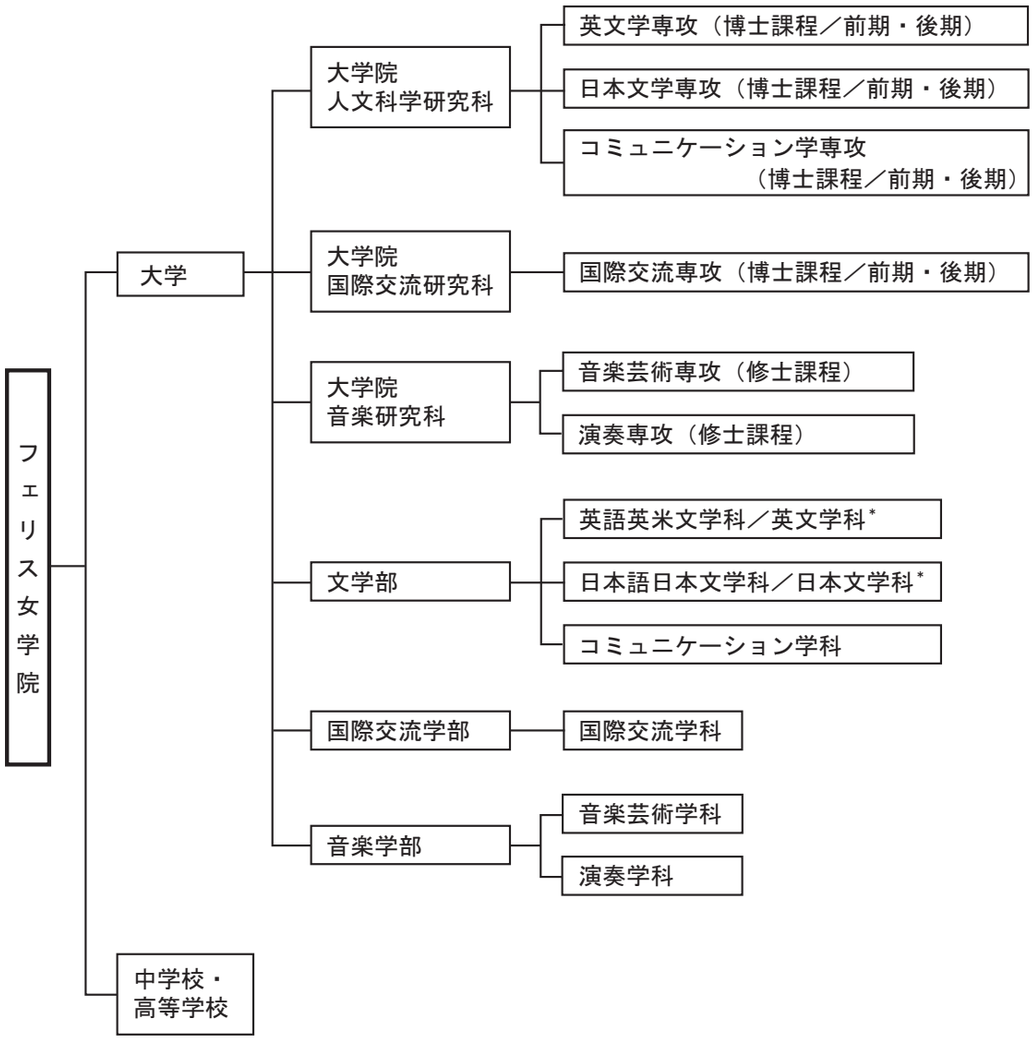
【再入学願の提出期限・提出先】

前期から再入学する場合	1月末
後期から再入学する場合	7月末
提出先	教務課

資料編

資　料　編

組　織



＊2014年度から、学科名称を次のとおり変更しました。
新学科名称が適用されるのは2014年度以降入学者です。
2013年度以前入学者は、卒業するまで旧学科名称を用いることとしています。

英文学科	→	英語英米文学科
日本文学科	→	日本語日本文学科

フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870（明治3）年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E・キダーが始めた私塾にさかのぼります。これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師ヘボン博士のクララ夫人が、1863（文久3）年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。 そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

1870（明治 3）年　メアリー・E・キダー、ヘボン施療所で授業開始。〈フェリス女学院の発祥〉
1875（　　8）年　山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
1887（　　20）年　高等科設置。校舎拡張。
1889（　　22）年　校名を「フェリス和英女学校」とする。講堂「ヴァン・スカイック・ホール」完成。
1899（　　32）年　私立学校令により認可。特別科（高等科に替えて）設置。
1903（　　36）年　特別科を文学科・聖書研究科の2科（18～21歳）とする。英語師範科（16～19歳）設置。
1908（　　41）年　特別科を高等科（英文学部・神学部）に改める。
1919（大正 8）年　東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
1923（　　12）年　関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
1927（昭和 2）年　「専門学校入学者検定規定」による指定認可。
1929（　　4）年　新校舎・カイパー記念講堂竣工。
1930（　　5）年　高等部（英文科・家政科、17～19歳）設置。
1939（　　14）年　戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
1941（　　16）年　校名を「横浜山手女学院」に変更。
1947（　　22）年　専門学校（旧制）3年（英文科・家政科・音楽科）設置。
1950（　　25）年　校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校から短期大学（英文科・家政科・翌年に音楽科）開設。
1965（　　40）年　大学開学。短期大学（英文科）を発展改組し、大学文学部（英文学科・国文学科）開設。
1970（　　45）年　学院創立100周年。
1988（　　63）年　短期大学（家政科）を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。大学緑園キャンパス開設。
1989（平成 1）年　短期大学（音楽科）を発展改組し、大学音楽学部（声楽学科・器楽学科・楽理学科）開設。フェリスホール竣工。
1991（　　3）年　大学院人文科学研究科修士課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
1992（　　4）年　大学院人文科学研究科修士課程地域文化専攻開設。
1993（　　5）年　文学部国文学科を日本文学科に名称変更。
1995（　　7）年　大学院人文科学研究科を博士課程前期・後期に改組。
大学院人文科学研究科博士後期課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
1997（　　9）年　文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部（国際交流学科）開設。

1998（平成10）年	大学院音楽研究科修士課程（声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻）開設。 国際学生交流会館開設（～2008年3月）
2001（　13）年	大学院国際交流研究科博士前期課程・博士後期課程（国際交流専攻）開設。 緑園キャンパス施設拡充（文学部棟、キダーホール・緑園、図書館竣工）。
2002（　14）年	中高新校舎・新カイパー記念講堂竣工。
2004（　16）年	文学部コミュニケーション学科開設。 音楽学部楽理学科を音楽芸術学科に、大学院音楽研究科創作表現専攻を音楽芸術専攻に名称変更。
2005（　17）年	音楽学部演奏学科（声楽学科・器楽学科の改組）開設。
2008（　20）年	大学院人文科学研究科（コミュニケーション学専攻）博士前期課程開設。
2009（　21）年	大学院音楽研究科修士課程演奏専攻（声楽専攻・器楽専攻の改組）開設。
2010（　22）年	学院創立140周年。大学院人文科学研究科(コミュニケーション学専攻)博士後期課程開設。
2014（　26）年	文学部英文学科を英語英米文学科に、文学部日本文学科を日本語日本文学科に名称変更。
2015（　27）年	大学開学50周年。

専任教員一覧〔学部〕

学　長

教　授	秋　岡　　陽

副学長

教　授	荒　井　　真
教　授	谷　　知　子

文学部

英語英米文学科／英文学科

教　授	梅　﨑　　透
教　授	近　藤　存　志
教　授	冨　樫　　剛
教　授	中　川　正　紀
教　授	ディヴッド　バーレイ David BURLEIGH
教　授	福　永　保　代
教　授	藤　本　朝　巳
教　授	向　井　秀　忠
教　授	由　井　哲　哉　（2015年度特別研修）
教　授	饒平名　尚　子
教　授	渡　辺　信　二
准教授	大　畑　甲　太
講　師	カレン　マティソン Karen MATTISON
講　師	小　泉　　泉
講　師	佐　藤　あずさ
講　師	サムエル　ギデオン　ギルダート Samuel Gideon GILDART
講　師	スコット　ウィリアム　スミス Scott William SMITH

日本語日本文学科／日本文学科

教　授	勝　田　耕　起
教　授	佐　藤　裕　子
教　授	島　村　　輝　（2015年度特別研修）
教　授	竹　内　正　彦
教　授	谷　　知　子
教　授	松　田　　浩
教　授	吉　田　弥　生
准教授	田　中　里　奈

コミュニケーション学科

教　授	井　上　恵美子
教　授	小ヶ谷　千　穂
教　授	齋　藤　孝　滋
教　授	潮　村　公　弘
教　授	髙　田　明　典
教　授	諸　橋　泰　樹
教　授	渡　辺　浪　二
准教授	相　澤　　一
准教授	高　橋　京　子

国際交流学部

国際交流学科

教　授	荒　井　　真
教　授	上　原　良　子
教　授	江　上　幸　子
教　授	大　西　比呂志
教　授	大　野　英二郎　（2015年度特別研修）
教　授	筧　　雅　博
教　授	木　曽　順　子
教　授	金（キム）　香（ヒャン）男（ナム）
教　授	佐　藤　　輝
教　授	高　柳　彰　夫
教　授	田　丸　理　砂
教　授	常岡（乗本）せつ子
教　授	寺　尾　隆　吉
教　授	中　塚　次　郎
教　授	春　木　良　且

教　授	原　口　尚　彰
教　授	ヒガ , マルセーロ HIGA,Marcelo G.
教　授	ベンヤミン D. ミドルトン Benjamin Dugald MIDDLETON
教　授	矢　野　久美子
教　授	八　幡　清　文
教　授	横　山　安由美
教　授	横　山　正　樹
教　授	和　田　浩　一
准教授	泉　谷　陽　子
准教授	齊　藤　　直
准教授	新　城　道　彦
准教授	杉之原　真　子
准教授	高　雄　綾　子
准教授	福　島　　仁
准教授	古　内　洋　平
客員講師	王（オウ）　陽（ヨウ）

音楽学部

音楽芸術学科

教　授	立　神　粧　子
教　授	星　野　　聡
准教授	川　本　聡　胤
准教授	瀬　藤　康　嗣
准教授	たかの　舞　俐
准教授	谷　口　昭　弘
講　師	船　場　ひさお

演奏学科

教　授	落　合　　敦
教　授	蔵　田　雅　之
教　授	黒　川　　浩
教　授	土　屋　広次郎
教　授	戸　田　弥　生
教　授	堀　　由紀子
教　授	宮　本　とも子
講　師	井　出　朋　子

センター

留学生センター

講　師	椎　名　渉　子
講　師	奈　良　夕里枝

情報センター

講　師	内　田　奈津子（IT コーディネーター）

役職者

学院長	鈴木　佳秀

学長	秋岡　　陽
副学長	荒井　　真
副学長	谷　　知子
附属図書館長	藤本　朝巳
大学院委員・大学評議員	竹内　正彦
大学院委員・大学評議員	冨樫　　剛
大学院委員・大学評議員	中塚　次郎
大学院委員・大学評議員	田丸　理砂
大学院委員・大学評議員	堀　由紀子
大学院委員・大学評議員	星野　　聡
情報センター長	春木　良且
山手総括主事	立神　粧子
宗教主任	相澤　　一
教職課程主任	渡辺　浪二
教務部長	近藤　存志
学生部長	木曽　順子
海外交流部長	矢野　久美子
入試部長	向井　秀忠
就職部長	上原　良子
留学生センター長	矢野　久美子
言語センター長	近藤　存志
宗教センター長	相澤　　一
ボランティアセンター長	高柳　彰夫

人文科学研究科

研究科長	井上惠美子
英文学専攻主任	中川　正紀
日本文学専攻主任	竹内　正彦
コミュニケーション学専攻主任	潮村　公弘
教務責任者	冨樫　　剛
入試責任者	佐藤　裕子

国際交流研究科

研究科長	大西　比呂志
国際交流専攻主任	和田　浩一
教務責任者	田丸　理砂
入試責任者	佐藤　　輝

音楽研究科

研究科長	立神　粧子
音楽芸術専攻主任	星野　　聡
演奏専攻主任	堀　由紀子
教務責任者	落合　　敦
入試責任者	黒川　　浩

文学部

学部長	井上惠美子
英語英米文学科／英文学科主任	中川　正紀
日本語日本文学科／日本文学科主任	竹内　正彦
コミュニケーション学科主任	潮村　公弘
教務主任	冨樫　　剛
入試主任	佐藤　裕子

国際交流学部

学部長	大西　比呂志
国際交流学科主任	和田　浩一
教務主任	田丸　理砂
入試主任	佐藤　　輝

音楽学部

学部長	立神　粧子
音楽芸術学科主任	星野　　聡
演奏学科主任	堀　由紀子
教務主任	落合　　敦
入試主任	黒川　　浩

教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】：各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文学部	冨樫　剛　教務主任 梅﨑　透　（英語英米文学科／英文学科） 勝田　耕起　（日本語日本文学科／日本文学科） 髙田　明典　（コミュニケーション学科）
国際交流学部	田丸　理砂　教務主任
音楽学部	落合　敦　教務主任 谷口　昭弘、星野　聡　（音楽芸術学科） 土屋広次郎、堀　由紀子　（演奏学科）

【教務責任者】

人文科学研究科	冨樫　剛
国際交流研究科	田丸　理砂
音楽研究科	落合　敦

【科目責任者・語学責任者】：次の各科目に関すること。

基礎教養・総合課題科目	常岡(乗本)せつ子　（全般） 原口　尚彰　（キリスト教） 春木　良且　（情報リテラシー） 高橋　京子　（健康・スポーツ）
教職課程	渡辺　浪二
日本語教員養成講座	田中　里奈
留学生日本語・日本事情科目	椎名　渉子、奈良夕里枝

英語	饒平名　尚子
フランス語	横山　安由美
ドイツ語	高雄　綾子
スペイン語	ヒガ，マルセーロ
中国語	泉谷　陽子
朝鮮語	金　香男

古典ギリシア語 ラテン語 イタリア語	横山　安由美
日本語 （日本語Ⅰ，Ⅱ）	田中　里奈

2015年度の主な制度変更 〔学部関連〕

カリキュラムに関すること

1．文学部英語英米文学科のカリキュラム改革

語学科目の履修を終えた3、4年次生を対象に、さらに英語の力を高められるよう、専任教員による「英米文化専門講読」及びネイティブ教員による科目を新設しました。

科目は豊富に（20科目以上）ありますので、英語インテンシブ・コース修了後の英語学習を充実させることが可能です。

また、夏休み期間にも英語学習を継続できるよう夏季集中セミナーを開講します。

加えて、イギリス・アメリカの文化に関する知識をより充実させるため、2015年度入学者より学科専門科目の必修単位数を従来の38単位から50単位に引き上げました。

→p. 85「英語英米文学科　カリキュラムの説明」

履修に関すること

1．科目ナンバリング制度の導入

各授業科目は、カリキュラム・ポリシーに基づいて設けられています。このカリキュラム上の位置づけ、特徴、レベルを明確にする目的で、科目ナンバリング制を導入します。

ナンバリングは、「所属群」「分野」「レベル」「言語」を表すアルファベットと数字により表示されます。

→開講科目表

2．カリキュラム・マップのバージョンアップ

学部の授業科目群（p.14）にはそれぞれカリキュラム・マップがあります。カリキュラム・マップとは、科目と科目との関係や、学習の順序などを表現するために視覚的に示したもので、学生が履修計画を立てる際の参考にできることを目的としています。

2015年度から、それぞれの授業科目の位置づけをより明確にし、段階性や体系性を理解しやすいように、科目区分の目的、上記1のナンバリングに基づくレベルを表記しました。

→各学科「カリキュラム・マップ」

3．トピック別履修ガイド FerrisNote のサイトリニューアル

授業科目を選択、検索するツールとしては、シラバスのほかに、FerrisNote があります。時間割やキーワードで検索するシラバスと異なり、本学オリジナルのテーマや身につけたい力という観点で科目を紹介する Web サイトです。

2015年度からはさらに科目と出会いやすい仕様にリニューアルしています。FerrisPassport からアクセスできるので、ぜひ活用してください。

4．教職課程の履修条件の追加について

2015年度入学者より次の条件を追加します。

① 2年次修了までに日本語検定3級を取得していること。

② 英語の教育職員免許状取得を希望する者は2年次修了までに次のいずれかを満たすこと。
実用英語技能検定2級以上／ TOEIC520点以上 /TOEFL（iBT）57点以上

学修指導、支援に関すること

1．オフィス・アワー制度の拡大

オフィス・アワーは、学生と教員とのコミュニケーションをより充実したものとするため、学生が教員を訪ねて学修上の質問をしたり、進路等について相談できる制度です。

非常勤講師の先生にも授業前後の休み時間などを利用して相談することができます。

→p. 16「オフィス・アワー」

2．語学検定試験の受験料補助

学部生が学外の語学検定試験を受験する場合、所定の手続きにより受験料の一部が補助されるようになりました。2014年1月以降に受験した試験が対象となります。

→p. 157「語学検定試験」

成績に関すること

1．卒業延期となった場合の「卒業論文」等の成績評価

「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業演奏」「卒業プロジェクト」の評価が合格であっても、卒業判定の結果、卒業の資格を得られなかった場合、2014年度までは「評価取消し」または「評価保留」としていましたが、2015年度から卒業判定結果によらず、科目としての評価を確定することとし、「評価取消し」「評価保留」とはしないことになりました。2015年度以降に提出される「卒業論文」等に対して適用されます。

授業科目の改廃　（別冊「学部開講科目表」参照）

〔　〕内は単位数

1　文学部英語英米文学科／英文学科専門科目

新設（2014年度入学者）

イギリス研究入門１	〔2〕
イギリス研究入門２	〔2〕
イギリス研究入門３	〔2〕
イギリス研究入門４	〔2〕
イギリス研究入門５	〔2〕
アメリカ研究入門１	〔2〕
アメリカ研究入門２	〔2〕
アメリカ研究入門３	〔2〕
アメリカ研究入門４	〔2〕
英語学研究入門１	〔2〕
英語学研究入門２	〔2〕
英米文化専門講読１	〔2〕
英米文化専門講読２	〔2〕
英米文化専門講読３	〔2〕
英米文化専門講読４	〔2〕
英米文化専門講読５	〔2〕
英米文化専門講読６	〔2〕
英米文化専門講読７	〔2〕
英米文化専門講読８	〔2〕
英米文化専門講読９	〔2〕
英米文化専門講読10	〔2〕
英米文化専門講読11	〔2〕
英米文化発展ゼミ	〔2〕
イギリス史３	〔2〕
イギリスの思想と宗教	〔2〕
現代イギリス論	〔2〕
アメリカ史１	〔2〕
アメリカ史２	〔2〕
アメリカの文化	〔2〕
現代アメリカ論１	〔2〕
現代アメリカ論２	〔2〕
イギリス文学史１（詩）	〔2〕
イギリス文学史２（劇）	〔2〕
イギリス文学史３（小説）	〔2〕
イギリス詩１	〔2〕
イギリス詩２	〔2〕
イギリス詩３	〔2〕
イギリス演劇１	〔2〕

イギリス演劇２	〔2〕
イギリス演劇３	〔2〕
イギリス小説１	〔2〕
イギリス小説２	〔2〕
イギリス小説３	〔2〕
イギリス伝承文学３	〔2〕
イギリス伝承文学４	〔2〕
アメリカ詩１	〔2〕
アメリカ詩２	〔2〕
アメリカ小説１	〔2〕
アメリカ小説２	〔2〕
英米文化特論２	〔2〕
英米文化特論３	〔2〕
英米文化特論４	〔2〕
英米文化特論５	〔2〕
英米文化特論６	〔2〕
英語圏の映画と映像３	〔2〕
英語圏の映画と映像４	〔2〕
英語学１	〔2〕
英語学２	〔2〕
English Linguistics 1	〔2〕
English Linguistics 2	〔2〕
英語と社会・文化２	〔2〕
Thought and Expression in English	〔2〕
英語学特論２	〔2〕
Academic Writing 1	〔2〕
Academic Writing 2	〔2〕
Global Issues 1	〔2〕
Global Issues 2	〔2〕
Business Communication 1	〔2〕
Business Communication 2	〔2〕
Focus on Listening and Reading 1	〔2〕
Focus on Listening and Reading 2	〔2〕
Writing Workshop 1	〔2〕
Writing Workshop 2	〔2〕
Academic Skills 1	〔2〕
Academic Skills 2	〔2〕
英語集中セミナー１	〔1〕
英語集中セミナー２	〔1〕
文学部とキャリア	〔2〕

廃止（2014年度入学者）

アメリカ研究入門	〔4〕
イギリス研究入門	〔4〕
英米文学研究入門	〔4〕
英語文化研究入門	〔4〕
英語学研究入門	〔4〕
アメリカを読み解く	〔2〕
イギリスを読み解く	〔2〕
英語の実像を探る	〔2〕
英語文献を読み解く	〔2〕
現代アメリカ論	〔4〕
アメリカの思想・宗教Ｂ	〔2〕
アメリカの文化Ａ	〔2〕
アメリカの文化Ｂ	〔2〕
アメリカ史	〔4〕
アメリカン・スタディーズ	〔2〕
イギリスの思想・宗教Ａ	〔2〕
イギリスの思想・宗教Ｂ	〔2〕
イギリス文化論総説Ｂ	〔2〕
英語のさまざまな側面Ａ	〔2〕
英語のさまざまな側面Ｂ	〔2〕
英語のしくみを知るＡ	〔2〕
英語のしくみを知るＢ	〔2〕
時事英語研究Ａ	〔2〕
時事英語研究Ｂ	〔2〕
Academic Writing A	〔2〕
Academic Writing B	〔2〕
Global Issues A	〔2〕
Global Issues B	〔2〕
Internet English A	〔2〕
Internet English B	〔2〕
Teaching Japanese Language A	〔2〕
Teaching Japanese Language B	〔2〕
Ferris Special English Program	〔2〕
イギリス文学史Ａ	〔2〕
イギリス文学史Ｂ	〔2〕
英米文学特論Ａ	〔2〕
英米文学特論Ｂ	〔2〕
アメリカ小説を読むＡ	〔2〕
アメリカ小説を読むＢ	〔2〕
イギリス小説を読むＡ	〔2〕
イギリス小説を読むＢ	〔2〕
アメリカ詩の世界Ａ	〔2〕
アメリカ詩の世界Ｂ	〔2〕
イギリス詩の世界Ａ	〔2〕
イギリス詩の世界Ｂ	〔2〕
イギリス演劇の世界Ａ	〔2〕
イギリス演劇の世界Ｂ	〔2〕
英語圏文学Ａ	〔2〕

新設（2015年度以降入学者）

Ｒ＆Ｒ（入門ゼミ）	〔1〕
英米文化基礎ゼミ	〔1〕
イギリス研究入門１	〔2〕
イギリス研究入門２	〔2〕
イギリス研究入門３	〔2〕
イギリス研究入門４	〔2〕
イギリス研究入門５	〔2〕
アメリカ研究入門１	〔2〕
アメリカ研究入門２	〔2〕
アメリカ研究入門３	〔2〕
アメリカ研究入門４	〔2〕
英語学研究入門１	〔2〕
英語学研究入門２	〔2〕
英米文化専門講読１	〔2〕
英米文化専門講読２	〔2〕
英米文化専門講読３	〔2〕
英米文化専門講読４	〔2〕
英米文化専門講読５	〔2〕

英米文化専門講読６	〔2〕
英米文化専門講読７	〔2〕
英米文化専門講読８	〔2〕
英米文化専門講読９	〔2〕
英米文化専門講読10	〔2〕
英米文化専門講読11	〔2〕
Academic Writing 1	〔2〕
Academic Writing 2	〔2〕
Global Issues 1	〔2〕
Global Issues 2	〔2〕
Business Communication 1	〔2〕
Business Communication 2	〔2〕
Literature and Culture 1	〔2〕
Literature and Culture 2	〔2〕
English for Children 1	〔2〕
English for Children 2	〔2〕
英米文化発展ゼミ	〔2〕
イギリス史１	〔2〕
イギリス史２	〔2〕
イギリス史３	〔2〕
イギリスの政治と社会１	〔2〕
イギリスの政治と社会２	〔2〕
イギリスの思想と宗教	〔2〕
イギリスの文化	〔2〕
現代イギリス論	〔2〕
アメリカ史１	〔2〕
アメリカ史２	〔2〕
アメリカの政治と社会１	〔2〕
アメリカの政治と社会２	〔2〕
アメリカの思想と宗教	〔2〕
アメリカの文化	〔2〕
現代アメリカ論１	〔2〕
現代アメリカ論２	〔2〕
カナダの社会と文化	〔4〕
オーストラリアの社会と文化１	〔2〕
オーストラリアの社会と文化２	〔2〕
イギリス文学史１（詩）	〔2〕
イギリス文学史２（劇）	〔2〕
イギリス文学史３（小説）	〔2〕
イギリス詩１	〔2〕
イギリス詩２	〔2〕
イギリス詩３	〔2〕
イギリス演劇１	〔2〕
イギリス演劇２	〔2〕
イギリス演劇３	〔2〕
イギリス小説１	〔2〕
イギリス小説２	〔2〕
イギリス小説３	〔2〕
イギリス伝承文学１	〔2〕
イギリス伝承文学２	〔2〕
イギリス伝承文学３	〔2〕
イギリス伝承文学４	〔2〕
イギリス文化史	〔2〕
イギリスの文化と芸術１	〔2〕
イギリスの文化と芸術２	〔2〕

アメリカ文学史	〔2〕
アメリカ詩１	〔2〕
アメリカ詩２	〔2〕
アメリカ演劇１	〔2〕
アメリカ演劇２	〔2〕
アメリカ小説１	〔2〕
アメリカ小説２	〔2〕
キリスト教と英米文学１	〔2〕
キリスト教と英米文学２	〔2〕
英米文化特論１	〔2〕
英米文化特論２	〔2〕
英米文化特論３	〔2〕
英米文化特論４	〔2〕
英米文化特論５	〔2〕
英米文化特論６	〔2〕
英米芸術史	〔2〕
英語圏の映画と映像１	〔2〕
英語圏の映画と映像２	〔2〕
英語圏の映画と映像３	〔2〕
英語圏の映画と映像４	〔2〕
英語の歴史１	〔2〕
英語の歴史２	〔2〕
英語学１	〔2〕
英語学２	〔2〕
English Linguistics 1	〔2〕
English Linguistics 2	〔2〕
英語と社会・文化１	〔2〕
英語と社会・文化２	〔2〕
日英語の発想と表現	〔2〕
Thought and Expression in English	〔2〕
英語学特論１	〔2〕
英語学特論２	〔2〕
英語の発音１	〔2〕
英語の発音２	〔2〕
翻訳技法１	〔2〕
翻訳技法２	〔2〕
通訳技法１	〔2〕
通訳技法２	〔2〕
同時通訳技法１	〔2〕
同時通訳技法２	〔2〕
Focus on Listening and Reading 1	〔2〕
Focus on Listening and Reading 2	〔2〕
Writing Workshop 1	〔2〕
Writing Workshop 2	〔2〕
Academic Skills 1	〔2〕
Academic Skills 2	〔2〕
英語集中セミナー１	〔1〕
英語集中セミナー２	〔1〕
カルチュラルスタディーズA	〔2〕
カルチュラルスタディーズB	〔2〕
古典と表象文化A	〔2〕
古典と表象文化B	〔2〕
テクスト生成と批評A	〔2〕
テクスト生成と批評B	〔2〕
ポピュラーカルチャーA	〔2〕

ポピュラーカルチャーB	〔2〕
声の文化と文字の文化A	〔2〕
声の文化と文字の文化B	〔2〕
ジェンダーフェミニズム批評A	〔2〕
ジェンダーフェミニズム批評B	〔2〕
児童文学論A	〔2〕
児童文学論B	〔2〕
キリスト教と文学	〔2〕
文学部とキャリア	〔2〕
英米文化専門ゼミA	〔1〕
英米文化専門ゼミB	〔1〕
英米文化卒論ゼミA	〔1〕
英米文化卒論ゼミB	〔1〕
卒業論文	〔6〕
Summer Abroad (UK)	〔2〕
Summer Abroad (US)	〔2〕
Field Study 1	〔1〕
Field Study 2	〔1〕

2　文学部日本語日本文学科／日本文学科専門科目

新設（2012～2013年度入学者）

日本語教育研究の方法	〔2〕
文学部とキャリア	〔2〕

3　文学部コミュニケーション学科専門科目

新設

フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ	〔2〕
日本語音声とコミュニケーション	〔2〕
舞踊の文化人類学	〔2〕
グローバル化する人の移動の社会学	〔2〕
コミュニケーションスキルトレーニングの技法	〔2〕
文学部とキャリア	〔2〕

4　国際交流学部国際交流学科専門科目

新設（2007～2013年度入学者）

イギリス史３	〔2〕
現代イギリス論	〔2〕
イギリスの思想と宗教	〔2〕
アメリカの文化	〔2〕
アメリカ史A	〔2〕
アメリカ史B	〔2〕
現代アメリカ論A	〔2〕
現代アメリカ論B	〔2〕

廃止（2007～2013年度入学者）

イギリスの思想・宗教A	〔2〕
イギリスの思想・宗教B	〔2〕
イギリス文化論総説B	〔2〕
アメリカ史	〔4〕
アメリカの思想・宗教B	〔2〕
現代アメリカ論	〔4〕

上記の変更に関わらず、2014年度入学者が履修済みの「イギリス史１」「イギリス史２」「イギリスの文化」「アメリカの思想・宗教」については、従来どおり成績通知書、成績証明書では「イギリス史Ａ」「イギリス史Ｂ」「イギリス文化論総説Ａ」「アメリカの思想・宗教Ａ」と表記されます。

新設（2014年度以降入学者）

現代アメリカ論A	〔2〕
現代アメリカ論B	〔2〕
イギリス史１	〔2〕
イギリス史２	〔2〕
イギリス史３	〔2〕
現代イギリス論	〔2〕
イギリスの思想と宗教	〔2〕
イギリスの文化	〔2〕
アメリカの文化	〔2〕
アメリカ史A	〔2〕
アメリカ史B	〔2〕
アメリカの思想・宗教	〔2〕

廃止（2014年度以降入学者）

現代アメリカ論	〔4〕
イギリス史A	〔2〕
イギリス史B	〔2〕
イギリスの思想・宗教A	〔2〕
イギリスの思想・宗教B	〔2〕
イギリス文化論総説A	〔2〕
イギリス文化論総説B	〔2〕
アメリカ史	〔4〕
アメリカの思想・宗教A	〔2〕
アメリカの思想・宗教B	〔2〕

5　音楽学部音楽芸術学科

新設（2008・2009・2010年度入学者）

映画・舞台音楽論１	〔2〕
映画・舞台音楽論２	〔2〕

廃止（2008・2009・2010年度入学者）

映画・舞台音楽論	〔2〕

新設（2011年度以降入学者）

映画・舞台音楽論１	〔2〕
映画・舞台音楽論２	〔2〕

廃止（2011年度以降入学者）

映画・舞台音楽論	〔2〕

6　音楽学部演奏学科

新設（2011・2012・2013年度入学者）

ＰＡ教職副科個人実技A	〔1〕
ＰＡ教職副科個人実技B	〔1〕

新設（2014年度以降入学者）

ＰＡ教職副科個人実技A	〔1〕
ＰＡ教職副科個人実技B	〔1〕

索　　引

あ

アカデミック・アドバイザー制度…… 16
英語プレイスメント・テスト…… 58
インテンシブ・コース修了…… 60
オフィス・アワー…… 16

か

海外音楽研修…… 140
海外短期研修…… 38
外国人留学生…… 146
学位…… 35
学生提案科目…… 51
学籍…… 160
カリキュラム・マップ
…… 50,55,87(英文'15),88(英文'14),95,105,118,130,137
カリキュラム・ポリシー…… 3
基礎教養科目…… 48
技能審査…… 157
キャリア実習（短・長期インターンシップ）… 52,54
休学…… 160
休講…… 10
教務主任・教務委員…… 170
キリスト教科目…… 53
9月卒業 …… 36
クラス指定…… 20
欠席
　授業欠席…… 12
　試験欠席…… 29
交換留学…… 39
語学科目…… 56
　コース選択…… 57
　コース変更…… 59
　語学責任者…… 170
国内留学…… 43

さ

在学期間…… 160
再試験…… 144
再入学…… 162
再履修…… 20
試験…… 27
実技試験…… 142
実技追試験…… 143
実技レッスン…… 138
社会調査士資格認定…… 107
修業年限…… 160
集中講義…… 22
授業（休講・補講・欠席）…… 10
除籍…… 161
人材養成目的…… 3
成績評価…… 32
　GPA 制度 …… 32
セメスター・アブロード…… 41
卒業…… 35
卒業演奏…… 141
卒業再試験…… 30
卒業制作…… 35
卒業プロジェクト…… 35
卒業論文…… 35
総合課題科目…… 49

た

退学…… 161
単位…… 15
単位互換…… 154
単位の認定…… 152
追試験…… 29
ディプロマ・ポリシー…… 3
転学部・転学科…… 162

な

日本事情…… 146
日本語プレイスメント・テスト…… 150
認定留学…… 41

は

復学…… 161
不正行為…… 28
プログラム制…… 115
補講…… 12
ボランティア活動…… 54

ら

留学…… 39
レポート試験…… 28
レポート追受理…… 30

2015年度　フェリス女学院大学学生要覧

2015年4月1日　発行

発　　行　　フェリス女学院大学
緑園校舎　〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3
TEL ０４５－８１２－８２１１(代表)
山手校舎　〒231-8651 横浜市中区山手町37
TEL ０４５－６８１－５１５０(代表)

印　　刷　　株式会社 野毛印刷社

フェリス女学院大学公式webサイト　http://www.ferris.ac.jp/